

[保健福祉事業]

医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係る
Q O L 向上等のための調査研究事業報告書

【平成28事業年度報告書】

平成30年3月

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

はじめに

独立行政法人医薬品医療機器総合機構の保健福祉事業の一環として、平成17年度に実施した医薬品の副作用による健康被害実態調査の結果を踏まえ、障害者のための一般施策では必ずしも支援が十分でないと考えられる重篤かつ希少な健康被害者のQOLの向上策及び必要なサービス提供の在り方等を検討するための資料を得るため、健康被害を受けられた方々の日常生活の様々な取り組み状況を報告していただく調査研究事業を実施するにあたり、有識者の方からご意見をいただくために平成18年4月に「医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係るQOL向上等のための調査研究班」を設置しました。

本報告書は、平成28年4月から平成29年3月までの日常生活の状況等について調査を実施してその結果をとりまとめたものです。

日常生活の状況等の調査の実施に当たっては、健康被害を受けた方や家族の方々のご協力をいただき心から感謝を申し上げます。

〔医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に
係るQOL向上等のための調査研究班〕

小澤	温	筑波大学大学院・人間総合科学研究科 教授（生涯発達専攻）
高橋	孝雄	慶應義塾大学医学部教授（小児科学）
坪田	一男	慶應義塾大学医学部教授（眼科学）
松永	千恵子	国際医療福祉大学医療福祉学部教授

目 次

I 医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係るQOL向上等のための調査 研究事業の実施概要	1
II 生活状況調査結果のとりまとめについて	
1. 回答状況	3
2. 基本情報	3
3. 調査結果の概要	
(1) A票(福祉サービスの利用状況についての調査)からみた生活状況の概要	
○ 使用している点眼液について	4
○ 福祉サービスの利用状況について	5
○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況について	6
○ 介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況	9
(2) B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要	
① 外出の頻度	15
② 外出に当たって困ること・不満に思うことの有無	19
③ 社会参加・社会活動等の状況	30
④ 屋内での生活における工夫の有無	37
⑤ 日常生活について	48
⑥ 主たる介護者の状況について	70
主たる介護者の健康状態	70
⑦ 介護をしていく中で困ったことの有無	75
⑧ 主たる介護者を支えるものの有無	86
⑨ 介護者の社会参加・社会活動等の状況	89
⑩ 新しい発見や気分転換などの有無	96
(3) C票(過去1年間の日常生活状況調査)からみた生活状況の概要	
○ 治療状況	99
○ 過去1年間の日常生活について	105
○ 福祉サービスについて	122
○ 必要な情報について	123
III むすび	125

IV	参考資料	126
V	用語の解説	161
VI	保健福祉事業の一環として実施する調査研究報告書(生活状況調査票)	165
VII	健康状態報告書(診断書様式)	196

**I 医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係る
QOL向上等のための調査研究事業の実施概要**

医薬品による重篤かつ希少な健康被害に係る QOL向上等のための調査研究事業の実施概要

1. 目的

独立行政法人医薬品医療機器総合機構の保健福祉事業の一環として、平成17年度に実施した医薬品の副作用による健康被害実態調査の結果を踏まえ、障害者のための一般施策では必ずしも支援が十分でないと考えられる重篤かつ希少な健康被害者のQOLの向上策及び必要なサービス提供の在り方等を検討するための資料を得ることを目的として、調査研究事業を実施した。

2. 事業内容

健康被害を受けられた方々の日常生活の様々な取り組み状況等について、調査票等により報告していただき、その内容について集計と解析・評価を行う。

(1) 事業実施時期

平成28年4月1日から平成29年3月31日

(2) 調査研究対象者

医薬品の副作用により重篤(障害年金受給相当)かつ希少な健康被害(ライ症候群及び重度のSJS)を受けた者

(3) 調査票の種別

ア. 生活状況調査票(本人記入用)

A票(福祉サービスの利用状況についての調査)

B票(社会活動を中心とした調査)

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)

イ. 健康状態報告書(医師記入用)

D票(調査研究事業用診断書)

①医薬品副作用被害救済制度における障害年金等受給者は、現況届に添付する診断書の写しを健康状態報告書として取り扱う。

②医薬品副作用被害救済制度の障害年金等受給者以外の者はD票(本

調査研究事業用診断書)を提出する。

(4) 調査票の記入時期及び提出時期

調査票	記 入 時 期	提 出 時 期
A票	毎月の状況を末日に記入する。	3ヶ月分まとめて 7月、10月、1月、4月の各月の10日までに提出
B票	3ヶ月間の状況を四半期毎の(6月、9月、12月、3月)末日に記入する。	7月、10月、1月、4月の各月の10日までに提出
C票	1年間の状況を年1回3月末日に記入する。	4月10日までに提出
D票	年1回12月の健康状態を医師が記入する。	1月10日までに本人が提出

II 生活状況調査結果のとりまとめについて

生活状況調査結果のとりまとめについて

1. 回答状況（各四半期共通）

各四半期における調査への回答状況（回収率等）は、

- 第1・四半期：76名中58名（回収率76.3%）うちライ症候群：8名、SJS：50名
 - 第2・四半期：75名中56名（回収率74.7%）うちライ症候群：7名、SJS：49名
 - 第3・四半期：75名中55名（回収率73.3%）うちライ症候群：8名、SJS：47名
 - 第4・四半期：75名中55名（回収率73.3%）うちライ症候群：7名、SJS：48名
- である。以下、特段の記載がない限り、各四半期の集計に当たっての母数は上記のとおり。
また、割合等の集計結果は端数処理（四捨五入）の関係で合計が一致しない場合がある。

2. 基本情報

表－1 男女・年代別（人数）

	10代以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	合計
男	0	2	3	1	9	5	5	4	1	30
女	0	2	1	3	8	4	8	4	1	31
合計	0	4	4	4	17	9	13	8	2	61

表－2 男女・疾病別（人数）

	ライ症候群	SJS	合計
男	4	26	30
女	5	26	31
合計	9	52	61

表－3 疾病・年代別（人数）

	10代以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	合計
ライ症候群	0	4	2	2	1	0	0	0	0	9
SJS	0	0	2	2	16	9	13	8	2	52
合計	0	4	4	4	17	9	13	8	2	61

3. 調査結果の概要

(1) A 票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

■ 使用している点眼液について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○SJS の健康被害者が現在使用している点眼液は、表 1-1 のとおり。なお、各月の延べの使用人数を示している。

表 1-1 現在使用している点眼液

点眼液	投与	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
① ソフトサンティア	両眼	21	20	20	19	19	19	21	24	24	19	19	19	20.3
	右眼	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0.3
	左眼	3	3	2	2	2	2	1	1	1	2	2	2	1.9
	合計	24	23	22	21	21	21	23	25	25	22	22	22	22.6
② クラビット	両眼	8	8	8	8	8	8	10	10	11	10	10	11	9.2
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
	左眼	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
	合計	9	9	9	9	9	9	11	11	12	11	11	13	10.3
③ ヒアレイン	両眼	3	3	3	2	2	2	3	4	3	5	5	5	3.3
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0.1
	合計	3	3	3	2	2	2	4	4	3	5	5	5	3.4
④ フルメトロン	両眼	17	16	16	16	16	16	19	18	18	19	19	19	17.4
	右眼	3	3	3	3	3	3	3	4	4	2	2	2	2.9
	左眼	3	3	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1.8
	合計	23	22	22	21	21	21	23	23	23	22	22	22	22.1
⑤ 0.1%ヒアレインミニ	両眼	18	17	17	18	18	18	18	18	17	18	18	18	17.8
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	1.9
	合計	20	19	19	20	20	20	19	20	19	20	20	20	19.7
⑥ リンデロン	両眼	3	4	3	3	3	3	3	4	4	4	3	3	3.3
	右眼	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0.5
	左眼	1	0	0	0	0	0	3	2	1	1	1	1	0.8
	合計	5	5	4	4	4	4	6	6	5	5	4	4	4.7
⑦ 0.3%ヒアレインミニ	両眼	7	7	7	7	7	7	9	10	10	9	9	9	8.2
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0.5
	合計	8	8	8	8	8	8	9	10	10	9	9	9	8.7
⑧ 血清点眼	両眼	8	7	7	7	7	7	8	8	8	8	8	8	7.6
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	8	7	7	7	7	7	8	8	8	8	8	8	7.6
⑨ その他眼科処方薬	両眼	48	48	46	47	47	46	55	54	52	54	54	57	50.7
	右眼	7	7	7	7	7	7	5	5	5	4	4	4	5.8
	左眼	9	10	10	10	10	10	9	9	8	6	6	6	8.6
	合計	64	65	63	64	64	63	69	68	65	64	64	67	65.0
⑩ 涙点プラグ	両眼	4	5	5	5	5	4	6	6	5	8	8	8	5.8
	右眼	3	2	2	1	1	1	0	0	0	1	1	1	1.1
	左眼	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0.5
	合計	7	7	7	7	7	6	7	7	6	9	9	9	7.3
SJS回答者数		50	50	50	49	49	49	47	47	47	48	48	48	—
点眼液投与患者数		48	47	46	45	45	45	45	45	46	45	46	46	—

□点眼液を使用している平均延べ人数では、ソフトサンティアが 23.6 人、フルメトロンが 22.1 人、0.1%ヒアレインミニが 19.7 人、クラビットが 10.3 人となっている

■ 福祉サービスの利用状況について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○ 福祉サービスの利用状況は、以下のとおり。

表 1-2 福祉サービスの月別の利用状況

利用状況(人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
①障害者総合支援法に基づく福祉サービス	18	17	17	16	16	16	16	16	16	19	19	18	17.0
②介護保険制度に基づく福祉サービス	4	4	4	3	3	3	3	4	4	6	6	6	4.2
③上記①②以外の福祉サービス	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0

□ 利用者数は「①障害者総合支援法に基づく福祉サービス」は延べ 204 人で、平均では毎月 17.0 人が、「②介護保険制度に基づく福祉サービス」は延べ 50 人で、平均では毎月 4.2 人が、「③上記①②以外の福祉サービス」は延べ 60 人で、平均では毎月 5.0 人が利用している

○ 「③上記①②以外の福祉サービス」の主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 世田谷区緊急介護人制度
- ・ 横浜市福祉特別乗車券の一部個人負担による支給
- ・ 民間の介護支援事業所からケアマネージャーによる毎月 1 回の訪問や相談を行う。
- ・ ベッド、車椅子、テーブル、スライディングボードなど介護用品の貸し出しをうけていました。
- ・ 透析治療をうけている病院が運営をする介護支援事業所からケアマネージャーの月 1 回の訪問や相談してました。
- ・ 透析治療をうけている病院が運営をする介護支援事業所からケアマネージャーの月 1 回の訪問や相談をうけていました。
- ・ ベッド、車椅子、テーブル、スライディングボードなど介護用品の貸し出しをうけていました。
- ・ ボランティアによる点字指導
- ・ 同行援護（外出）
訪問介護（家事、身体）
- ・ 音訳サービス
在宅訪問によるパソコンサポート 在宅訪問による調理訓練
- ・ サピエ図書
- ・ 横浜市福祉特別乗車券の支給（有料）
- ・ 音訳サービス
- ・ 一部個人負担のある横浜市福祉特別乗車券の支給

■ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況は、以下のとおり。

○ なお、満足度の点数は、「不満」～「満足」を以下の4段階で評価しており、

- ・ 満足： 4点
- ・ やや満足： 3点
- ・ やや不満： 2点
- ・ 不満： 1点

の点数となっている。

① 同行援護

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、同行援護の利用状況は、表1-3のとおり。

表1-3 同行援護の月別の利用状況

同行援護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	12	10	11	10	10	10	14	12	10	13	12	12	11.3
平均利用日数（日）	7.2	7.3	7.5	7.9	7.9	7.9	6.9	7.2	7.8	6.9	6.6	7.7	7.4
満足度平均（4点満点）	3.3	3.6	3.4	3.3	3.3	3.3	3.5	3.4	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4

- 利用者数は延べ136人で、平均では毎月11.3人が利用している
- 平均利用日数は月に7.4日となっている
- サービスに対する満足度は平均すると3.4点となっている
- 満足度が高い理由としては「行動範囲が広がった」などをあげている

② 就労移行支援

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、就労移行支援の利用状況は、表1-4のとおり。

表1-4 就労移行支援の月別利用状況

就労移行支援	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0.2
平均利用日数（日）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.0	4.0	-	4.0
満足度平均（4点満点）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.0	2.0	-	2.0

- 利用者数は延べ2人で、1月、2月にそれぞれ1人が利用している
- 平均利用日数は月に4.0日となっている
- サービスに対する満足度は平均2.0点となっている

③ 就労継続支援 A 型

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、就労継続支援 A 型の利用状況は、表 1-5 のとおり。

表 1-5 就労継続支援 A 型の月別の利用状況

就労継続支援A型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平均利用日数（日）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
満足度平均（4点満点）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

本年度の利用者はなかった

④ 就労継続支援 B 型

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、就労継続支援 B 型の利用状況は、表 1-6 のとおり。

表 1-6 就労継続支援 B 型の月別の利用状況

就労継続支援B型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平均利用日数（日）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
満足度平均（4点満点）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

本年度の利用者はなかった

⑤ 上記以外のサービス

○ 上記①～④以外の障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況は、表 1-7 のとおり。

表 1-7 上記以外のサービスの月別の利用状況

上記以外のサービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	8	8	9	9	9	9	8	8	6	9	10	9	8.5
平均利用回数（回）	5.0	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.8	5.3	4.8	4.4	4.4	4.6
満足度平均（4点満点）	3.5	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.5	3.5	3.3	3.4	3.4	3.6	3.6

利用者数は延べ 102 人で、平均では毎月 8.0 人が利用している

平均利用日数は月に 4.6 日となっている

サービスに対する満足度は平均すると 3.6 点となっている

満足度が高い理由としては「買物、粗大ゴミ出しが難しいため」などをあげている

○具体的な「⑤上記以外のサービス」の内容は、以下のとおりとなっている
(自由記載、順不同、複数記載)。

- ・ 居宅介護
- ・ ホームヘルパー
- ・ CD(朗読)の貸し出し
- ・ 朗読サービスCDの貸し出し
- ・ 水回りの掃除、副菜一品
- ・ 図書館で本を読んでもらっている。
- ・ サピエ図書
- ・ デイジー図書
- ・ 居宅支援サービス
- ・ 家事援助、代筆、代読、身の回りの整理、買物、粗大ゴミ出しなど
- ・ 朗読CD貸し出し
- ・ 調理
- ・ パン、陶芸教室、失語訓練

■ 介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況について

○介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況は、以下のとおり。

○なお、満足度の点数は、「不満」～「満足」を以下の4段階で評価しており、

- ・満足： 4点
- ・やや満足： 3点
- ・やや不満： 2点
- ・不満： 1点

の点数となっている。

○併せて、平成24年度～平成27年度の平均値も示してある。

① 訪問介護

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問介護の利用状況および介護内容は、表1-8、表1-9のとおり。（介護内容の平成27年度平均についてはSJSの健康被害者の方のみに選択質問）

表1-8 訪問介護の月別の利用状況

訪問介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	27 平均	26 平均	25 平均	24 平均
利用者数(人)	3	3	3	2	2	2	2	3	3	3	3	2	2.6	4.2	8.7	9.0	9.1
平均利用日数(日)	26.3	26.3	26.7	30.5	30.0	30.0	21.7	21.3	22.0	22.0	20.0	22.0	24.9	17.1	12.6	14.1	11.8
満足度平均(4点満点)	3.7	3.7	3.7	4.0	4.0	4.0	4.0	3.7	3.7	3.7	3.3	4.0	3.8	3.5	3.5	3.5	3.5

表1-9 介護内容の月別の状況

介護内容(人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	27 平均
身体介護中心型	3	3	3	2	2	2	2	3	3	2	2	2	2.4	2.0
生活援助中心型	1	1	1	2	2	2	1	1	1	3	3	3	1.8	2.1
通院等乗降介助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0.1	0.8
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0

□利用者数は延べ31人で、平均では毎月2.6人が利用している

□平均利用日数は月に24.9日となっている

□サービスに対する満足度は平均すると3.8点となっている

□満足度が高い理由としては「安心してまかせられるので」などをあげている

② 訪問入浴介護

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問入浴介護の利用状況は、表 1-10 のとおり。

表 1-10 訪問入浴介護の月別利用状況

訪問入浴介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	27 平均	26 平均	25 平均	24 平均
利用者数(人)	3	3	3	2	2	2	4	4	4	3	3	3	3.0	2.6	3.1	3.5	3.4
平均利用日数(日)	16.7	17.0	16.7	21.0	21.0	21.0	13.5	15.0	14.3	17.3	17.0	17.3	17.3	20.0	16.5	14.8	11.6
満足度平均(4点満点)	3.3	3.7	3.7	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.7	3.7	3.7	3.4	3.4	3.4	3.5	3.5

- 利用者数は延べ 36 人で、平均では毎月 3.0 人が利用している
- 平均利用日数は月に 17.3 日となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.4 点となっている
- 満足度が高い理由としては「ヘルパーさんが慣れている」などをあげている

③ 訪問看護

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問看護の利用状況は、表 1-11 のとおり。

表 1-11 訪問看護の月別の利用状況

訪問看護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	27 平均	26 平均	25 平均	24 平均
利用者数(人)	2	2	2	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1.8	2.1	3.5	2.7	1.9
平均利用日数(日)	6.0	5.5	6.5	4.0	3.0	5.0	7.0	6.0	6.0	7.0	7.5	6.5	5.8	4.2	3.8	4.9	5.4
満足度平均(4点満点)	3.5	3.5	3.5	4.0	4.0	4.0	3.5	3.5	3.5	4.0	4.0	4.0	3.8	3.4	3.1	3.2	3.5

- 利用者数は延べ 21 人で、平均では毎月 1.8 人が利用している
- 平均利用日数は月に 5.8 日となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.8 点となっている
- 満足度が高い理由としては「きっちりしてもらい満足」などをあげている

④ 訪問リハビリテーション

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問リハビリテーションの利用状況は、表 1-12 のとおり。

表 1-12 訪問リハビリテーションの月別の利用状況

訪問リハビリテーション	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	27 平均	26 平均	25 平均	24 平均
利用者数(人)	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	4	4.4	3.0	3.5	5.4	3.6
平均利用日数(日)	10.8	10.5	10.5	6.8	6.8	6.8	6.0	5.8	5.4	6.2	6.4	6.5	7.4	7.4	4.7	4.2	4.3
満足度平均(4点満点)	3.3	3.3	3.3	3.5	3.5	3.5	3.4	3.0	3.0	3.2	3.2	3.3	3.3	3.1	3.2	3.3	3.4

- 利用者数は延べ 53 人で、平均では毎月 4.4 人が利用している
- 平均利用日数は月に 7.4 日となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.3 点となっている
- 満足度が高い理由としては「体の状態をよく見てもらえる」などをあげている

⑤ 居宅療養管理指導

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、居宅療養管理指導の利用状況は、表 1-13 のとおり。

表 1-13 居宅療養管理指導の月別の利用状況

居宅療養管理指導	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	27 平均	26 平均	25 平均	24 平均
利用者数（人）	2	2	2	2	2	2	3	2	3	3	3	3	2.4	1.7	3.2	3.4	2.9
平均利用回数（回）	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.6	1.3	1.3	1.3
満足度平均（4点満点）	3.5	3.5	3.5	4.0	4.0	4.0	3.7	3.5	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.5	3.4	3.5

- 利用者数は延べ 29 人で、平均では毎月 2.4 人が利用している
- 平均利用回数は月に 1.4 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.7 点となっている
- 満足度が高い理由としては「本人の意志を確認して、くんでくれています」などをあげている

⑥ 通所介護

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、通所介護の利用状況は、表 1-14 のとおり。

表 1-14 通所介護の月別の利用状況

通所介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	27 平均	26 平均	25 平均	24 平均
利用者数（人）	2	2	2	1	1	1	2	2	1	1	1	2	1.5	1.0	2.4	4.6	2.9
平均利用回数（回）	14.5	14.5	14.0	9.0	9.0	9.0	7.0	7.5	9.0	8.0	8.0	11.5	10.1	8.6	12.4	14.6	12.5
満足度平均（4点満点）	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.0	3.9	4.0	3.8	3.8	3.6

- 利用者数は延べ 18 人で、平均では毎月 1.5 人が利用している
- 平均利用回数は月に 10.1 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.9 点となっている
- 満足度が高い理由としては「お風呂が大好きなので、気持ちよく入っていて満足している」などをあげている

⑦ 通所リハビリテーション

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、通所リハビリテーションの利用状況は、表 1-15 のとおり。

表 1-15 通所リハビリテーションの月別の利用状況

通所リハビリテーション	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	27 平均	26 平均	25 平均	24 平均
利用者数（人）	4	4	4	4	4	4	3	3	3	2	2	3	3.3	3.8	5.1	5.5	5.9
平均利用回数（回）	5.5	5.5	5.5	7.3	7.3	7.3	7.7	7.7	7.0	5.0	5.0	4.7	6.3	6.7	6.4	6.6	6.6
満足度平均（4点満点）	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.7	3.7	3.7	3.5	3.5	3.7	3.6	3.2	3.2	3.3	3.5

- 利用者数は延べ 40 人で、平均では毎月 3.3 人が利用している
- 平均利用回数は 6.3 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.6 点となっている
- 満足度が高い理由としては「体の状態を良く見てもらえる」などをあげている

⑧ 短期入所

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、短期入所の利用状況および入所内容は、表 1-16、表 1-17 のとおり。（入所内容の平成 27 年度平均については SJS の健康被害者の方のみに選択質問）

表 1-16 短期入所の月別の利用状況

短期入所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	27 平均	26 平均	25 平均	24 平均
利用者数（人）	2	1	3	0	0	0	2	2	2	2	1	3	1.5	0.8	1.4	1.3	1.2
平均利用回数（回）	1.5	1.0	1.0	—	—	—	1.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.3	1.1	1.3	2.8	2.9	1.5
満足度平均（4点満点）	2.5	2.0	2.7	—	—	—	2.5	2.0	2.5	2.5	3.0	3.0	2.5	2.1	3.3	3.6	3.3

表 1-17 入所内容の月別の利用状況

入所内容（人）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	27 平均
短期入所療養介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
短期入所生活介護 （ショートステイ）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0

- 利用者数は延べ 18 人で、平均では毎月 1.5 人が利用している
- 平均利用回数は 1.1 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 2.5 点となっている
- SJS の健康被害者の入所はなかった

⑨ 送迎サービス

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、送迎サービスの利用状況は、表 1-18 のとおり。

表 1-18 送迎サービスの月別の利用状況

送迎サービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	27 平均	26 平均	25 平均	24 平均
利用者数（人）	7	7	6	4	4	4	6	6	5	4	5	2	5.0	5.2	7.2	7.8	5.3
平均利用回数（回）	7.3	8.3	8.7	8.8	8.8	8.8	8.5	8.6	8.6	8.6	8.8	5.3	8.3	7.5	7.8	8.1	10.2
満足度平均（4点満点）	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.3	3.4	3.5	3.2	4.0	3.4	3.5	3.4	3.4	3.5

- 利用者数は延べ 60 人で、平均では毎月 5.0 人が利用している
- 平均利用回数は月に 8.3 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.4 点となっている
- 満足度が高い理由としては「天候に左右されず行ける」などをあげている

⑩ その他の福祉サービス

○ 上記①～⑨以外の介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況は、表 1-19 のとおり。

表 1-19 その他の福祉サービスの月別の利用状況

その他の福祉サービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	27 平均	26 平均	25 平均	24 平均
利用者数（人）	5	5	5	2	2	2	6	5	4	7	7	6	4.7	5.8	11.3	9.0	8.1
平均利用回数（回）	10.0	10.5	10.8	5.5	5.5	5.5	8.8	10.5	10.0	8.2	9.8	10.8	8.8	6.0	5.3	4.5	8.1
満足度平均（4点満点）	2.8	3.0	3.0	4.0	4.0	4.0	3.3	3.0	3.0	3.4	3.4	3.2	3.3	3.2	3.2	3.3	3.2

- 利用者数は延べ 56 人で、平均では毎月 4.7 人が利用している
- 平均利用回数は月に 8.8 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.3 点となっている
- 具体的なサービス内容としては「児童デイサービス」や「居宅移動支援」などをあげている
- 満足度が高い理由としては「スタッフさんが良くみてるから」などをあげている

⑫ 福祉サービスの年間利用状況

○ 上記①～⑪に示した各福祉サービスの年間の平均利用状況（日数または回数）及び満足度の平均点数をとりまとめると、図1-1のとおり。

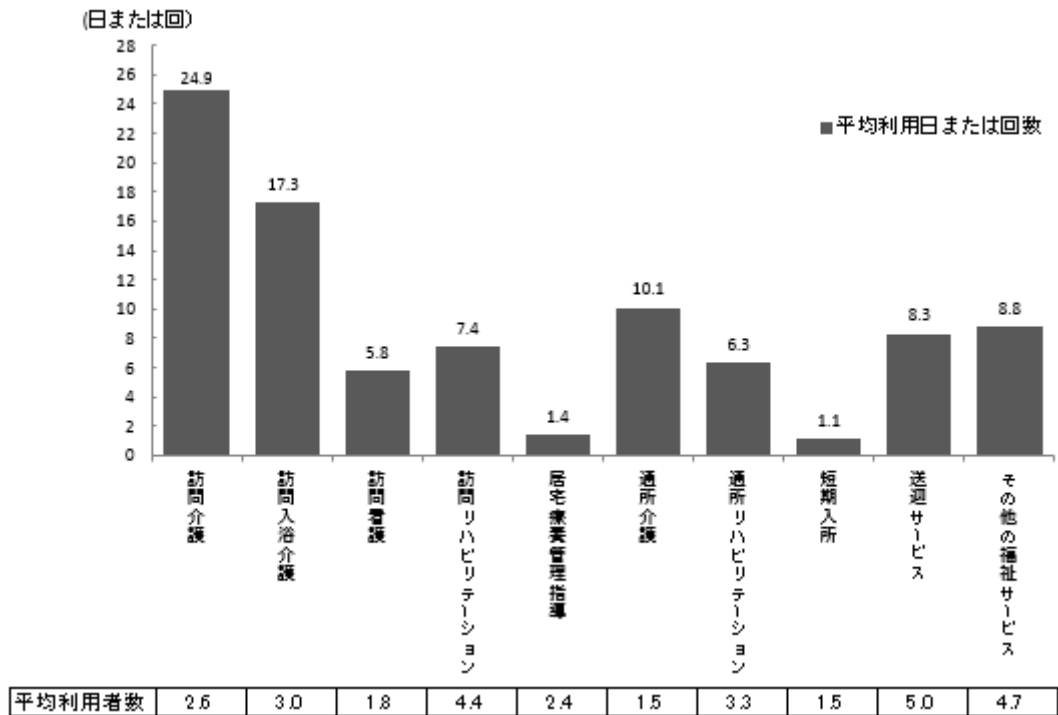


図1-1 福祉サービスの年間利用状況

□ 1年間、福祉サービスを利用して満足度が高かったサービスは、「通所介護」の3.9点、つづいて「訪問介護」と「訪問看護」が3.8点、「居宅療養管理指導」の3.7点となっている

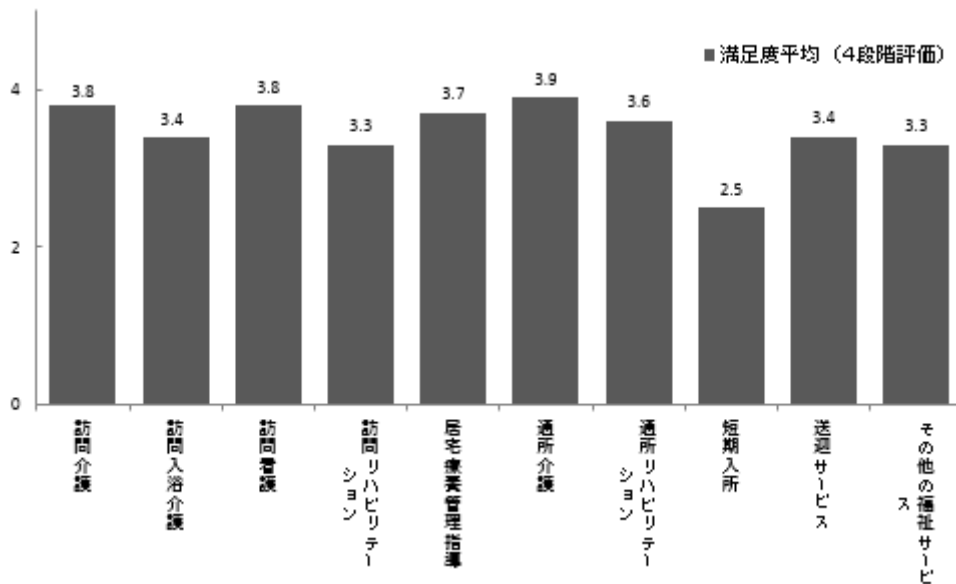


図1-2 福祉サービスの満足度平均

(2) B票（社会活動を中心とした調査）からみた生活状況の概要

■ 健康被害者の外出について

① 外出の頻度

ア 第1・四半期（回答者 57人）

○第1・四半期における健康被害者の外出頻度については、表2-1及び図2-1のとおり。

□ほぼ毎日が24.6%、週に4~5回が24.6%、週に2~3回が22.8%となっている

□一方、月に2~3回が21.1%、まったく外出していないが7.0%となっている

イ 第2・四半期（回答者 55人）

○第2・四半期における健康被害者の外出頻度については、表2-1及び図2-1のとおり。

□ほぼ毎日が21.8%、週に4~5回が23.6%、週に2~3回が18.2%となっている

□一方、月に2~3回が32.7%、まったく外出していないが3.6%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 54人）

○第3・四半期における健康被害者の外出頻度については、表2-1及び図2-1のとおり。

□ほぼ毎日が25.9%、週に4~5回が16.7%、週に2~3回が27.8%となっている

□一方、月に2~3回が25.9%、まったく外出していないが3.7%となっている

エ 第4・四半期（回答者 55人）

○第4・四半期における健康被害者の外出頻度については、表2-1及び図2-1のとおり。

□ほぼ毎日が27.3%、週に4~5回が21.8%、週に2~3回が23.6%となっている

□一方、月に2~3回が21.8%、まったく外出していないが5.5%となっている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-1及び図2-1のとおり。

□年間の平均では、月に2~3回外出している人が25.3%、ほぼ毎日外出している人が24.9%、週に2~3回外出している人が23.1%、週に4~5回外出している人が21.7%となっている

表 2-1 健康被害者の外出頻度の推移

	ほぼ毎日	週に4から5回	週に2から3回	月に2から3回	まったく外出していない	回答なし	合計
第1・四半期	14	14	13	12	4	1	57
	24.6%	24.6%	22.8%	21.1%	7.0%	—	100.0%
第2・四半期	12	13	10	18	2	1	55
	21.8%	23.6%	18.2%	32.7%	3.6%	—	100.0%
第3・四半期	14	9	15	14	2	1	54
	25.9%	16.7%	27.8%	25.9%	3.7%	—	100.0%
第4・四半期	15	12	13	12	3	0	55
	27.3%	21.8%	23.6%	21.8%	5.5%	—	100.0%
年間単純平均	13.8	12.0	12.8	14.0	2.8	0.8	55.3
	24.9%	21.7%	23.1%	25.3%	5.0%	—	100.0%
27年度平均	13.3	12.0	13.5	15.0	2.3	0.5	56.0
	23.7%	21.4%	24.1%	26.8%	4.0%	—	100.0%
26年度平均	16.3	13.8	15.3	14.8	2.8	2.3	62.8
	25.9%	21.9%	24.3%	23.5%	4.4%	—	100.0%
25年度平均	15.8	13.5	18.5	17.0	2.0	1.8	66.8
	23.6%	20.2%	27.7%	25.5%	3.0%	—	100.0%
24年度平均	13.0	12.0	16.5	15.8	3.8	1.5	61.0
	21.3%	19.7%	27.0%	25.8%	6.1%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

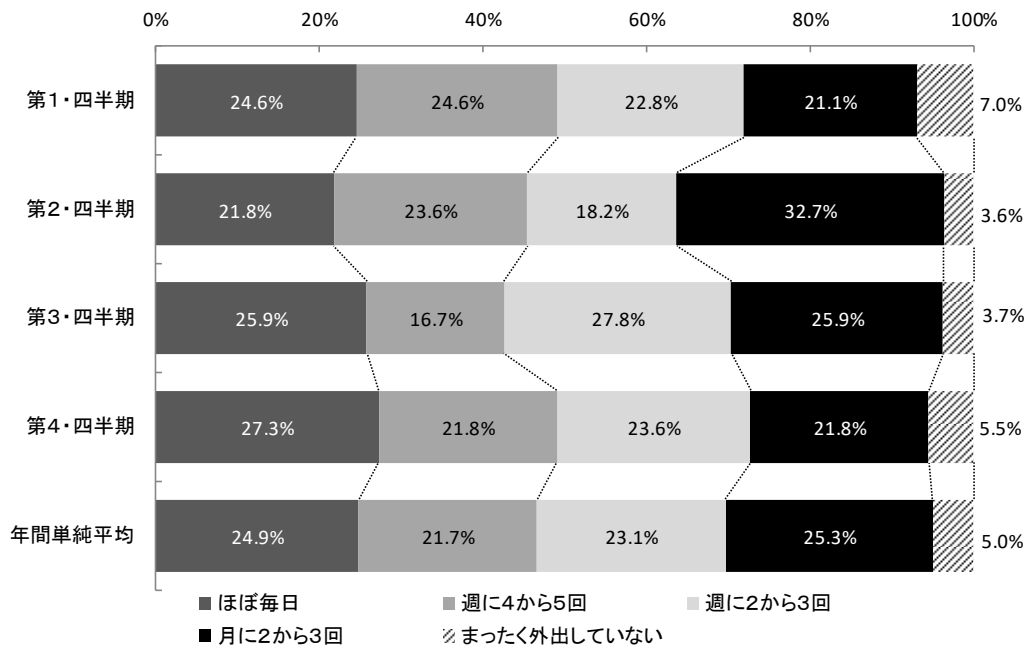


図 2-1 健康被害者の外出頻度の推移

①-1 外出に当たっての介助者

ア 第1・四半期（回答者 53人）

- 外出したとする人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表2-2及び図2-2のとおり（複数回答）。
- 主たる介助者は「配偶者」が47.2%、「親」、「子供」、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が24.5%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は37.7%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「ガイドヘルパー」「病棟職員」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 52人）

- 第2・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表2-2及び図2-2のとおり（複数回答）。
- 主たる介助者は「配偶者」が50.0%、「子供」が34.6%、「親」が26.9%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が15.4%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は30.8%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「デイサービススタッフ」「同行援護」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 52人）

- 第3・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表2-2及び図2-2のとおり（複数回答）。
- 主たる介助者は「配偶者」が44.2%、「親」が28.8%、「子供」が26.9%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が23.1%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は30.8%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「ガイドヘルパー」「友人」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 52人）

- 第4・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表2-2及び図2-2のとおり（複数回答）。
- 主たる介助者は「配偶者」が46.2%、「子供」が28.8%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が26.9%、「親」が23.1%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は36.5%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「デイサービススタッフ」「盲導犬」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-2及び図2-2のとおり（複数回答）。

- 外出時の主な介助者の年間の平均では「配偶者」が46.9%、「子供」が28.7%、「親」が25.8%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が22.5%となっている
- 一方、「介助なし」で外出している人は34.0%となっている

表2-2 健康被害者の外出時の主たる介助者の推移

	介助なし	配偶者	親	子供	その他の家族	親戚	ホーム(ガイド)ヘルパー	隣人・知人	雇人	ボランティア	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	20	25	13	13	7	2	13	9	2	1	6	0	53
第2・四半期	16	26	14	18	4	5	8	7	2	3	6	1	52
第3・四半期	16	23	15	14	7	5	12	7	0	1	6	0	52
第4・四半期	19	24	12	15	4	3	14	8	2	1	8	0	52
年間単純平均	17.8	24.5	13.5	15.0	5.5	3.8	11.8	7.8	1.5	1.5	6.5	0.3	52.3
27年度平均	34.0%	46.9%	25.8%	28.7%	10.5%	7.2%	22.5%	14.8%	2.9%	2.9%	12.4%	—	—
26年度平均	19.5	25.5	14.0	13.8	4.8	3.8	13.5	9.3	3.0	2.8	3.8	0.0	53.8
25年度平均	36.3%	47.4%	26.0%	25.6%	8.8%	7.0%	25.1%	17.2%	5.6%	5.1%	7.0%	—	—
24年度平均	21.8	26.5	17.0	13.0	5.5	3.5	15.5	9.3	1.3	2.8	5.3	0.0	53.0
23年度平均	41.0%	50.0%	32.1%	24.5%	10.4%	6.6%	29.2%	17.5%	2.4%	5.2%	9.9%	—	—
22年度平均	20.8	27.0	19.8	12.8	3.3	4.3	16.5	10.0	1.5	3.3	6.5	0.0	64.5
21年度平均	32.2%	41.9%	30.6%	19.8%	5.0%	6.6%	25.6%	15.5%	2.3%	5.0%	10.1%	—	—
20年度平均	17.3	23.5	20.0	13.3	4.5	5.3	14.3	9.8	1.8	2.5	4.5	0.0	57.3
19年度平均	30.1%	41.0%	34.9%	23.1%	7.9%	9.2%	24.9%	17.0%	3.1%	4.4%	7.9%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

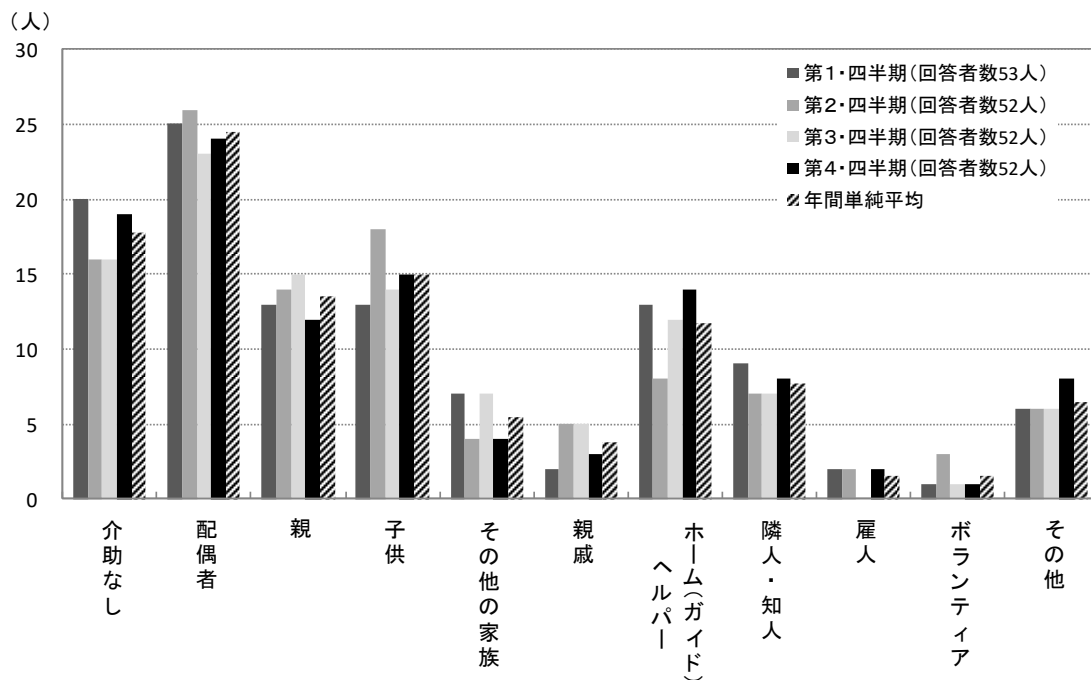


図2-2 健康被害者の外出時の主たる介助者の推移

■ 外出に当たって困ること・不満に思うことについて

② 外出に当たって困ること・不満に思うことの有無

ア 第1・四半期（回答者 54 人）

○ 第1・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおり。

□ 88.9%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

イ 第2・四半期（回答者 54 人）

○ 第2・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおり。

□ 88.9%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

ウ 第3・四半期（回答者 53 人）

○ 第3・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおり。

□ 88.7%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

エ 第4・四半期（回答者 55 人）

○ 第4・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおり。

□ 87.3%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-3 及び図 2-3 のとおり。

□ 外出時に困ることや不満に思うことがあると回答した人は、年間の平均では、88.4%となっている

表 2-3 外出時の困難・不満の有無の推移

	困ることや 不満に思う ことがある	困ることや 不満に思う ことがない	回答なし	合 計
第1・四半期	48	6	4	54
	88.9%	11.1%	—	100.0%
第2・四半期	48	6	2	54
	88.9%	11.1%	—	100.0%
第3・四半期	47	6	2	53
	88.7%	11.3%	—	100.0%
第4・四半期	48	7	0	55
	87.3%	12.7%	—	100.0%
年間単純平均	47.8	6.3	2.0	54.0
	88.4%	11.6%	—	100.0%
27年度平均	47.5	6.5	2.5	54.0
	88.0%	12.0%	—	100.0%
26年度平均	51.8	9.5	3.8	61.3
	84.5%	15.5%	—	100.0%
25年度平均	61.0	5.8	1.8	66.8
	91.4%	8.6%	—	100.0%
24年度平均	54.8	5.3	2.5	60.0
	91.3%	8.8%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

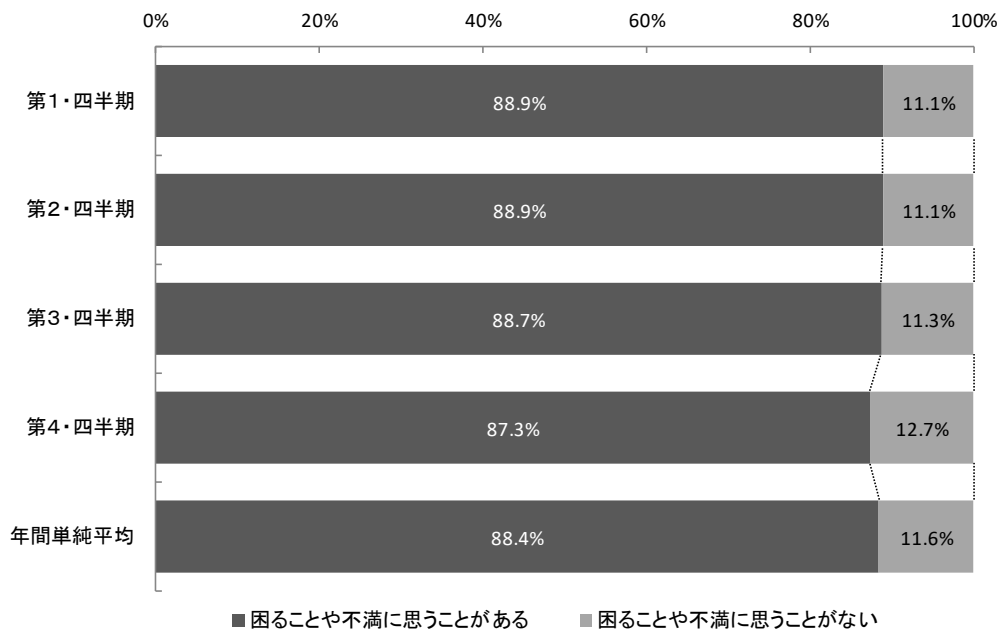


図 2-3 外出時の困難・不満の有無の推移

②-1 外出に当たって困ること・不満に思うこと

ア 第1・四半期（回答者48人）

- 外出に当たって困ること・不満に思うことがあると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおり（複数回答）。
 - 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が72.9%、「道路や駅などの公共の場所の利用が不便」と「利用する建物の設備の利用が不便」が54.2%となっている
 - その他としては、「光がとてもまぶしい」「無謀な運転の自転車に身の危険を感じる」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者48人）

- 第2・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおり（複数回答）。
 - 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が68.8%、「利用する建物の設備の利用が不便」が66.7%、「道路や駅などの公共の場所の利用が不便」が54.2%となっている
 - その他としては、「悪天候の時の外出が困る」「酸素ボンベの携帯が大変」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者47人）

- 第3・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおり（複数回答）。
 - 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が63.8%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」と「利用する建物の設備の利用が不便」が57.4%となっている
 - その他としては、「ちょっとした段差」「乗りものにチャイルドシートがない」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者48人）

- 第4・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおり（複数回答）。
 - 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が68.8%、「利用する建物の設備の利用が不便」が58.3%、「道路や駅などの公共の場所の利用が不便」が50.0%となっている
 - その他としては、「スマホしている人、カート持って歩いている人」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-4及び図2-4のとおり（複数回答）。

□ 外出に当たって困ること・不満に思うことの年間の平均では「人の混雑や車に身の危険を感じる」が68.6%、「利用する建物の設備の利用が不便」が59.2%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」と「道路や駅などの公共の場所の利用が不便」が52.4%となっている

表2-4 外出に当たって困ること・不満に思うことの推移

	介護者がいない	経費がかかる	人の目が気にかかる	人と話をするのが困難	外出に必要な情報が得られない	電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便	道路や駅などの公共の場所の利用が不便	利用する建物の設備の利用が不便	人の混雑や車に身の危険を感じる	駅などにおける人間関係のトラブル	その他	回答者数
第1・四半期	6 12.5%	12 25.0%	10 20.8%	8 16.7%	10 20.8%	25 52.1%	26 54.2%	26 54.2%	35 72.9%	3 6.3%	15 31.3%	48
第2・四半期	3 6.3%	10 20.8%	10 20.8%	8 16.7%	10 20.8%	25 52.1%	26 54.2%	32 66.7%	33 68.8%	5 10.4%	15 31.3%	48
第3・四半期	7 14.9%	15 31.9%	11 23.4%	11 23.4%	10 21.3%	27 57.4%	24 51.1%	27 57.4%	30 63.8%	5 10.6%	19 40.4%	47
第4・四半期	3 6.3%	14 29.2%	8 16.7%	8 16.7%	10 20.8%	23 47.9%	24 50.0%	28 58.3%	33 68.8%	2 4.2%	11 22.9%	48
年間単純平均	4.8 9.9%	12.8 26.7%	9.8 20.4%	8.8 18.3%	10.0 20.9%	25.0 52.4%	25.0 52.4%	28.3 59.2%	32.8 68.6%	3.8 7.9%	15.0 31.4%	47.8
27年度平均	7.5 15.8%	13.8 28.9%	9.8 20.5%	8.0 16.8%	9.5 20.0%	25.5 53.7%	24.0 50.5%	30.5 64.2%	33.3 70.0%	3.3 6.8%	10.0 21.1%	47.5
26年度平均	5.8 12.1%	16.5 34.7%	11.3 23.7%	9.3 19.5%	11.3 23.7%	30.0 63.2%	26.5 55.8%	31.5 66.3%	34.0 71.6%	5.0 10.5%	7.5 15.8%	47.5
25年度平均	8.0 13.1%	17.3 28.3%	12.0 19.7%	10.3 16.8%	12.5 20.5%	35.5 58.2%	28.5 46.7%	33.5 54.9%	37.0 60.7%	4.3 7.0%	12.3 20.1%	61.0
24年度平均	8.0 14.6%	16.5 30.1%	13.0 23.7%	11.8 21.5%	14.0 25.6%	29.8 54.3%	28.5 52.1%	33.5 61.2%	36.8 67.1%	5.0 9.1%	10.0 18.3%	54.8

注：上段は人数、下段は割合

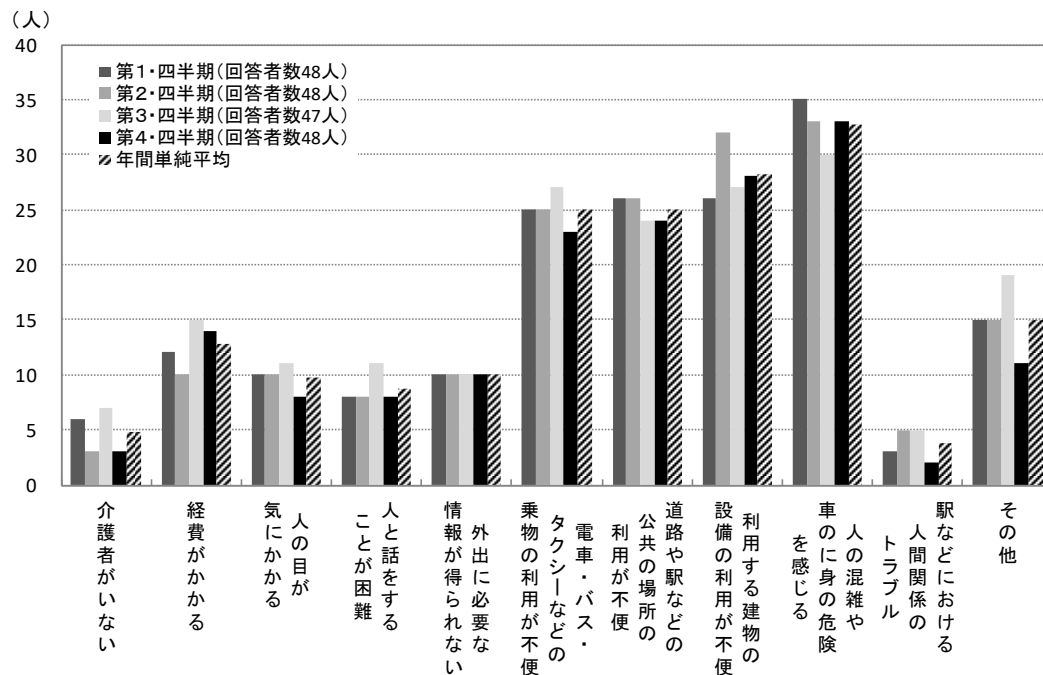


図2-4 外出に当たって困ること・不満に思うことの推移

②-2 外出する上で工夫したこと【外出前の準備】（SJSの健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者39人）

- 第1・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表2-5及び図2-5のとおり（複数回答）。
- 「予め、交通機関や経路について調べておく」が79.5%、「コースを事前に決めておく」が48.7%、「介助者を依頼する」が41.0%となっている
- その他としては、「サングラス、帽子をかぶる」「人混みをさける」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者39人）

- 第2・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表2-5及び図2-5のとおり（複数回答）。
- 「予め、交通機関や経路について調べておく」が82.1%、「コースを事前に決めておく」が51.3%、「介助者を依頼する」が38.5%となっている

ウ 第3・四半期（回答者40人）

- 第3・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表2-5及び図2-5のとおり（複数回答）。
- 「予め、交通機関や経路について調べておく」が80.0%、「コースを事前に決めておく」が50.0%、「介助者を依頼する」が45.0%となっている
- その他としては、「家族に早目にたのんでおく」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者42人）

- 第4・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表2-5及び図2-5のとおり（複数回答）。
- 「予め、交通機関や経路について調べておく」が76.2%、「コースを事前に決めておく」が59.5%、「介助者を依頼する」が47.6%となっている
- その他としては、「子供、友人、親の行動にあわせる」「家族に事前にたのんでおく」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-5及び図2-5のとおり（複数回答）。

□ 外出する上で工夫した「外出前の準備」の年間の平均では「予め、交通機関や経路について調べておく」が79.4%、「コースを事前に決めておく」が52.5%、「介助者を依頼する」が43.1%となっている

表2-5 外出する上で工夫したこと【外出前の準備】の推移

	予め、 交通機関や 経路について 調べておく	介助者を 依頼する	コースを 事前に 決めておく	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	31 79.5%	16 41.0%	19 48.7%	5 12.8%	11	39
第2・四半期	32 82.1%	15 38.5%	20 51.3%	0 0.0%	10	39
第3・四半期	32 80.0%	18 45.0%	20 50.0%	2 5.0%	7	40
第4・四半期	32 76.2%	20 47.6%	25 59.5%	4 9.5%	6	42
年間単純平均	31.8 79.4%	17.3 43.1%	21.0 52.5%	2.8 6.9%	8.5	40.0
27年度平均	29.3 71.3%	17.8 43.3%	22.8 55.5%	3.3 7.9%	9.3	41.0

注：上段は人数、下段は割合

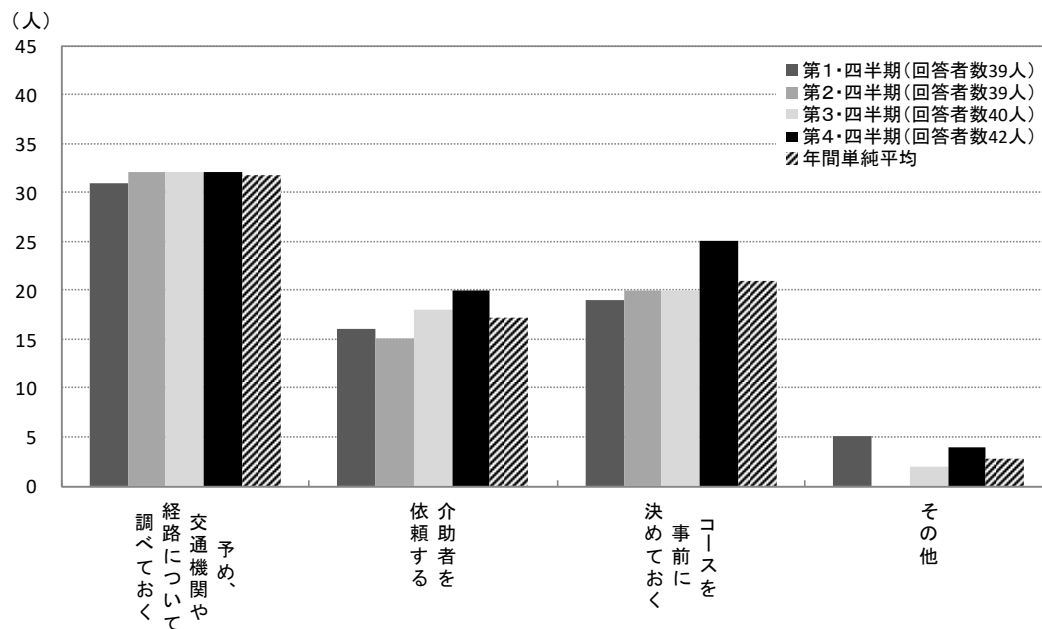


図2-5 外出する上で工夫したこと【外出前の準備】の推移

②-2 外出する上で工夫したこと【服装・持ち物】（SJSの健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者43人）

- 第1・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表2-6及び図2-6のとおり（複数回答）
 - 「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が86.0%、「白杖の使用」が62.8%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が53.5%となっている
 - その他としては、「盲導犬使用」「足さぐりできるようなくつ」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者45人）

- 第2・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表2-6及び図2-6のとおり（複数回答）
 - 「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が86.7%、「白杖の使用」が68.9%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が53.3%となっている
 - その他としては、「夏の外出は日傘使用」「荷物をできるだけ軽くする」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者43人）

- 第3・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表2-6及び図2-6のとおり（複数回答）
 - 「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が79.1%、「白杖の使用」が72.1%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が51.2%となっている
 - その他としては、「ペンライトを持ちあるく」「杖の使用」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者44人）

- 第4・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表2-6及び図2-6のとおり（複数回答）
 - 「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が81.8%、「白杖の使用」が65.9%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が52.3%となっている
 - その他としては、「反射材を使用した」「ケイタイ電話を持つ」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-6及び図2-6のとおり（複数回答）。

□外出する上で工夫した「服装・持ち物」の年間の平均では「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が83.4%、「白杖の使用」が67.4%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が52.6%、「目立つ服装」が26.3%となっている

表2-6 外出する上で工夫したこと【服装・持ち物】の推移

	目立つ服装	目の保護のためサングラス、帽子を着用	白杖の使用	両手が使えるよう、リュックサックを使用	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	9 20.9%	37 86.0%	27 62.8%	23 53.5%	6 14.0%	7	43
第2・四半期	10 22.2%	39 86.7%	31 68.9%	24 53.3%	8 17.8%	4	45
第3・四半期	13 30.2%	34 79.1%	31 72.1%	22 51.2%	6 14.0%	4	43
第4・四半期	14 31.8%	36 81.8%	29 65.9%	23 52.3%	10 22.7%	4	44
年間単純平均	11.5 26.3%	36.5 83.4%	29.5 67.4%	23.0 52.6%	7.5 17.1%	4.8	43.8
27年度平均	8.3 17.6%	37.3 79.3%	30.3 64.4%	21.5 45.7%	9.0 19.1%	3.3	47.0

注：上段は人数、下段は割合

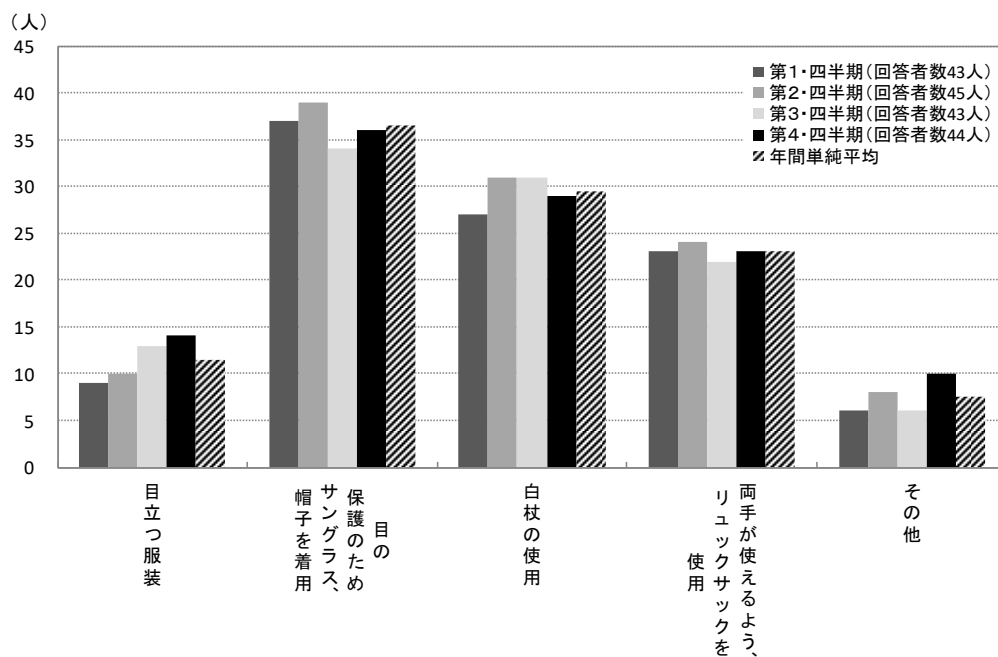


図2-6 外出する上で工夫したこと【服装・持ち物】の推移

②-2 外出する上で工夫したこと【移動手段】（SJSの健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者46人）

- 第1・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表2-7及び図2-7のとおり（複数回答）
 - 「公共交通機関を利用」が73.9%、「自家用車を利用」が60.9%、「介護タクシーを利用」が6.5%となっている
 - その他としては、「タクシー」「徒歩」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者47人）

- 第2・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表2-7及び図2-7のとおり（複数回答）
 - 「公共交通機関を利用」が68.1%、「自家用車を利用」が61.7%、「介護タクシーを利用」が6.4%となっている
 - その他としては、「タクシー」「友人、知人の介助」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者46人）

- 第3・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表2-7及び図2-7のとおり（複数回答）
 - 「公共交通機関を利用」が76.1%、「自家用車を利用」が65.2%、「介護タクシーを利用」が10.9%となっている
 - その他としては、「タクシー」「徒歩」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者47人）

- 第4・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表2-7及び図2-7のとおり（複数回答）
 - 「公共交通機関を利用」が76.6%、「自家用車を利用」が63.8%、「介護タクシーを利用」が12.8%となっている
 - その他としては、「タクシー」「友人の車」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-7及び図2-7のとおり（複数回答）。
 - 外出する上で工夫した「移動手段」の年間の平均では「公共交通機関を利用」が73.7%、「自家用車を利用」が62.9%、「介護タクシーを利用」が9.1%となっている

表 2-7 外出する上で工夫したこと【移動手段】の推移

	自家用車 を利用	介護タクシー を利用	公共交通機関 を利用	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	28 60.9%	3 6.5%	34 73.9%	5 10.9%	4 —	46 —
第2・四半期	29 61.7%	3 6.4%	32 68.1%	5 10.6%	2 —	47 —
第3・四半期	30 65.2%	5 10.9%	35 76.1%	5 10.9%	1 —	46 —
第4・四半期	30 63.8%	6 12.8%	36 76.6%	5 10.6%	1 —	47 —
年間単純平均	29.3 62.9%	4.3 9.1%	34.3 73.7%	5.0 10.8%	2.0 —	46.5 —
27年度平均	31.3 65.4%	2.8 5.8%	33.5 70.2%	5.8 12.0%	2.5 —	47.8 —

注：上段は人数、下段は割合

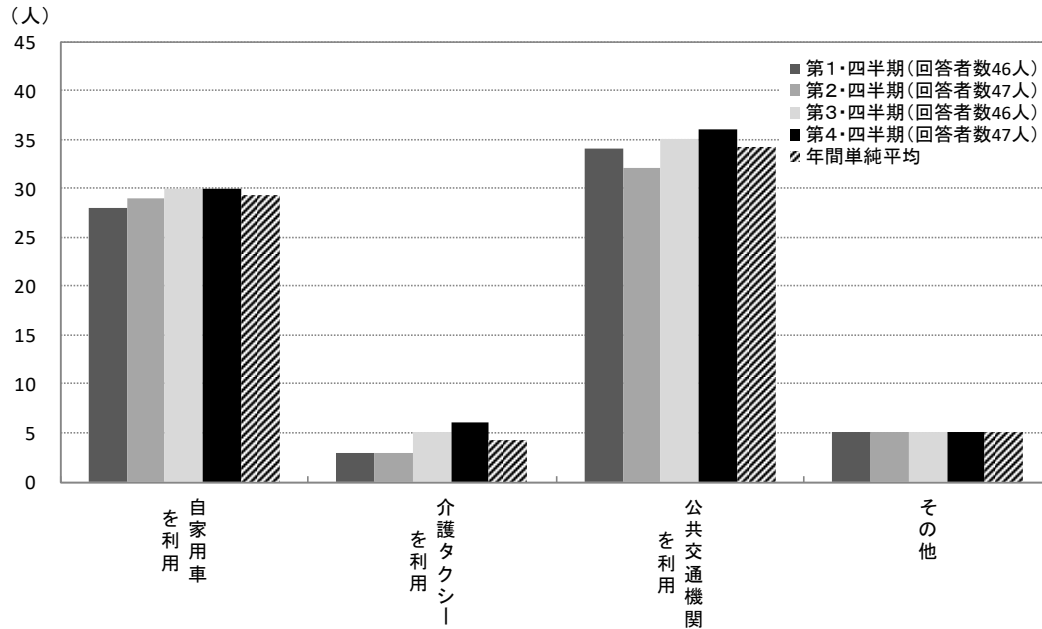


図 2-7 外出する上で工夫したこと【移動手段】の推移

②-2 外出する上で工夫したこと

○本人または介護者にたずねた外出する上で工夫したことの主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 夜になると、暗くて更に見辛くなることと、向かいから光が当たる（自動車のヘッドライト等）と眩しくて足元が全く見えなくなる為、日暮までに帰るようにする。
- ・ 動きやすい靴
- ・ 人出の少ない時に行った
- ・ 外出先での胃ろう注入は、車イスのリクライニングを少し倒すので、その場所が必要となり、S.A.など狭くて利用出来ない事が多い。寒くない時は外で注入する。又は車中で行なう。注入物につるりんこを混ぜるので、屋外ではとてもやりにくい。ほこりも心配。そこで、昼注入だけでも、かんたんに注入出来るものに変更してもらいました。高速道路の車イス用駐車場は非常にキケンな所があります。スロープを出すと、一般車の通行する道路に出してしまう。なかなか車イスの出入りがスムーズに出来ない。この件は申し出ましたが現状は変えられないと返事がありました。気を付けてやります。
- ・ 車のシートにオリジナルのベルトを作った。
- ・ シグナルエイド（音声信号のあるところで音声をならす。ボタンがあってもボタンの位置が判らない時有用）の使用。
- ・ サイフを落とす事あるので、サイフに鈴をつけた
- ・ 杖は太くて使いやすいものを使う
- ・ 人の少ない早い時間に行く。
- ・ 手を離さない。足元に何かある場所は歩かせない。
- ・ 盲導犬を同伴
- ・ 車椅子にのせて、押し出すと前のめりになるので、お腹のところに枕をつつみ車の後ろで結んでいる
- ・ 暗くなったら出かけない。
- ・ トイレの介助が、体重がありヘルパーさんが大変なので、パッドを2枚している。（外出前に）
- ・ 早い時間、人の少ない時間帯に行く。
- ・ ひざ掛けでは寒いので上下防寒着を使用している。室内と外との温度差が大きいので注意している。
- ・ 車の乗り降りにふみ台を買った。
- ・ 車に手作りのベルトを作った。
- ・ 急がない、あわてない
- ・ 東京都が発行している Help マークを付けている
- ・ 船や鉄道は、係の方に手引き（案内）をお願いする
- ・ 食事が流動食なので車の中で流せる様にした。
- ・ 上下完全防寒着を着用する。風当りの少ない場所を選んで散歩する。

■ 社会参加や社会活動について

③ 社会参加・社会活動等の状況

ア 第1・四半期（回答者 55 人）

○ 第1・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表2-8及び図2-8のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 72.7%、行っていない人が 27.3%となっている

イ 第2・四半期（回答者 54 人）

○ 第2・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表2-8及び図2-8のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 72.2%、行っていない人が 27.8%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 55 人）

○ 第3・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表2-8及び図2-8のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 67.3%、行っていない人が 32.7%となっている

エ 第4・四半期（回答者 55 人）

○ 第4・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表2-8及び図2-8のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 65.5%、行っていない人が 34.5%となっている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-8及び図2-8のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人と行っていない人の割合は、年間の平均では、行っている人が 69.4%、行っていない人が 30.6%となっている

表 2-8 社会参加・社会活動等の状況の推移

	参加(活動)した	まったくしていない	回答なし	合計
第1・四半期	40	15	3	55
	72.7%	27.3%	—	100.0%
第2・四半期	39	15	2	54
	72.2%	27.8%	—	100.0%
第3・四半期	37	18	0	55
	67.3%	32.7%	—	100.0%
第4・四半期	36	19	0	55
	65.5%	34.5%	—	100.0%
年間単純平均	38.0	16.8	1.3	54.8
	69.4%	30.6%	—	100.0%
27年度平均	37.3	18.5	0.8	55.8
	66.8%	33.2%	—	100.0%
26年度平均	40.5	21.0	3.5	61.5
	65.9%	34.1%	—	100.0%
25年度平均	47.0	20.0	1.5	67.0
	70.1%	29.9%	—	100.0%
24年度平均	39.8	22.0	0.8	61.8
	64.4%	35.6%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

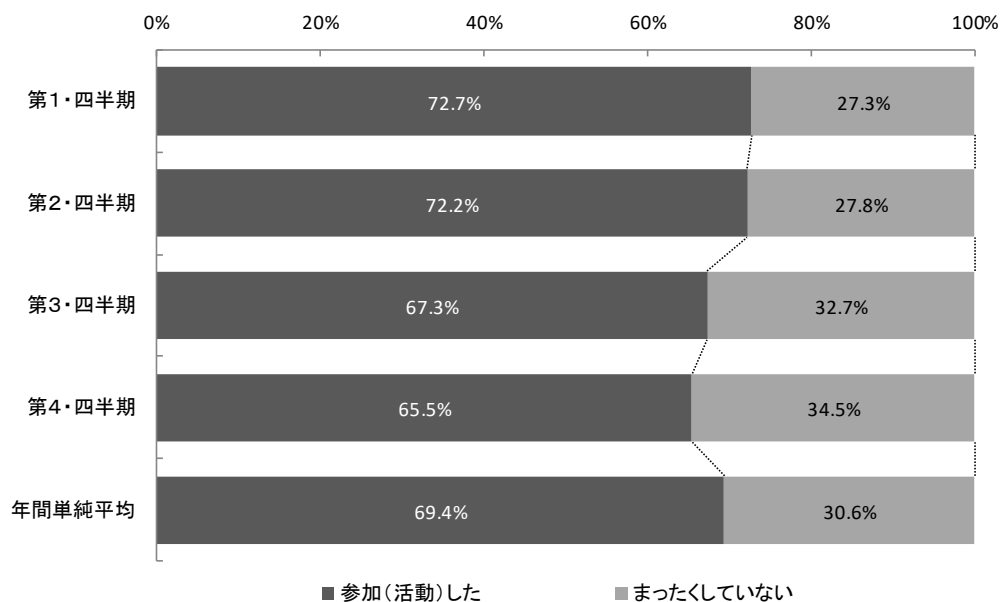


図 2-8 社会参加・社会活動等の状況の推移

③-1 社会参加・社会活動等をしなかった理由（SJSの健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者10人）

- 社会参加や社会活動などを行っていないと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。
第1・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-9及び図2-9のとおり（複数回答）。
 - 「時間的・経済的余裕なし」が20.0%、「介助なし」と「体力的に余裕なし」が10.0%となっている
 - その他としては、「身近に参加できそうなものがない」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者10人）

- 第2・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-9及び図2-9のとおり（複数回答）。
 - 「体力的に余裕なし」が30.0%、「介助なし」と「時間的・経済的余裕なし」が10.0%となっている
 - その他としては、「精神的に疲れる」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者15人）

- 第3・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-9及び図2-9のとおり（複数回答）。
 - 「体力的に余裕なし」が26.7%、「時間的・経済的余裕なし」が20.0%、「介助なし」が13.3%となっている
 - その他としては、「目がみえないので出来ない」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者12人）

- 第4・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-9及び図2-9のとおり（複数回答）。
 - 「時間的・経済的余裕なし」が41.7%、「介助なし」が8.3%となっている
 - その他としては、「意欲がない」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-9及び図2-9のとおり（複数回答）。
社会参加や社会活動などを行わなかった理由の年間の平均では「時間的・経済的余裕なし」が23.4%、「体力的に余裕なし」が17.0%、「介助なし」が10.6%となっている

表 2-9 社会参加・社会活動等をしなかった理由の推移

	介助なし	時間的・経済的 余裕なし	体力的に 余裕なし	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	1	2	1	6	2	10
	10.0%	20.0%	10.0%	60.0%	—	—
第2・四半期	1	1	3	5	3	10
	10.0%	10.0%	30.0%	50.0%	—	—
第3・四半期	2	3	4	6	1	15
	13.3%	20.0%	26.7%	40.0%	—	—
第4・四半期	1	5	0	6	5	12
	8.3%	41.7%	0.0%	50.0%	—	—
年間単純平均	1.3	2.8	2.0	5.8	2.8	11.8
	10.6%	23.4%	17.0%	48.9%	—	—
27年度平均	2.0	1.5	5.0	4.5	3.5	13.0
	15.4%	11.5%	38.5%	34.6%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

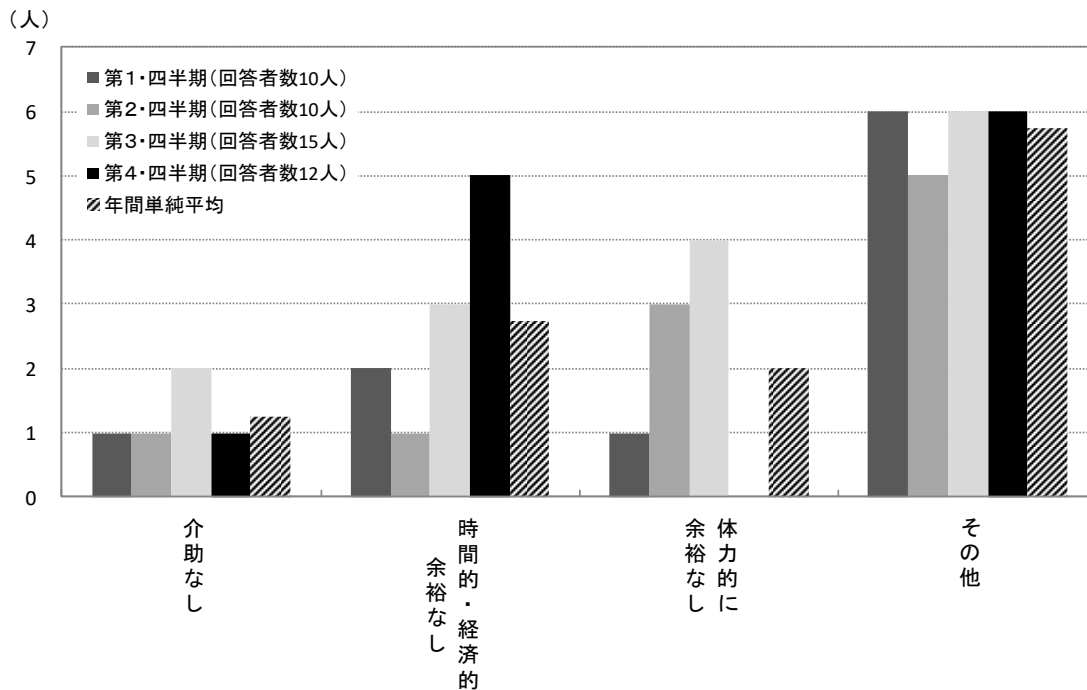


図 2-9 社会参加・社会活動等をしなかった理由の推移

③-2 社会参加・社会活動等のきっかけ（SJSの健康被害者の方のみに質問）

○本人または介護者にたずねた社会参加・社会活動等のきっかけの主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

1. 家族、親類
 - ・ ゴールデンウィークに家族と旅行した。
 - ・ 子供のすすめ
2. 友人、知人等
 - ・ 友人に誘われたため。
 - ・ 障害者になる前から付き合いのある仲間達が誘ってくれる。
 - ・ 鍼・灸の勉強会に誘われたから。
 - ・ 人が誘って下さることは何んでも経験する
3. 患者団体、同好会等
 - ・ 患者間の交流、これに尽きます。
 - ・ 障害者団体の集まりに参加するため
 - ・ 障害者団体の活動に継続的に参加している
4. 情報誌や広告等
 - ・ 市の公報で知ったことがきっかけ。
 - ・ 点字
 - ・ メールのお知らせ等
5. 自発的な活動
 - ・ 本人の興味
 - ・ 生きがいを求めて
 - ・ 夫の休みが取れたから
 - ・ 何となく運動不足だったため。
 - ・ 気分転換
 - ・ 京都の眼科へ行った時に、観光もした。
 - ・ 体力づくりをしようと考えたことがきっかけです
 - ・ 奈良県の友達にマラソンに参加した事をきき、はじめて府内のマラソンに参加。
6. その他
 - ・ 以前から継続的に参加している
 - ・ 時間に余裕があるから

③-3 社会参加・社会活動等の内容

ア 第1・四半期（回答者 40人）

- 社会参加や社会活動などを行ったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10及び図2-10のとおり（複数回答）。
- 「友達との遊び」が45.0%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」と「障害者団体の活動」が40.0%となっている
- その他としては、「買い物」「娘達の学校行事、保護者会」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 39人）

- 第2・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10及び図2-10のとおり（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」と「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が41.0%、「趣味の同好会活動」が30.8%となっている
- その他としては、「ウォーキング」「点字教室、陶芸教室」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 37人）

- 第3・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10及び図2-10のとおり（複数回答）。
- 「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が40.5%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が35.1%、「障害者団体の活動」と「友達との遊び」が32.4%となっている
- その他としては、「家族と食事会」「学童のクリスマス会参加」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 36人）

- 第4・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10及び図2-10のとおり（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」と「障害者団体の活動」が41.7%、「趣味の同好会活動」が36.1%となっている
- その他としては、「姉妹との旅行、食事」「家族と食事をしに外出、買い物」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-10及び図2-10のとおり（複数回答）。

□ 社会参加・社会活動などの内容の年間の平均では「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が39.5%、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」「障害者団体の活動」「友達との遊び」が34.9%、「趣味の同好会活動」が30.3%となっている

表2-10 社会参加・社会活動等の内容の推移

	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	スポーツ教室、大会などへの参加	旅行・キャンプ・つりなどの活動	趣味の同好会活動	ボランティアなどの社会活動	障害者団体の活動	地域活動	パソコンを利用した社会参加	友達との遊び	その他	特になし	回答なし	回答者数
第1・四半期	16	5	13	11	6	16	3	7	18	6	—	0	40
	40.0%	12.5%	32.5%	27.5%	15.0%	40.0%	7.5%	17.5%	45.0%	15.0%	—	—	—
第2・四半期	16	5	16	12	4	10	5	9	11	7	—	0	39
	41.0%	12.8%	41.0%	30.8%	10.3%	25.6%	12.8%	23.1%	28.2%	17.9%	—	—	—
第3・四半期	13	6	15	10	3	12	6	7	12	9	—	0	37
	35.1%	16.2%	40.5%	27.0%	8.1%	32.4%	16.2%	18.9%	32.4%	24.3%	—	—	—
第4・四半期	15	5	9	13	3	15	4	9	12	8	—	0	36
	41.7%	13.9%	25.0%	36.1%	8.3%	41.7%	11.1%	25.0%	33.3%	22.2%	—	—	—
年間単純平均	15.0	5.3	13.3	11.5	4.0	13.3	4.5	8.0	13.3	7.5	—	0.0	38.0
	39.5%	13.8%	34.9%	30.3%	10.5%	34.9%	11.8%	21.1%	34.9%	19.7%	—	—	—
27年度平均	15.3	7.3	14.0	10.0	4.3	12.3	3.0	8.0	0.8	7.3	0.0	0.0	37.3
	40.9%	19.5%	37.6%	26.8%	11.4%	32.9%	8.1%	21.5%	2.0%	19.5%	0.0%	—	—
26年度平均	14.3	7.3	15.3	9.8	4.3	12.5	2.0	9.0	1.3	6.0	0.0	0.3	40.3
	35.4%	18.0%	37.9%	24.2%	10.6%	31.1%	5.0%	22.4%	3.1%	14.9%	0.0%	—	—
25年度平均	18.0	6.0	16.3	9.3	3.8	15.8	3.3	12.3	1.3	10.5	0.8	0.5	46.5
	38.7%	12.9%	34.9%	19.9%	8.1%	33.9%	7.0%	26.3%	2.7%	22.6%	1.6%	—	—
24年度平均	13.8	3.3	12.8	8.0	2.5	12.5	2.0	7.8	2.3	8.8	2.0	0.5	39.3
	35.0%	8.3%	32.5%	20.4%	6.4%	31.8%	5.1%	19.7%	5.7%	22.3%	5.1%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

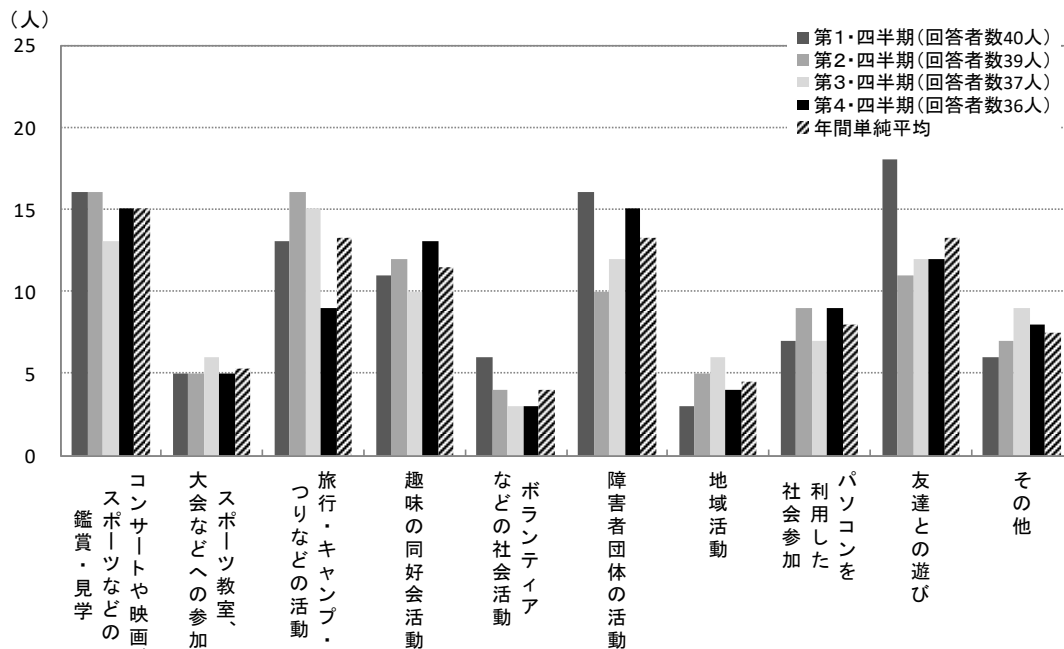


図2-10 社会参加・社会活動等の内容の推移

■ 屋内での生活における工夫について

④ 屋内での生活における工夫の有無（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第 1・四半期（回答者 43 人）

○ 第 1・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表 2-11 及び図 2-11 のとおり。

□ 屋内での生活に工夫がある人が 93.0%、工夫がない人が 7.0%となっている

イ 第 2・四半期（回答者 45 人）

○ 第 2・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表 2-11 及び図 2-11 のとおり。

□ 屋内での生活に工夫がある人が 86.7%、工夫がない人が 13.3%となっている

ウ 第 3・四半期（回答者 43 人）

○ 第 3・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表 2-11 及び図 2-11 のとおり。

□ 屋内での生活に工夫がある人が 90.7%、工夫がない人が 9.3%となっている

エ 第 4・四半期（回答者 42 人）

○ 第 4・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表 2-11 及び図 2-11 のとおり。

□ 屋内での生活に工夫がある人が 90.5%、工夫がない人が 9.5%となっている

オ 四半期ごとの推移

○ 第 1・四半期から第 4・四半期までの推移をみると、表 2-11 及び図 2-11 のとおり。

□ 屋内での生活の工夫の有無の割合は、年間の平均では、工夫がある人が 90.2%、ない人が 9.8%となっている

表 2-11 屋内での生活における工夫の有無の推移

	ある	ない	回答なし	合計
第1・四半期	40	3	7	43
	93.0%	7.0%	—	100.0%
第2・四半期	39	6	4	45
	86.7%	13.3%	—	100.0%
第3・四半期	39	4	4	43
	90.7%	9.3%	—	100.0%
第4・四半期	38	4	6	42
	90.5%	9.5%	—	100.0%
年間単純平均	39.0	4.3	5.3	43.3
	90.2%	9.8%	—	100.0%
27年度平均	39.0	5.5	5.8	44.5
	87.6%	12.4%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

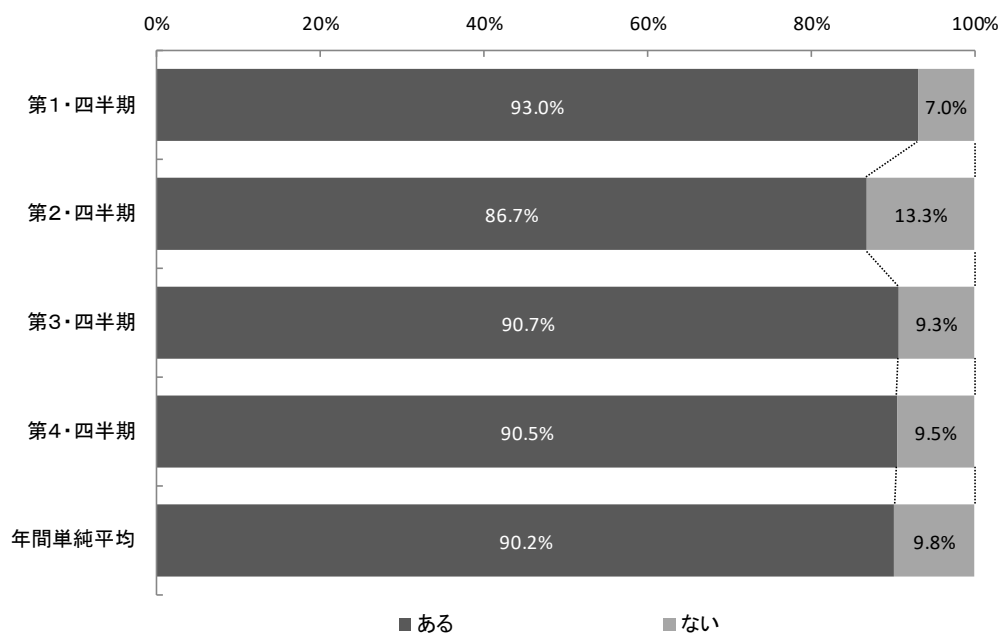


図 2-11 屋内での生活における工夫の有無の推移

④-1 屋内での生活における工夫【家のつくり等】（SJSの健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者 38人）

- 屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表2-12及び図2-12のとおり（複数回答）。
- 「よく使う物は同じ場所に置く」が94.7%、「通路や床に物を置かない」が76.3%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が34.2%、「段差がないように敷物などで調整」が28.9%となっている
- その他としては、「電化製品のコードにカバーを着けた」「本人が通る場所に物を置かない」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 39人）

- 第2・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表2-12及び図2-12のとおり（複数回答）。
- 「よく使う物は同じ場所に置く」が97.4%、「通路や床に物を置かない」が87.2%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が30.8%、「段差がないように敷物などで調整」が25.6%となっている
- その他としては、「輪ゴムで目じるし」「カーテン（照明の調整）」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 38人）

- 第3・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表2-12及び図2-12のとおり（複数回答）。
- 「よく使う物は同じ場所に置く」が94.7%、「通路や床に物を置かない」が84.2%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が31.6%、「段差がないように敷物などで調整」が23.7%となっている
- その他としては、「トイレの便座は、いつも下げておく。フタは開けておく」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 37人）

- 第4・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表2-12及び図2-12のとおり（複数回答）。
- 「よく使う物は同じ場所に置く」が94.6%、「通路や床に物を置かない」が86.5%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が35.1%、「段差がないように敷物などで調整」が16.2%となっている
- その他としては、「引戸にした」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-12及び図2-12のとおり（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容の年間の平均では「よく使う物は同じ場所に置く」が95.4%、「通路や床に物を置かない」が83.6%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が32.9%、「段差がないように敷物などで調整」が23.7%となっている

表2-12 屋内での生活における工夫【家のつくり等】の推移

	通路や床に物を置かない	よく使う物は同じ場所に置く	段差がないように敷物などで調整	移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	29	36	11	13	4	2	38
	76.3%	94.7%	28.9%	34.2%	10.5%	—	—
第2・四半期	34	38	10	12	7	0	39
	87.2%	97.4%	25.6%	30.8%	17.9%	—	—
第3・四半期	32	36	9	12	2	1	38
	84.2%	94.7%	23.7%	31.6%	5.3%	—	—
第4・四半期	32	35	6	13	7	1	37
	86.5%	94.6%	16.2%	35.1%	18.9%	—	—
年間単純平均	31.8	36.3	9.0	12.5	5.0	1.0	38.0
	83.6%	95.4%	23.7%	32.9%	13.2%	—	—
27年度平均	31.3	35.8	10.8	9.8	6.8	1.3	37.8
	82.8%	94.7%	28.5%	25.8%	17.9%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

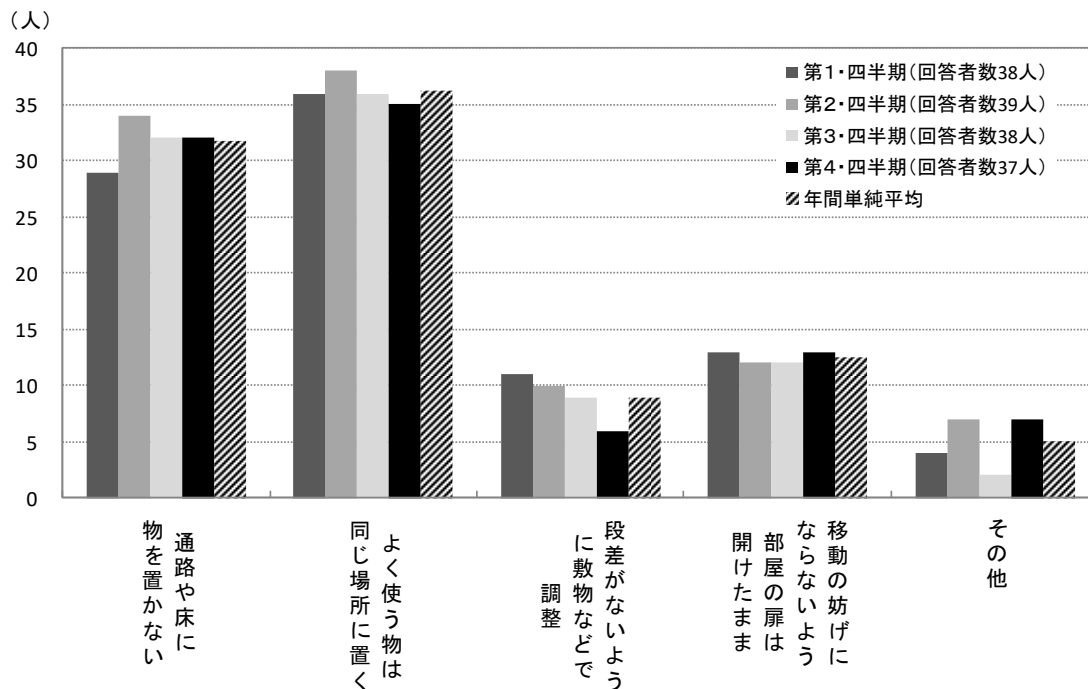


図2-12 屋内での生活における工夫【家のつくり等】の推移

④-1 屋内での生活における工夫【補助用具等】（SJSの健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者 38人）

- 屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表2-13及び図2-13のとおり（複数回答）。
 - 「音声ガイドや朗読サービスの活用」が57.9%、「拡大読書器・ルーペの活用」が55.3%となっている
 - その他としては、「音声の腕時計」「音声パソコン」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 35人）

- 第2・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表2-13及び図2-13のとおり（複数回答）。
 - 「音声ガイドや朗読サービスの活用」が60.0%、「拡大読書器・ルーペの活用」が57.1%となっている
 - その他としては、「パソコン画面読み上げソフト利用」「音声タブレット」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 34人）

- 第3・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表2-13及び図2-13のとおり（複数回答）。
 - 「音声ガイドや朗読サービスの活用」が64.7%、「拡大読書器・ルーペの活用」が50.0%となっている
 - その他としては、「点字シール」「スマホ」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 35人）

- 第4・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表2-13及び図2-13のとおり（複数回答）。
 - 「音声ガイドや朗読サービスの活用」が65.7%、「拡大読書器・ルーペの活用」が51.4%となっている
 - その他としては、「スマホのカメラや音声機能」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-13及び図2-13のとおり（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容の年間の平均では「音声ガイドや朗読サービスの活用」が62.0%、「拡大読書器・ルーペの活用」が53.5%となっている

表2-13 屋内での生活における工夫【補助用具等】の推移

	拡大読書器・ ルーペの活用	音声ガイドや 朗読サービスの 活用	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	21 55.3%	22 57.9%	6 15.8%	2 —	38 —
第2・四半期	20 57.1%	21 60.0%	7 20.0%	4 —	35 —
第3・四半期	17 50.0%	22 64.7%	10 29.4%	5 —	34 —
第4・四半期	18 51.4%	23 65.7%	4 11.4%	3 —	35 —
年間単純平均	19.0 53.5%	22.0 62.0%	6.8 19.0%	3.5 —	35.5 —
27年度平均	20.3 56.3%	21.8 60.4%	7.8 21.5%	3.0 —	36.0 —

注：上段は人数、下段は割合

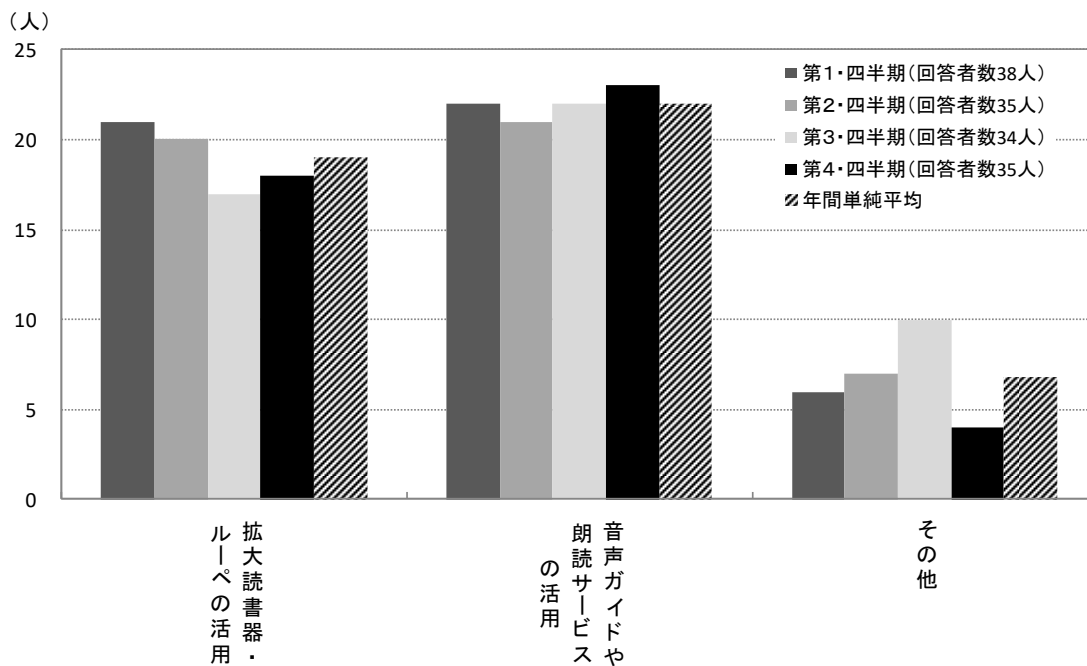


図2-13 屋内での生活における工夫【補助用具等】の推移

④-1 屋内での生活における工夫【衛生面等】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者 30 人）

- 屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表2-14 及び図2-14 のとおり（複数回答）。
- 「こまめな温度調節」が 60.0%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が 43.3%、「ハウスダストの徹底した除去」が 23.3%となっている
- その他としては、「保湿のためのクリーム塗布」「手洗い、うがい」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 31 人）

- 第2・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表2-14 及び図2-14 のとおり（複数回答）。
- 「こまめな温度調節」が 67.7%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が 58.1%、「ハウスダストの徹底した除去」が 35.5%となっている
- その他としては、「マスク着用、点眼、空気清浄機、身体保湿剤塗布」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 27 人）

- 第3・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表2-14 及び図2-14 のとおり（複数回答）。
- 「乾燥予防のため加湿器を利用」が 66.7%、「こまめな温度調節」が 55.6%、「ハウスダストの徹底した除去」が 29.6%となっている
- その他としては、「目など、感染予防の為に、手ピカジェルの様な消毒液を使用」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 29 人）

- 第4・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表2-14 及び図2-14 のとおり（複数回答）。
- 「乾燥予防のため加湿器を利用」が 75.9%、「こまめな温度調節」が 65.5%、「ハウスダストの徹底した除去」が 37.9%となっている
- その他としては、「マスクに水をつける」「空気清浄器（花粉症）」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-14及び図2-14のとおり（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容の年間の平均では「こまめな温度調節」が62.4%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が60.7%、「ハウスダストの徹底した除去」が31.6%となっている

表2-14 屋内での生活における工夫【衛生面等】の推移

	乾燥予防のため加湿器を利用	こまめな温度調節	ハウスダストの徹底した除去	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	13	18	7	6	10	30
	43.3%	60.0%	23.3%	20.0%	—	
第2・四半期	18	21	11	3	8	31
	58.1%	67.7%	35.5%	9.7%	—	
第3・四半期	18	15	8	4	12	27
	66.7%	55.6%	29.6%	14.8%	—	
第4・四半期	22	19	11	5	9	29
	75.9%	65.5%	37.9%	17.2%	—	
年間単純平均	17.8	18.3	9.3	4.5	9.8	29.3
	60.7%	62.4%	31.6%	15.4%	—	
27年度平均	16.5	14.8	8.5	8.8	9.8	29.3
	56.4%	50.4%	29.1%	29.9%	—	

注：上段は人数、下段は割合

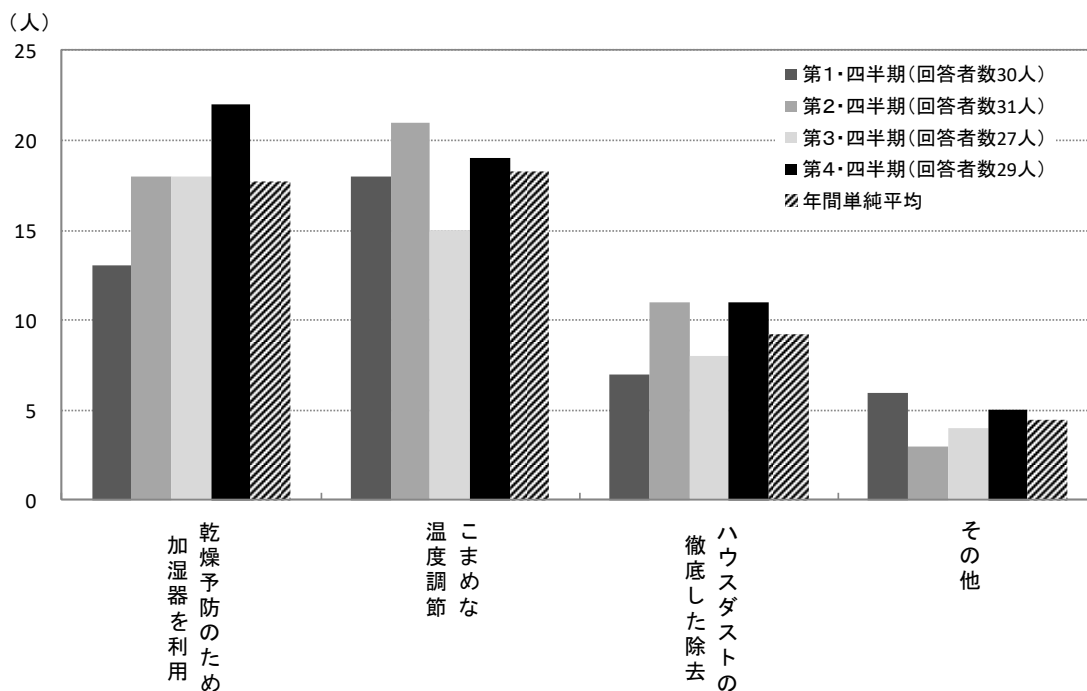


図2-14 屋内での生活における工夫【衛生面等】の推移

④-1 屋内での生活における工夫【**区別方法**】（SJSの健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者25人）

- 屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表2-15及び図2-15のとおり（複数回答）。
- 「点字シールをつける」が48.0%、「カラーテープで目印」が32.0%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が16.0%となっている
- その他としては、「書類は、クリップの付け方で区別」「音声読みとりシール」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者28人）

- 第2・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表2-15及び図2-15のとおり（複数回答）。
- 「点字シールをつける」が42.9%、「カラーテープで目印」が35.7%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が14.3%となっている
- その他としては、「化粧品等デコシールを利用」「凹凸をつける、配色」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者24人）

- 第3・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表2-15及び図2-15のとおり（複数回答）。
- 「カラーテープで目印」が45.8%、「点字シールをつける」が37.5%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が16.7%となっている
- その他としては、「輪ゴム」「センサーライト」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者22人）

- 第4・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表2-15及び図2-15のとおり（複数回答）。
- 「カラーテープで目印」が45.5%、「点字シールをつける」が40.9%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が22.7%となっている
- その他としては、「書類などは、クリップの付け方で区別」「薬の容器にシールをはったり、テープをまいたり」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-15及び図2-15のとおり（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容の年間の平均では「点字シールをつける」が42.4%、「カラーテープで目印」が39.4%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が17.2%となっている

表2-15 屋内での生活における工夫【区別方法】の推移

	点字シールをつける	カラーテープで目印	室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	12 48.0%	8 32.0%	4 16.0%	5 20.0%	15	25
第2・四半期	12 42.9%	10 35.7%	4 14.3%	6 21.4%	11	28
第3・四半期	9 37.5%	11 45.8%	4 16.7%	3 12.5%	15	24
第4・四半期	9 40.9%	10 45.5%	5 22.7%	2 9.1%	16	22
年間単純平均	10.5 42.4%	9.8 39.4%	4.3 17.2%	4.0 16.2%	14.3	24.8
27年度平均	8.8 36.1%	7.5 30.9%	4.3 17.5%	7.3 29.9%	14.8	24.3

注：上段は人数、下段は割合

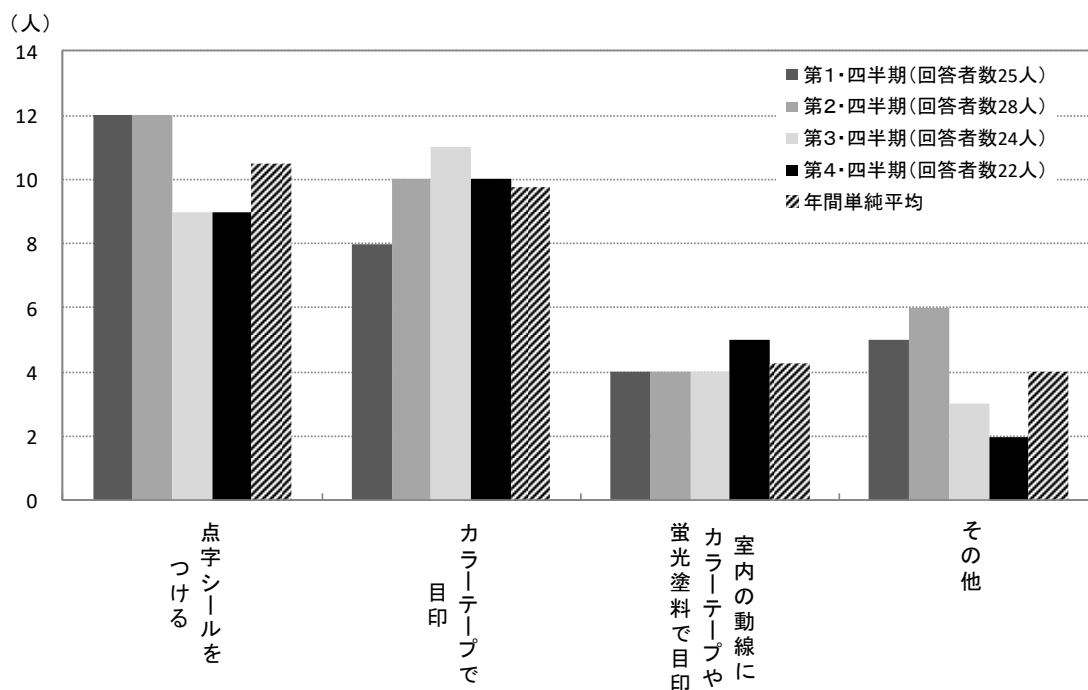


図2-15 屋内での生活における工夫【区別方法】の推移

④-2 屋内での生活における工夫

○本人または介護者にたずねた屋内での生活における工夫の主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 柱の角やドア枠の角等は、身体をぶつけ易いので隙き間テープで保護している。
- ・ テーブルに置いてある位置を安全にわかるようにグラス等の下にコースターを敷いている。
- ・ 万が一の場合を考え、ガラス製品は使用しない
- ・ シャンプーに輪ゴムをまく
- ・ 扉は全て開けておく
- ・ ガラス食器は無色透明だと見辛いので、使用後はすぐに洗って元の場所に戻す。
- ・ ブラインドやレースのカーテンで、部屋の中につい日光が差し込まないようにする。
- ・ 炊飯器などスイッチに凸凹のシールなどはる。
- ・ より安定性のあるイスに交換
- ・ 寝たきりなので出来るだけ車イスに座らせる様に心掛けている。
- ・ 天井に付いているエアコンの防風対策。室温調整。
- ・ 口に入れて危ないおもちゃの除去
- ・ 浴室、トイレ等手すりをつけた
- ・ ドアノブなど突起している物にあたる（ぶつかる）事あるため、カバーをした。
- ・ 物の位置をかえない。
- ・ テレビやラジオをつけておくと位置がわかりやすい
- ・ 靴下を履かない
- ・ 鍵の表・裏がわかるように印をつけた。
- ・ 足元につまづく物を置かない。手の届く位置に危ない物をおかない。
- ・ コンセントは、つけたままにしておく。（コンセントさし込みをするのが困難なため）
- ・ 冷蔵庫の賞味期限の確認をヘルパー訪問時にしてもらう
- ・ 物の移動など必ず声をかける
- ・ 階段にカラーテープ
- ・ 部屋を明るくする（暗いと見えない）。行動を起こす前の準備をする（慌てないために）。
- ・ 物をできるだけ置かないようにし、本人が自宅で過ごしやすくなるように心がけている。
- ・ ケガのないようすべり止めマットを使う。
- ・ 自動電灯
- ・ 郵便受けに点字書籍等大型の封筒が入らない為ドアに袋をさげ入れてもらう
- ・ スwitchはなるべくタッチパネル風をさける
- ・ 自宅はバリアフリー。実家は日本家屋の為敷居等の段差ありの生活な為、屋内はほとんど素足で生活している。
- ・ DVD や音楽を楽しめるようレンタルしている

■ 日常生活について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

⑤日常生活について

⑤-1 新聞や本を読むことの不自由さについて

ア 第1・四半期（回答者45人）

- 第1・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表2-16及び図2-16のとおり。
- 新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が66.7%、「とても不自由」が31.1%となっている

イ 第2・四半期（回答者45人）

- 第2・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表2-16及び図2-16のとおり。
- 新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が55.6%、「とても不自由」が42.2%となっている

ウ 第3・四半期（回答者43人）

- 第3・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表2-16及び図2-16のとおり。
- 新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が62.8%、「とても不自由」が32.6%となっている

エ 第4・四半期（回答者44人）

- 第4・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表2-16及び図2-16のとおり。
- 新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が65.9%、「とても不自由」が31.8%となっている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-16及び図2-16のとおり。
- ものが見えにくいため新聞や本を読むことの不自由さについては、年間の平均では「見えにくいのでやめた」が62.7%、「とても不自由」が34.5%となっている

表 2-16 新聞や本を読むことの不自由さの推移

	全く不自由 はない	あまり不自由 はない	とても不自由	見えにくいの でやめた	回答なし	合 計
第1・四半期	0	1	14	30	5	45
	0.0%	2.2%	31.1%	66.7%	—	100.0%
第2・四半期	0	1	19	25	4	45
	0.0%	2.2%	42.2%	55.6%	—	100.0%
第3・四半期	1	1	14	27	4	43
	2.3%	2.3%	32.6%	62.8%	—	100.0%
第4・四半期	1	0	14	29	4	44
	2.3%	0.0%	31.8%	65.9%	—	100.0%
年間単純平均	0.5	0.8	15.3	27.8	4.3	44.3
	1.1%	1.7%	34.5%	62.7%	—	100.0%
27年度平均	0.0	1.5	16.8	29.0	3.0	47.3
	0.0%	3.2%	35.4%	61.4%	—	100.0%
26年度平均	0.0	1.8	16.8	30.8	15.8	49.3
	0.0%	3.6%	34.0%	62.4%	—	100.0%
25年度平均	0.0	2.0	16.5	33.3	5.0	51.8
	0.0%	3.9%	31.9%	64.3%	—	100.0%
24年度平均	0.8	1.5	15.3	28.8	5.0	46.3
	1.6%	3.2%	33.0%	62.2%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

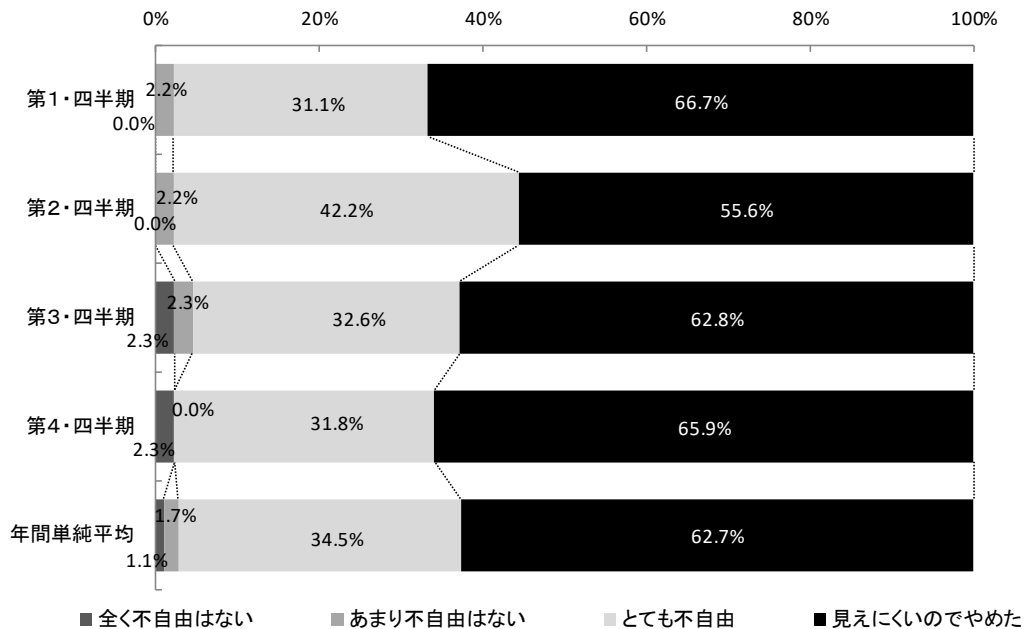


図 2-16 新聞や本を読むことの不自由さの推移

⑤-2 目や目のまわりの痛み・不快感の程度について

ア 第1・四半期（回答者48人）

○第1・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表2-17及び図2-17のとおり。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が54.2%、「中くらいある」が31.3%となっている

イ 第2・四半期（回答者48人）

○第2・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表2-17及び図2-17のとおり。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が58.3%、「中くらいある」が22.9%となっている

ウ 第3・四半期（回答者46人）

○第3・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表2-17及び図2-17のとおり。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が58.7%、「中くらいある」が21.6%となっている

エ 第4・四半期（回答者46人）

○第4・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表2-17及び図2-17のとおり。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が52.2%、「中くらいある」が30.4%となっている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-17及び図2-17のとおり。

□目や目のまわりの痛み・不快感の程度については、年間の平均では「かなりある」が55.9%、「中くらいある」が27.7%となっている

表 2-17 目や目のまわりの痛み・不快感の程度の推移

	かなりある	中くらいある	かすかにある	まったくない	回答なし	合計
第1・四半期	26	15	7	0	2	48
	54.2%	31.3%	14.6%	0.0%	—	100.0%
第2・四半期	28	11	9	0	1	48
	58.3%	22.9%	18.8%	0.0%	—	100.0%
第3・四半期	27	12	7	0	1	46
	58.7%	26.1%	15.2%	0.0%	—	100.0%
第4・四半期	24	14	8	0	2	46
	52.2%	30.4%	17.4%	0.0%	—	100.0%
年間単純平均	26.3	13.0	7.8	0.0	1.5	47.0
	55.9%	27.7%	16.5%	0.0%	—	100.0%
27年度平均	27.0	15.3	7.3	0.0	0.8	49.5
	54.5%	30.8%	14.6%	0.0%	—	100.0%
26年度平均	30.3	12.8	8.8	0.0	13.3	51.8
	58.5%	24.6%	16.9%	0.0%	—	100.0%
25年度平均	27.5	18.0	8.5	0.3	2.5	54.3
	50.7%	33.2%	15.7%	0.5%	—	100.0%
24年度平均	28.0	15.8	5.3	0.0	2.3	49.0
	57.1%	32.1%	10.7%	0.0%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

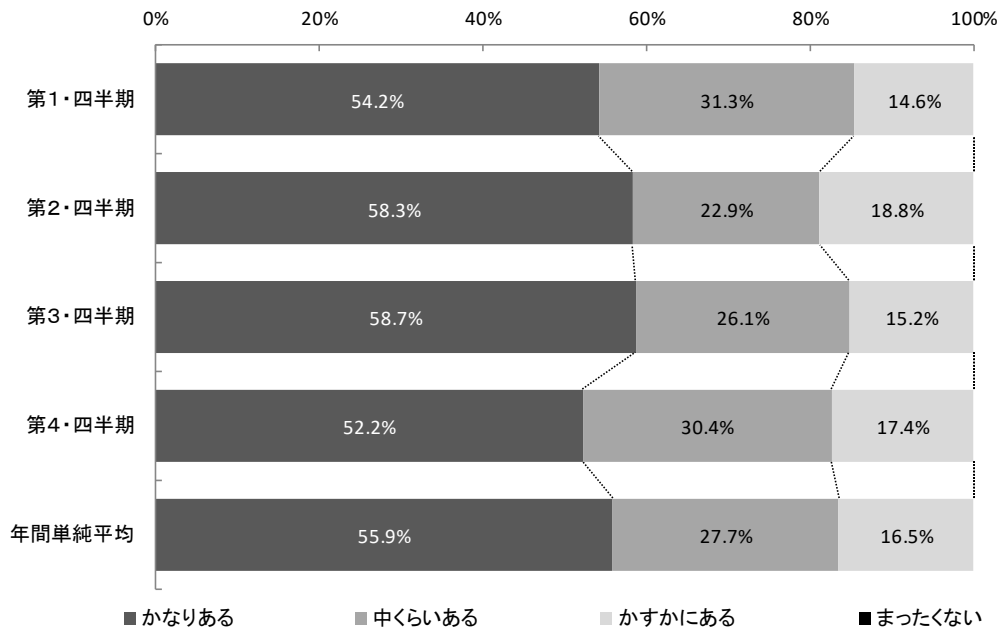


図 2-17 目や目のまわりの痛み・不快感の程度の推移

⑤-3 ものが見えにくいいため物事を思いどおりにやりとげられない場合

ア 第1・四半期（回答者 48 人）

- 第1・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表 2-18 及び図 2-18 のとおり。
- ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が 93.8%、「ない」が 6.3%となっている

イ 第2・四半期（回答者 48 人）

- 第2・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表 2-18 及び図 2-18 のとおり。
- ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が 95.8%、「ない」が 4.2%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 46 人）

- 第3・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表 2-18 及び図 2-18 のとおり。
- ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が 95.7%、「ない」が 4.3%となっている

エ 第4・四半期（回答者 45 人）

- 第4・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表 2-18 及び図 2-18 のとおり。
- ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が 93.3%、「ない」が 6.7%となっている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-18 及び図 2-18 のとおり。
- ものが見えにくいいため物事を思いどおりにやりとげられない場合については、年間の平均では「ある」が 94.7%、「ない」が 5.3%となっている

表 2-18 ものが見えにくいため物事を思いどおりにやりとげられない場合の推移

	かなりある	中くらいある	かすかにある	ある	ない	まったくない	回答なし	合計
第1・四半期	—	—	—	45	3	—	2	48
	—	—	—	93.8%	6.3%	—	—	100.0%
第2・四半期	—	—	—	46	2	—	1	48
	—	—	—	95.8%	4.2%	—	—	100.0%
第3・四半期	—	—	—	44	2	—	1	46
	—	—	—	95.7%	4.3%	—	—	100.0%
第4・四半期	—	—	—	42	3	—	3	45
	—	—	—	93.3%	6.7%	—	—	100.0%
年間単純平均	—	—	—	44.3	2.5	—	1.8	46.8
	—	—	—	94.7%	5.3%	—	—	100.0%
27年度平均	—	—	—	46.3	2.3	—	1.8	48.5
	—	—	—	95.4%	4.6%	—	—	100.0%
26年度平均	36.0	12.0	3.5	—	—	0.3	13.3	51.8
	69.6%	23.2%	6.8%	—	—	0.5%	—	100.0%
25年度平均	39.0	10.5	4.0	—	—	0.0	3.3	53.5
	72.9%	19.6%	7.5%	—	—	0.0%	—	100.0%
24年度平均	36.5	10.0	2.3	—	—	0.0	2.5	48.8
	74.9%	20.5%	4.6%	—	—	0.0%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

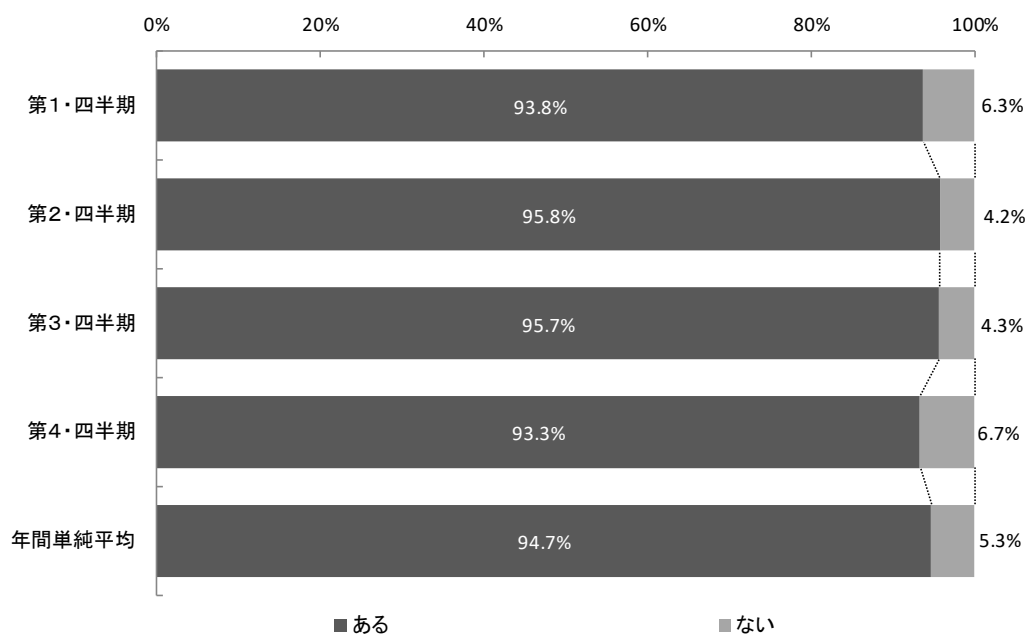


図 2-18 ものが見えにくいため物事を思いどおりにやりとげられない場合の推移

⑤-4 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無

ア 第1・四半期（回答者47人）

○第1・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表2-19及び図2-19のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「ある」が89.4%、「ない」が10.6%となっている

イ 第2・四半期（回答者46人）

○第2・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表2-19及び図2-19のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「ある」が89.1%、「ない」が10.9%となっている

ウ 第3・四半期（回答者46人）

○第3・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表2-19及び図2-19のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「ある」が84.8%、「ない」が15.2%となっている

エ 第4・四半期（回答者44人）

○第4・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表2-19及び図2-19のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「ある」が90.9%、「ない」が9.1%となっている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-19及び図2-19のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることの有無については、年間の平均では「ある」が88.5%、「ない」が11.5%となっている

表 2-19 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無の推移

	かなりある	中くらいある	かすかにある	ある	ない	まったくない	回答なし	合計
第1・四半期	—	—	—	42	5	—	3	47
	—	—	—	89.4%	10.6%	—	—	100.0%
第2・四半期	—	—	—	41	5	—	3	46
	—	—	—	89.1%	10.9%	—	—	100.0%
第3・四半期	—	—	—	39	7	—	1	46
	—	—	—	84.8%	15.2%	—	—	100.0%
第4・四半期	—	—	—	40	4	—	4	44
	—	—	—	90.9%	9.1%	—	—	100.0%
年間単純平均	—	—	—	40.5	5.3	—	2.8	45.8
	—	—	—	88.5%	11.5%	—	—	100.0%
27年度平均	—	—	—	42.8	4.5	—	3.0	47.3
	—	—	—	90.5%	9.5%	—	—	100.0%
26年度平均	28.0	16.8	6.0	—	—	0.8	13.5	51.5
	54.4%	32.5%	11.7%	—	—	1.5%	—	100.0%
25年度平均	31.8	14.8	5.3	—	—	1.8	3.3	53.5
	59.3%	27.6%	9.8%	—	—	3.3%	—	100.0%
24年度平均	30.5	13.0	5.0	—	—	0.0	2.8	48.5
	62.9%	26.8%	10.3%	—	—	0.0%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

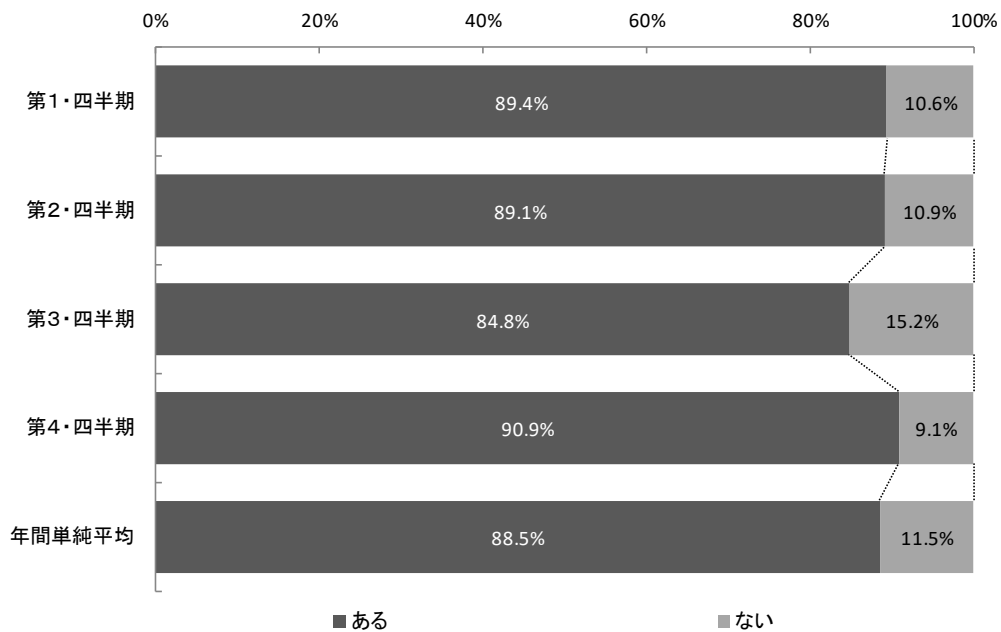


図 2-19 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無の推移

⑤-5 視力以外の状況【皮膚や爪に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 44 人）

- 第1・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表 2-20 及び図 2-20 のとおり（複数回答）。
- 「皮膚のかゆみ、乾燥」と「爪の変更、剥離」が 81.8%、「瘢痕が残る」が 43.2% となっている
- その他としては、「爪がはえてこない、物がつかめない」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 44 人）

- 第2・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表 2-20 及び図 2-20 のとおり（複数回答）。
- 「爪の変更、剥離」が 84.1%、「皮膚のかゆみ、乾燥」が 79.5%、「瘢痕が残る」が 45.5%となっている
- その他としては、「汗が出ない部分がある」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 43 人）

- 第3・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表 2-20 及び図 2-20 のとおり（複数回答）。
- 「爪の変更、剥離」が 86.0%、「皮膚のかゆみ、乾燥」が 81.4%、「瘢痕が残る」が 62.8%となっている
- その他としては、「アトピー性皮膚炎」「爪がはえてこない」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 44 人）

- 第4・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表 2-20 及び図 2-20 のとおり（複数回答）。
- 「皮膚のかゆみ、乾燥」が 84.1%、「爪の変更、剥離」が 75.0%、「瘢痕が残る」が 50.0%となっている
- その他としては、「つめの周りがわれて血がにじむ」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-20 及び図 2-20 のとおり（複数回答）。
- 皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「皮膚のかゆみ、乾燥」と「爪の変更、剥離」が 81.7%、「瘢痕が残る」が 50.3%となっている

表 2-20 視力以外の状況【皮膚や爪に関する症状】の推移

	皮膚のかゆみ、乾燥	癒痕が残る	爪の変更、剥離	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	36	19	36	3	6	44
	81.8%	43.2%	81.8%	6.8%	—	—
第2・四半期	35	20	37	8	5	44
	79.5%	45.5%	84.1%	18.2%	—	—
第3・四半期	35	27	37	3	4	43
	81.4%	62.8%	86.0%	7.0%	—	—
第4・四半期	37	22	33	3	4	44
	84.1%	50.0%	75.0%	6.8%	—	—
年間単純平均	35.8	22.0	35.8	4.3	4.8	43.8
	81.7%	50.3%	81.7%	9.7%	—	—
27年度平均	33.0	21.8	34.8	4.5	6.3	44.0
	75.0%	49.4%	79.0%	10.2%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

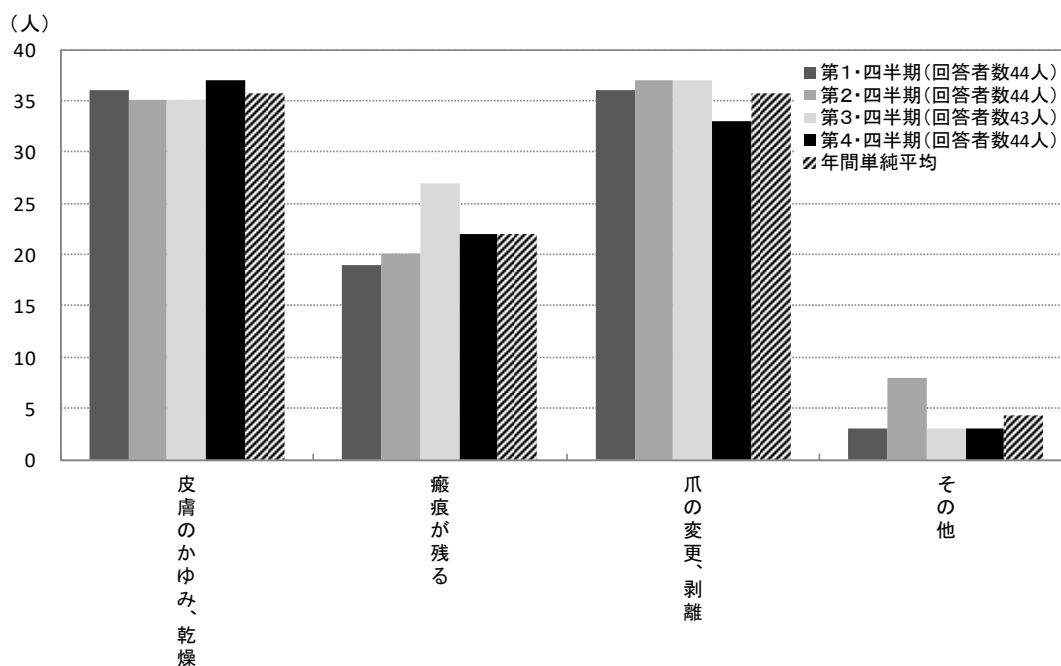


図 2-20 視力以外の状況【皮膚や爪に関する症状】の推移

⑤-5 視力以外の状況【内臓機能に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 27人）

- 第1・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-21 及び図 2-21 のとおり（複数回答）。
- 「高血圧」が 51.9%、「粘膜不全」と「心肺機能の低下・異常」が 33.3%となっている
- その他としては、「慢性胃炎」「逆流性食道炎」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 27人）

- 第2・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-21 及び図 2-21 のとおり（複数回答）。
- 「高血圧」が 55.6%、「粘膜不全」が 44.4%、「心肺機能の低下・異常」と「肝機能の低下・異常」が 25.9%となっている
- その他としては、「高脂血症」「脳梗塞後遺症」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 25人）

- 第3・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-21 及び図 2-21 のとおり（複数回答）。
- 「高血圧」が 48.0%、「粘膜不全」と「心肺機能の低下・異常」が 36.0%となっている
- その他としては、「逆流性食道炎」「血糖値が高い」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 27人）

- 第4・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-21 及び図 2-21 のとおり（複数回答）。
- 「高血圧」が 51.9%、「粘膜不全」が 40.7%、「心肺機能の低下・異常」が 29.6%となっている
- その他としては、「慢性胃炎」「糖尿病」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-21 及び図 2-21 のとおり（複数回答）。
- 内臓機能に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「高血圧」が 51.9%、「粘膜不全」が 38.7%、「心肺機能の低下・異常」が 30.2%となっている

表 2-21 視力以外の状況【内臓機能に関する症状】の推移

	高血圧	粘膜不全	心肺機能の低下・異常	肝機能の低下・異常	腎機能の低下・異常	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	14	9	9	8	5	5	23	27
	51.9%	33.3%	33.3%	29.6%	18.5%	18.5%	—	—
第2・四半期	15	12	7	7	4	4	22	27
	55.6%	44.4%	25.9%	25.9%	14.8%	14.8%	—	—
第3・四半期	12	9	9	8	4	3	22	25
	48.0%	36.0%	36.0%	32.0%	16.0%	12.0%	—	—
第4・四半期	14	11	7	8	2	7	21	27
	51.9%	40.7%	25.9%	29.6%	7.4%	25.9%	—	—
年間単純平均	13.8	10.3	8.0	7.8	3.8	4.8	22.0	26.5
	51.9%	38.7%	30.2%	29.2%	14.2%	17.9%	—	—
27年度平均	14.0	10.5	11.0	6.3	2.0	7.3	20.3	30.0
	46.7%	35.0%	36.7%	20.8%	6.7%	24.2%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

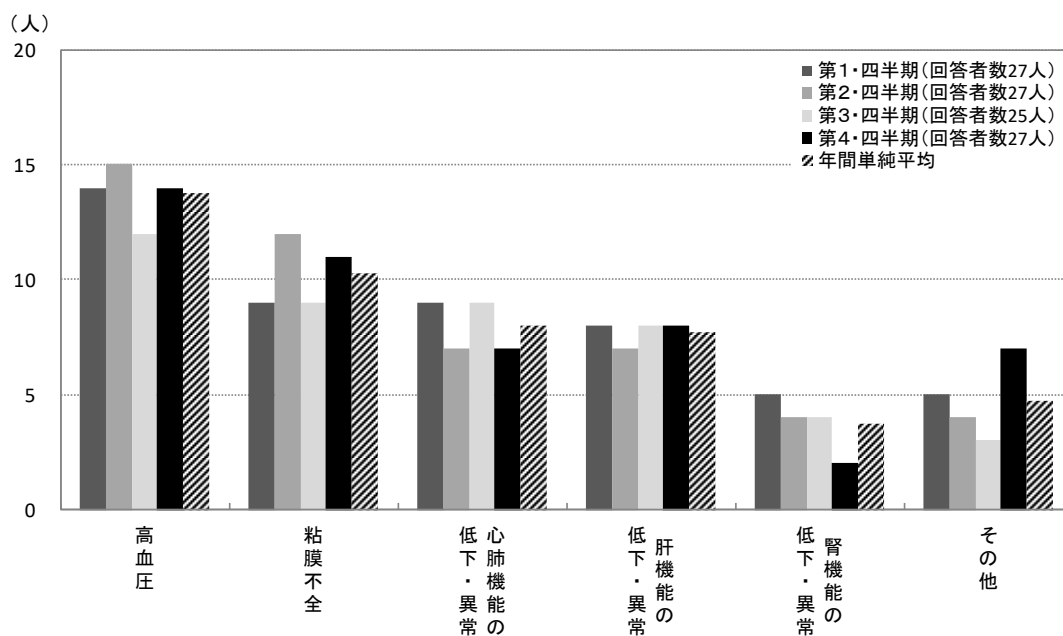


図 2-21 視力以外の状況【内臓機能に関する症状】の推移

⑤-5 視力以外の状況【聴覚・呼吸機能に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 37人）

- 第1・四半期において、聴覚・呼吸機能に関する症状についてたずねた結果は、表2-22及び図2-22のとおり（複数回答）。
- 「アレルギー性鼻炎」が56.8%、「気管支炎、ぜんそく」が45.9%、「音声聞き取りにくい」が40.5%となっている
- その他としては、「聴覚過敏」「副鼻腔炎」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 31人）

- 第2・四半期において、聴覚・呼吸機能に関する症状についてたずねた結果は、表2-22及び図2-22のとおり（複数回答）。
- 「アレルギー性鼻炎」が67.7%、「気管支炎、ぜんそく」が48.4%、「音声聞き取りにくい」が45.2%となっている
- その他としては、「めまい、耳鳴り」「鼓膜炎、外耳炎」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 37人）

- 第3・四半期において、聴覚・呼吸機能に関する症状についてたずねた結果は、表2-22及び図2-22のとおり（複数回答）。
- 「アレルギー性鼻炎」が62.2%、「気管支炎、ぜんそく」が43.2%、「音声聞き取りにくい」が40.5%となっている
- その他としては、「肺マック症、肺アスペルギルス」「動作時の呼吸困難」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 32人）

- 第4・四半期において、聴覚・呼吸機能に関する症状についてたずねた結果は、表2-22及び図2-22のとおり（複数回答）。
- 「アレルギー性鼻炎」が68.8%、「気管支炎、ぜんそく」が50.0%、「音声聞き取りにくい」が40.6%となっている
- その他としては、「副鼻腔炎」「長い話をしているとせき込む」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-22及び図2-22のとおり（複数回答）。

聴覚・呼吸機能に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「アレルギー性鼻炎」が63.5%、「気管支炎、ぜんそく」が46.7%、「音声が聞き取りにくい」が41.6%となっている

表2-22 視力以外の状況【聴覚・呼吸機能に関する症状】の推移

	音声が聞き取りにくい	気管支炎、ぜんそく	アレルギー性鼻炎	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	15	17	21	13	13	37
	40.5%	45.9%	56.8%	35.1%	—	—
第2・四半期	14	15	21	5	18	31
	45.2%	48.4%	67.7%	16.1%	—	—
第3・四半期	15	16	23	6	10	37
	40.5%	43.2%	62.2%	16.2%	—	—
第4・四半期	13	16	22	8	16	32
	40.6%	50.0%	68.8%	25.0%	—	—
年間単純平均	14.3	16.0	21.8	8.0	14.3	34.3
	41.6%	46.7%	63.5%	23.4%	—	—
27年度平均	10.8	15.5	20.5	7.5	17.3	33.0
	32.6%	47.0%	62.1%	22.7%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

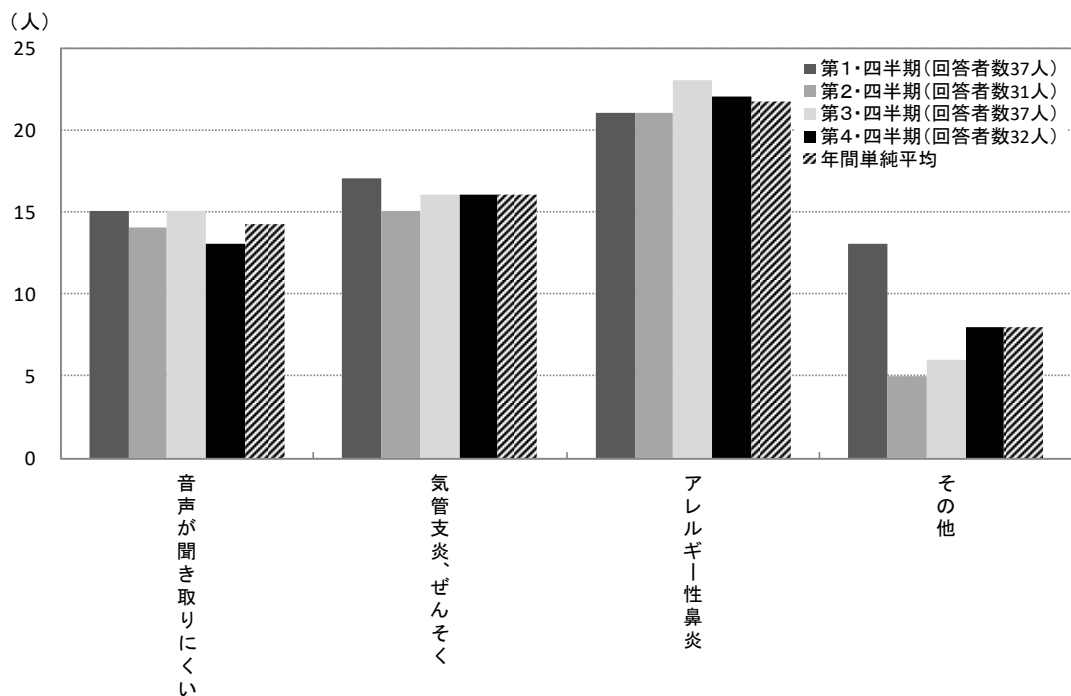


図2-22 視力以外の状況【聴覚・呼吸機能に関する症状】の推移

⑤-5 視力以外の状況【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 50 人）

- 第1・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表2-23及び図2-23のとおり（複数回答）。
 - 「ドライアイ」が94.0%、「さかさまつげ」が86.0%、「角膜の炎症」が66.0%となっている
 - その他としては、「涙のう炎」「視野障害」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 48 人）

- 第2・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表2-23及び図2-23のとおり（複数回答）。
 - 「ドライアイ」が95.8%、「さかさまつげ」が87.5%、「角膜の炎症」が66.7%となっている
 - その他としては、「瞼球癒着の進行」「結膜の炎症」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 47 人）

- 第3・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表2-23及び図2-23のとおり（複数回答）。
 - 「ドライアイ」が95.7%、「さかさまつげ」が89.4%、「角膜の炎症」が68.1%となっている
 - その他としては、「結膜炎」「視野障害」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 48 人）

- 第4・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表2-23及び図2-23のとおり（複数回答）。
 - 「ドライアイ」が95.8%、「さかさまつげ」が89.6%、「角膜の炎症」が68.8%となっている
 - その他としては、「涙のう炎」「まぶた縁の角化」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-23及び図2-23のとおり（複数回答）。
眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「ドライアイ」が95.3%、「さかさまつげ」が88.1%、「角膜の炎症」が67.4%となっている

表 2-23 視力以外の状況【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】の推移

	さかさまつげ	ドライアイ	角膜の炎症	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	43	47	33	6	0	50
	86.0%	94.0%	66.0%	12.0%	—	—
第2・四半期	42	46	32	9	1	48
	87.5%	95.8%	66.7%	18.8%	—	—
第3・四半期	42	45	32	9	0	47
	89.4%	95.7%	68.1%	19.1%	—	—
第4・四半期	43	46	33	9	0	48
	89.6%	95.8%	68.8%	18.8%	—	—
年間単純平均	42.5	46.0	32.5	8.3	0.3	48.3
	88.1%	95.3%	67.4%	17.1%	—	—
27年度平均	42.8	47.0	33.8	11.3	0.5	49.8
	85.9%	94.5%	67.8%	22.6%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

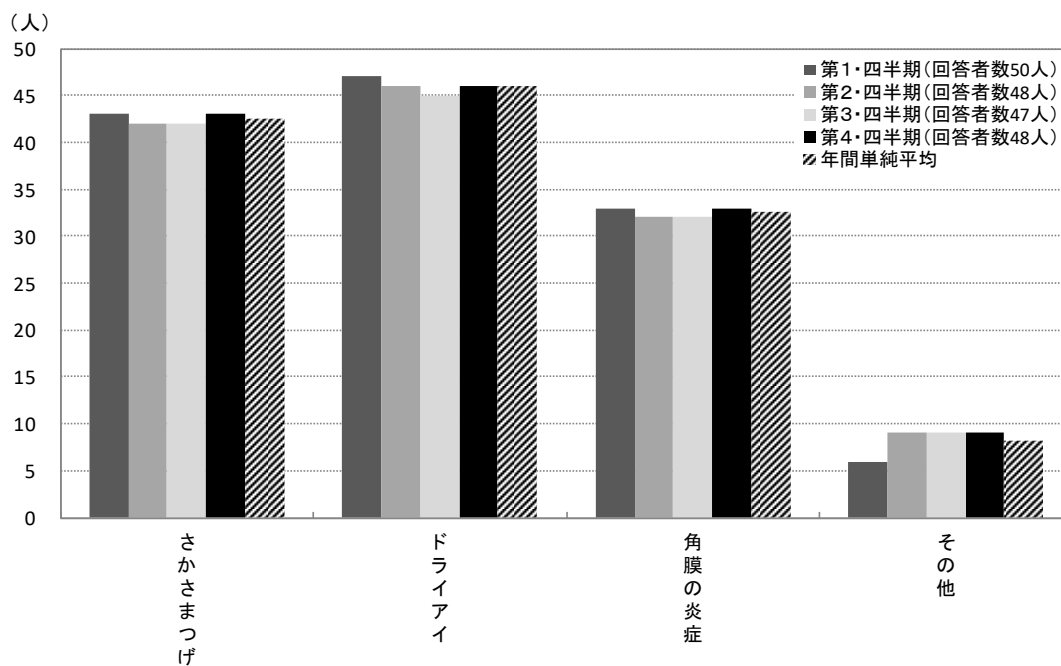


図 2-23 視力以外の状況【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】の推移

⑤-5 視力以外の状況【口腔に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 34 人）

- 第1・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表 2-24 及び図 2-24 のとおり（複数回答）。
- 「口の中が乾く」が 82.4%、「口内炎」が 58.8%、「味覚障害」が 11.8%となっている
- その他としては、「口唇ヘルペス」「舌部障害」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 35 人）

- 第2・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表 2-24 及び図 2-24 のとおり（複数回答）。
- 「口の中が乾く」が 74.3%、「口内炎」が 51.4%、「味覚障害」が 20.0%となっている
- その他としては、「歯肉が落ち、知覚過敏がひどい」「口腔粘膜一部癒着」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 36 人）

- 第3・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表 2-24 及び図 2-24 のとおり（複数回答）。
- 「口の中が乾く」が 72.2%、「口内炎」が 44.4%、「味覚障害」が 13.9%となっている
- その他としては、「舌が腫れている」「歯周病」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 35 人）

- 第4・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表 2-24 及び図 2-24 のとおり（複数回答）。
- 「口の中が乾く」が 82.9%、「口内炎」が 51.4%、「味覚障害」が 17.1%となっている
- その他としては、「歯ぐきがあさい」「舌が腫れている」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-24 及び図 2-24 のとおり（複数回答）。
- 口腔に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「口の中が乾く」が 77.9%、「口内炎」が 51.4%、「味覚障害」が 15.7%となっている

表 2-24 視力以外の状況【口腔に関する症状】の推移

	口内炎	味覚障害	口の中が乾く	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	20	4	28	4	16	34
	58.8%	11.8%	82.4%	11.8%	—	—
第2・四半期	18	7	26	3	15	35
	51.4%	20.0%	74.3%	8.6%	—	—
第3・四半期	16	5	26	7	14	36
	44.4%	13.9%	72.2%	19.4%	—	—
第4・四半期	18	6	29	6	15	35
	51.4%	17.1%	82.9%	17.1%	—	—
年間単純平均	18.0	5.5	27.3	5.0	15.0	35.0
	51.4%	15.7%	77.9%	14.3%	—	—
27年度平均	14.0	5.3	24.5	7.8	19.3	32.8
	42.7%	16.0%	74.8%	23.7%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

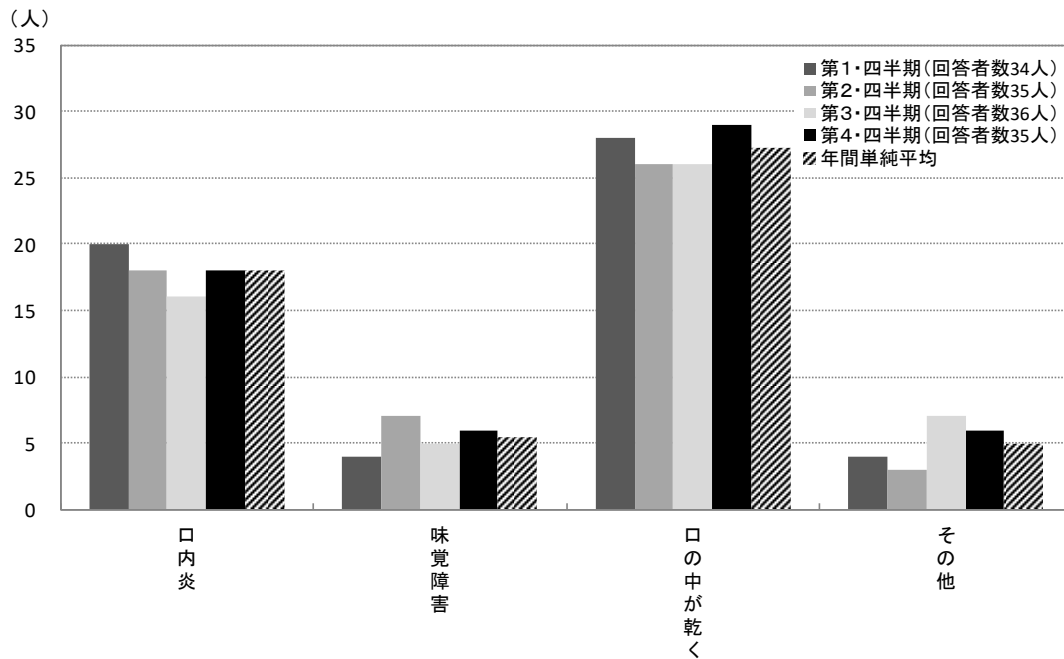


図 2-24 視力以外の状況【口腔に関する症状】の推移

⑤-5 視力以外の状況【精神的な症状】

ア 第1・四半期（回答者 20人）

- 第1・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表2-25及び図2-25のとおり（複数回答）。
- 「睡眠障害」が90.0%、「不安障害」が80.0%、「うつ」が25.0%となっている
- その他としては、「パニック障害」「対人恐怖症」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 19人）

- 第2・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表2-25及び図2-25のとおり（複数回答）。
- 「不安障害」と「睡眠障害」が68.4%、「うつ」が26.3%となっている
- その他としては、「イライラする」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 22人）

- 第3・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表2-25及び図2-25のとおり（複数回答）。
- 「睡眠障害」が72.7%、「不安障害」が63.6%、「うつ」が18.2%となっている
- その他としては、「身体表現性障害、しびれ・痛み」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 22人）

- 第4・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表2-25及び図2-25のとおり（複数回答）。
- 「不安障害」が72.7%、「睡眠障害」が63.6%、「うつ」が22.7%となっている
- その他としては、「気分がむらがある」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-25及び図2-25のとおり（複数回答）。
- 精神的な症状についてたずねた結果の年間の平均では「睡眠障害」が73.5%、「不安障害」が71.1%、「うつ」が22.9%となっている

表 2-25 視力以外の状況【精神的な症状】の推移

	不安障害	睡眠障害	うつ	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	16	18	5	3	30	20
	80.0%	90.0%	25.0%	15.0%	—	—
第2・四半期	13	13	5	3	30	19
	68.4%	68.4%	26.3%	15.8%	—	—
第3・四半期	14	16	4	1	25	22
	63.6%	72.7%	18.2%	4.5%	—	—
第4・四半期	16	14	5	3	26	22
	72.7%	63.6%	22.7%	13.6%	—	—
年間単純平均	14.8	15.3	4.8	2.5	27.8	20.8
	71.1%	73.5%	22.9%	12.0%	—	—
27年度平均	14.5	14.8	4.5	3.3	29.5	20.8
	69.9%	71.1%	21.7%	15.7%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

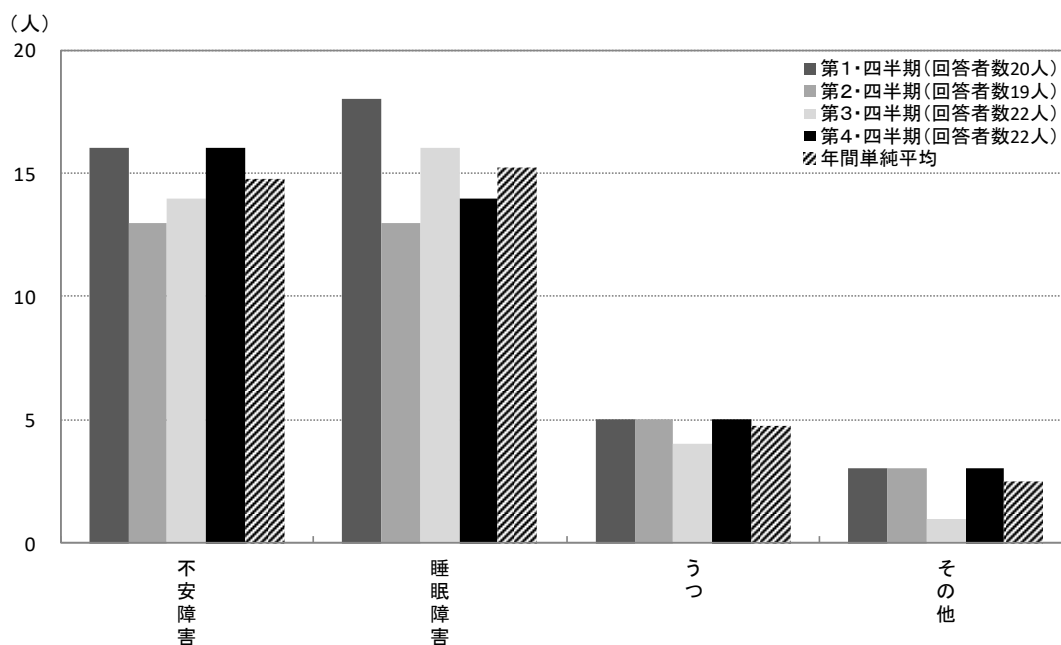


図 2-25 視力以外の状況【精神的な症状】の推移

⑤-5 視力以外の状況（その他の後遺症等）について

○本人または介護者にたずねた視力以外の状況などについて主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 原因不明の全身の筋肉や関節の痛み。
閉鎖性細気管支炎
緑膿菌への日和感染。
ひどい偏頭痛と眼精疲労。
- ・ 手術後、口を大きくあけられないのと、歯の下の骨と削っている為、歯が痛い事が多々ある
- ・ 顔、手、首等皮膚が茶黒く肥厚している。
気管支ぜん息で通院
- ・ てんかん
体温調整がうまく出来ない。多汗だったり急に寒く感じたりと体調管理がさらに難しい。
- ・ 目やにが多い
泌尿器や、婦人科も炎症
副腎にも異常あり
- ・ 昨年自宅階段より落下、骨折、入院年内一杯コルセットを使用したせい運動不足と梅雨時と
年令か座っていると痛いところだらけと嘆いております。
- ・ 9年前から転んで両足の大腿骨骨折による痛みと車椅子生活になった。
入院中の5月6日に緊急の大腸摘出手術で人工肛門になった。
十二指腸潰瘍の出血で死亡（6月6日）5日間透析もできなかった。
- ・ のどの通りが細くなったのか、食べ物をよくかんで食べても飲み込む時につまる時がある
- ・ 指先に爪がないため力が入らない
- ・ 歯肉炎
- ・ 肺の状態が悪化して、人工呼吸器を装着。寝たきりで、食事も話す事もできなくなり、使用している鎮痛剤も効き目が弱くなり、しんどさと痛みで毎日生き地獄だと言っている。（気管切開をして1年になる）ベッド上での生活のため腰痛も悪化
- ・ 臍粘膜癒着
- ・ 人工股関節置換（両足）
右膝変形性膝関節症
- ・ 全身の筋、関節の痛み、頭痛、めまい。
- ・ ひざの治療
- ・ 肺マック症、肺アスペルギルス、アレルギー性鼻炎、帯状疱疹後の体のふらつき、めまい
- ・ 気管支喘息 爪の変形 アトピー性皮膚炎（顔首手等露出している部分は特にかゆみ、が強く眠れない位薬で抑え、ステロイドにより皮膚は黒く、肥厚している
- ・ 寒暖の差や、台風の影響（気圧の変化）でほとんど動けない日がある。これから、気温が下がって来るので、動けない日が多くなるので不安になる。介護者も身体障害があるので、動く事

も出来ず、今後の生活も不安に思う。今、制度が継続する事を切に願います。

- ・ 8月角膜手術で入院する予定が今回は粘膜のみの手術で8/30～9/23 迄府立医科大学外園先生のお世話になった。10/3はまだ抜糸が終っておりませんので外来で行くことになっている。本人は5才に満たない時からの発症ですので60才近い方70才をこえてから発症された方のお話し相手の慰め役をかって出ておりました。健康被害者救済部の皆様のおかげで治療に専念させて戴けますこと感謝申し上げます。
- ・ 冷え性、右膝から右足首の前方にかけてのしびれ
- ・ 歩行困難、難聴
- ・ 22年経過しているのに苦しみから逃れられない。
- ・ 食べ物を飲み込む時に気をつけているが、小さくよくかんでいてものどにつかえる時がある爪がないため指先に力が入らない
- ・ 脳出血による右半身不随、言語（失語）障害、難聴、（視力）等で最悪です。
- ・ 多くの抗生物質に耐性が出来てしまい、抗生物質が効かなくなっている。
- ・ 偏頭痛治療薬、高脂血症治療薬、消化性潰瘍治療薬 など服用
- ・ 皮フにしっしんが出来、毎日、かゆみで苦しんでいます
- ・ 腹腔内腫瘍にて大腸摘出20cm（2015年1～3月入院）
高熱が続きながら薬がきかず10日位い通院しているうち手後れになってしまった。
- ・ 尿のトラブル（ひん尿、炎症） 脳こうそくの後遺症この薬の副作用で貧血
- ・ 皮膚癬痕、口腔内の菌（ドライマウスによる）
- ・ 口腔と同じで、鼻の奥がとても乾いている。
- ・ 食道が細くなったのか、よくかんで食べても食べ物がつまる 飲み込むに大変な時がある便秘になる
- ・ 息が苦しい。労作時呼吸困難。
- ・ 卵巣腫瘍（4cm位）があつて、定期検査を行っている。
逆流性胃炎薬を服用。
- ・ 耳、足の指などに霜焼けによくなくなっていました
- ・ 消化器系で、腹膜炎、開腹手術後遺症、二年前に腹腔内膿瘍の後時々腹痛あり、気管支喘息等
- ・ 脳梗塞、下肢静脈血栓、貧血症
- ・ 発症後26年間、咳をしているが、その原因がわからない。今年、呼吸器内科と耳鼻科を受診したが異常無しと言われた。咳が出始めると、本人は非常に苦しい。
- ・ 眼の大きさがどんどん小さくなる。
- ・ 全身けんたい感 脱力感 頭痛
- ・ 食道が細くなったのか、食べ物がよくかんで飲みこもうと思ってもつまる時がある。
- ・ 疲れや、話しをしすぎるとのどがかれて声がでなくなる。
- ・ 便秘（粘膜も痛くなる）
- ・ 熱が出やすい
- ・ 足のつめ変形

■ 主たる介護者の状況について

◎主たる介護者

○主たる介護者は以下のとおり。

□年間平均では、「主として介護をしている配偶者」が 51.2%、「主として介護をしている親」が 32.0%となっている

表 2-26 主たる介護者の推移

	主として介護 をしている配 偶者	主として介 護をしてい る親	主として介 護をしてい る兄 弟姉妹	その他	回答なし	合 計
第1・四半期	23	15	1	5	14	44
	52.3%	34.1%	2.3%	11.4%	—	100.0%
第2・四半期	22	13	2	6	13	43
	51.2%	30.2%	4.7%	14.0%	—	100.0%
第3・四半期	21	14	1	5	14	41
	51.2%	34.1%	2.4%	12.2%	—	100.0%
第4・四半期	22	13	1	8	11	44
	50.0%	29.5%	2.3%	18.2%	—	100.0%
年間単純平均	22.0	13.8	1.3	6.0	13.0	43.0
	51.2%	32.0%	2.9%	14.0%	—	100.0%
27年度平均	24.3	12.5	1.0	8.5	10.3	46.3
	52.4%	27.0%	2.2%	18.4%	—	100.0%
26年度平均	25.3	17.3	1.8	8.0	12.8	52.3
	48.3%	33.0%	3.3%	15.3%	—	100.0%
25年度平均	28.3	21.5	1.3	7.0	10.5	58.0
	48.7%	37.1%	2.2%	12.1%	—	100.0%
24年度平均	23.0	20.0	2.0	7.0	10.5	52.0
	44.2%	38.5%	3.8%	13.5%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

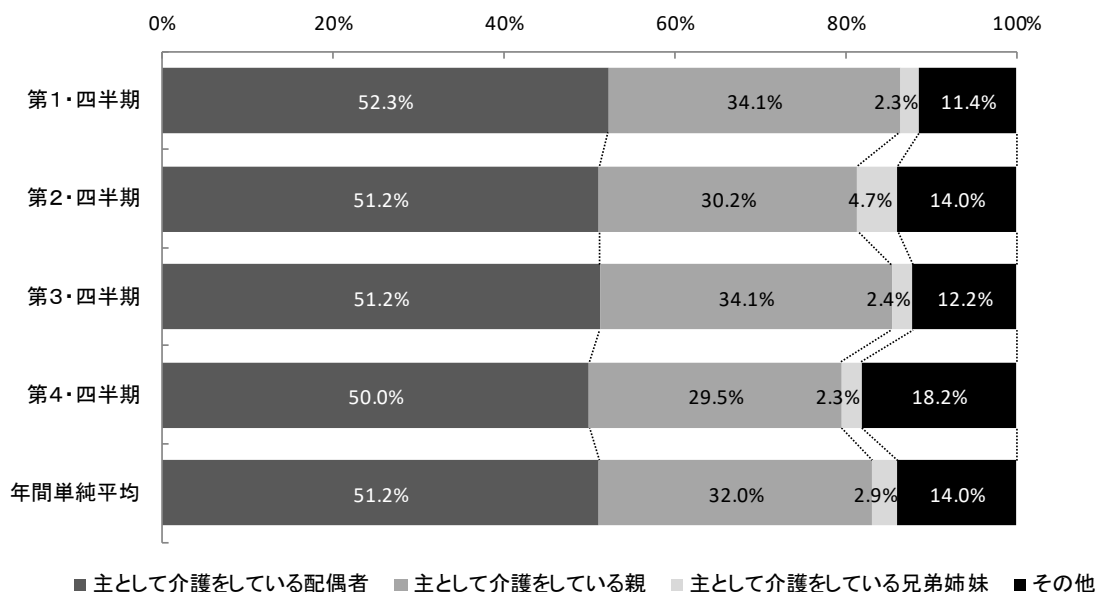


図 2-26 主たる介護者の推移

⑥主たる介護者の健康状態

ア 第1・四半期（回答者43人）

- 第1・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表2-27及び図2-27のとおり。
- 健康状態が「たいへん良好」が2.3%、「まあ良好」が44.2%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が23.3%、「やや悪い」が30.2%である

イ 第2・四半期（回答者42人）

- 第2・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表2-27及び図2-27のとおり。
- 健康状態が「たいへん良好」が2.4%、「まあ良好」が54.8%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が11.9%、「やや悪い」が31.0%である

ウ 第3・四半期（回答者41人）

- 第3・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表2-27及び図2-27のとおり。
- 健康状態が「たいへん良好」が2.4%、「まあ良好」が53.7%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が14.6%、「やや悪い」が29.3%である

エ 第3・四半期（回答者42人）

- 第3・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表2-27及び図2-27のとおり。
- 健康状態が「たいへん良好」が4.8%、「まあ良好」が57.1%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が14.3%、「やや悪い」が23.8%である

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-27及び図2-27のとおり。
- 主な介護者の健康状態については年間の平均では「たいへん良好」が3.0%、「まあ良好」が52.4%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が16.1%、「やや悪い」が28.6%である

表 2-27 主たる介護者の健康状態の推移

	たいへん良好	まあ良好	やや悪い	たいへん悪い	回答なし	合計
第1・四半期	1	19	13	10	15	43
	2.3%	44.2%	30.2%	23.3%	—	100.0%
第2・四半期	1	23	13	5	14	42
	2.4%	54.8%	31.0%	11.9%	—	100.0%
第3・四半期	1	22	12	6	14	41
	2.4%	53.7%	29.3%	14.6%	—	100.0%
第4・四半期	2	24	10	6	13	42
	4.8%	57.1%	23.8%	14.3%	—	100.0%
年間単純平均	1.3	22.0	12.0	6.8	14.0	42.0
	3.0%	52.4%	28.6%	16.1%	—	100.0%
27年度平均	2.0	24.5	13.5	3.3	13.3	43.3
	4.6%	56.6%	31.2%	7.5%	—	100.0%
26年度平均	2.0	28.8	14.3	5.3	14.8	50.3
	4.0%	57.2%	28.4%	10.4%	—	100.0%
25年度平均	1.5	31.3	17.3	6.3	12.3	56.3
	2.7%	55.6%	30.7%	11.1%	—	100.0%
24年度平均	1.3	27.5	15.3	7.3	11.3	51.3
	2.4%	53.7%	29.8%	14.1%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

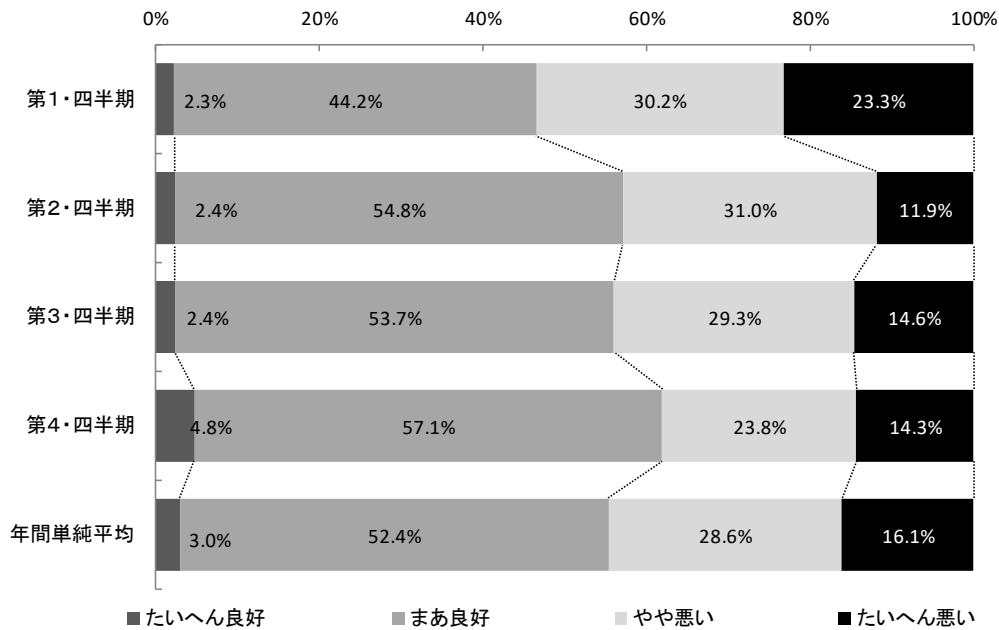


図 2-27 主たる介護者の健康状態の推移

⑥-1 主たる介護者の健康状態 詳細

○主たる介護者の健康状態についての主な具体的理由については、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ いろいろ故障はあるが、日常生活に大きな支障はない。
- ・ ストレス
- ・ 休日は妻が病院に付き添うので自分が身体を安静にする時間がない。
- ・ 入院中
- ・ 食事と運動
- ・ 腰痛、ひざ
- ・ 自分の通院
親が高齢と病身の為どちらの具合が悪くても困る事が多々ある
- ・ 本人が同行援護を利用し、ゴルフができるようになり喜んでいますが。私もその時間余裕ができたから。
- ・ 身体障害があるので自身の体調管理もあるため
- ・ 視力障害と年をとってきた。
- ・ 大きな病気なし
- ・ 視力障害の悪化
- ・ 本人が障害者になった当時（昭和 53 年 3 月）は 8 才で小さい細い子であったが今は大の男以上大きく背も寝たままなののにのび、介護に力がいり、反対に母は老化で弱くなり、筋力もなくなってきて、必死である。近い施設や病院には死んでも入れないつもりである。（介護は技術や知識でなく、「愛」「心」である。それがあれば、自然に最高の介護が出来る。形式がよくても、心がなくてはダメ）
- ・ 肩にけがした。
- ・ 老れい
- ・ 文句は決して言わない。
- ・ 4 月 1 日から主人が入院して 6 月 6 日に十二指腸潰瘍で亡くなったので精神的につらくて悲しい。
- ・ やや悪いという程度ほどでないため
- ・ 持病のため通院治療
- ・ 肩痛・腰痛がひどい
- ・ 介護を必要としないため
- ・ 本人の身体症状の訴え（特に眼が疲れる、見えない）が連続するため
- ・ 運動などで気をつけている
- ・ 薬をのまなくても大丈夫なように、生活指導を受けている（食事、運動、etc）
- ・ ヘルパーさんがある程度入ってもらっているおかげで介護の負担が減っている。
- ・ 両手首の関節炎、両膝の半月板断裂

- ・ 持病の関節痛に加え。不整脈も出て来て、病院へ行く事が多くなった。
- ・ 逆流性食道炎が改善されない。
- ・ 5月に入り発作がひどくなり、6月は学校、休み、早退が頻ばんで、介護が増えてしまい、メンタルにも身体的にも負担がかかった。
- ・ 老化にともなう障害はあるものの概ね健康。
- ・ 常に言葉で伝えなくてはならないので疲労が溜まるため。
- ・ 病院への付き添いなどで、休みがない。
- ・ 外出する時は常に介護が必要なため
- ・ 親が高齢、病弱でヘルパーを利用している（介護Ⅱ）であるが（息子（視覚障害）の目となり、外出介助をする事もあり 常に介護が必要なため
- ・ 介護者も身体障害者
- ・ 毎日、散歩ヨガ等体を動かす。
- ・ 出来る事は進んで本人がしてくれる
- ・ 耳が遠くなった。判断能力が低下。
- ・ 持病の悪化
- ・ 本人の視力低下著しく、訴えが多くなっている。とくに後期高齢期となり、高齢性難聴が年相応となり、本人の反応が遅い、と訴えられる。老々介護の認識を考えさせられる。
- ・ 更年期で体がだるく、腰も痛い。
- ・ 健康に気をつけている
- ・ 元気でいなければ…と言う、気持だけ
- ・ 介護をあまり負担と思わないから。
- ・ 不整脈やひざの関節痛など、持病が増えた
- ・ 更年期という事もあるが、息子の目の状態など考えると将来の事など考え気持ち的に落ち込みがちになる。
- ・ 少し疲れ気味
- ・ 運動週2回、ポジティブな考え方
- ・ 病院での検診で、栄養指導等を受け、食生活や運動等を行った。
- ・ 数年前からひざが変形関節症となり、リハビリが必要
- ・ 寝込むことはなかった。
- ・ インフルエンザにかかった
- ・ 逆流性食道が悪化して、食事がいつものように食べられない事があり、体力が低下した。疲れやすくなった。シーネを少しでもはずしてやりたいと思い面会数も増えた。

⑦ 介護をしていく中で困ったことの有無

ア 第1・四半期（回答者41人）

○第1・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表2-28及び図2-28のとおり。

□困ったことが「増えた」と回答した人は36.6%、「減った」と回答した人は2.4%であった

□一方で29.3%の人は、困ったことは「ない」と回答している

イ 第2・四半期（回答者41人）

○第2・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表2-28及び図2-28のとおり。

□困ったことが「増えた」と回答した人は29.3%、「減った」と回答した人は4.9%であった

□一方で19.5%の人は、困ったことは「ない」と回答している

ウ 第3・四半期（回答者40人）

○第3・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表2-28及び図2-28のとおり。

□困ったことが「増えた」と回答した人は37.5%、「減った」と回答した人は2.5%であった

□一方で12.5%の人は、困ったことは「ない」と回答している

エ 第4・四半期（回答者43人）

○第4・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表2-28及び図2-28のとおり。

□困ったことが「増えた」と回答した人は30.2%、「減った」と回答した人は4.7%であった

□一方で18.6%の人は、困ったことは「ない」と回答している

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-28及び図2-28のとおり。

□困ったことが「増えた」と回答した人は33.3%、「減った」と回答した人は3.6%、「変わらない」と回答した人は43.0%である

□また、困ったことは「ない」と回答した人は20.0%である

表 2-28 介護をしていく中で困ったことの有無の推移

	困ったことが 増えた	困ったことが 減った	困ったことが 変わらない	困ったことは ない	回答なし	合 計
第1・四半期	15 36.6%	1 2.4%	13 31.7%	12 29.3%	17 —	41 100.0%
第2・四半期	12 29.3%	2 4.9%	19 46.3%	8 19.5%	15 —	41 100.0%
第3・四半期	15 37.5%	1 2.5%	19 47.5%	5 12.5%	15 —	40 100.0%
第4・四半期	13 30.2%	2 4.7%	20 46.5%	8 18.6%	12 —	43 100.0%
年間単純平均	13.8 33.3%	1.5 3.6%	17.8 43.0%	8.3 20.0%	14.8 —	41.3 100.0%
27年度平均	21.8 55.1%		17.8 44.9%		17.0 —	39.5 100.0%
26年度平均	27.3 58.6%		19.3 41.4%		18.5 —	46.5 100.0%
25年度平均	28.3 54.3%		23.8 45.7%		16.5 —	52.0 100.0%
24年度平均	33.3 68.2%		15.5 31.8%		13.8 —	48.8 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

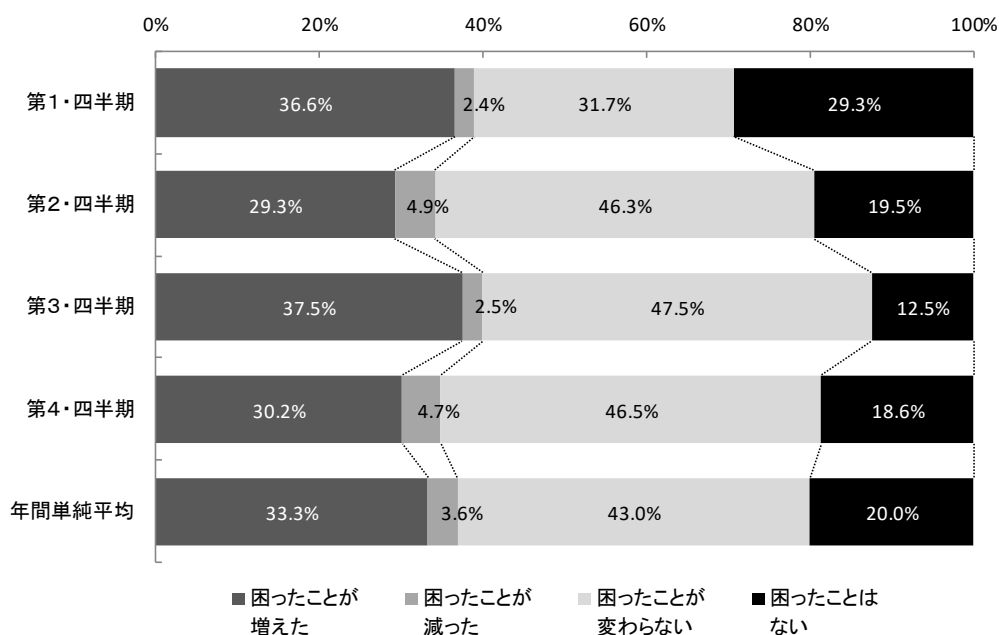


図 2-28 介護をしていく中で困ったことの有無の推移

⑦-1 介護をしていく中で困ったこと

○「介護をしていく中で困ったことがある」と回答した方の具体的な内容は以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 年をとるごとに、昨年より今年というように、性格が短気になったり、細かくなったりで、言葉で説明したりが辛い。
- ・ 後遺症状が多種多様なので、どこの病院にかかれば良いかわからない。
- ・ トラブルあった時、すぐに行けない事。
- ・ 急に病院にいかななくてはならない事が多くなった
- ・ 急な用事の時はずぐに人が見つからず親が付添いをする
- ・ 病院（通院）の介助
眼薬の介助（本人のこまった事すべて）
- ・ 買い物や用事など急には介助者がいない
- ・ 健康被害者に気をつかう事
- ・ 来年受験なので学校推薦をとる為成績を維持し最後の部活（吹奏楽）のコンクールの為時間が足りない。
- ・ 母の老化で力が弱くなり、行動がスローになり、24時間が足りない。
- ・ 家族の行動が少しおかしく感じる人がでてきたため、本人がその行動で精神的に不安定がひどくなる
- ・ 介護者の健康状態悪化で思うような対応が出来ない
- ・ 視力が（徐々に失われていき、次は、失明状態にある）心との戦い。
- ・ 良くなる見込みもなく、毎日苦しんでいるのを見ても何もしてあげられない。
- ・ 仕事の都合で介助できない時がある
- ・ 視力を失い、すべて言葉で説明しなければならない
- ・ 夜眠れない。
- ・ 加齢で、あっちこっちに痛みが出て、体力に自信が持てない
- ・ 旅行に行ったり、外泊したり、車イスから本人をフロアやたたみに車イスに座らせる時降ろす時に親2人で力を合わせて行なうが、だんだん力がなくなり、心配になっています。自宅にはリフトがありますが他にはありませんので。抑制帯がなかなか出来上らない。
- ・ 身長、体重が増え介護が大変になってきた。
- ・ どこの病院にかかったら良いかわからない。
- ・ 急に体調くずした時
- ・ 大学への受験があるので親が日常の生活は殆ど一人ですので学校から帰宅後は出来る限り手伝う。
- ・ ほんのちょっとしたことであっても減ることのない負担である。
- ・ 仕事の都合で外出など本人の希望に応えられないことがある
- ・ 視力のますますの低下

- ・ 長時間立って付き添うのがしんどくなってきた
- ・ 体重と体力が増え、力が強くなったこと。
- ・ 生活していく上で常に言葉での説明が必要。最近では、伝えた事を忘れる事が多々あり、説明することが増えた。
- ・ 医師、医療機関に対する不満と情報不足。
- ・ 年齢とともに、今すぐと言う事が増えて、まてなくなった為、自分との時間調整にこまっています
- ・ 急な用事の際、すぐに代わりの介護者が見つからなかった
- ・ 病院への面会 介護サービスの申請等
- ・ 介護が必要なため、出かける用事をやめる事になったから（楽しみがへった）
- ・ 病気のため介護ができなくなった
- ・ 仕事の都合で、対応できない時がある
- ・ 使用していたシーネが劣化したので新しいものを作ったが、なかなかうまく行かない。その様子をチェックする必要がある、今まで以上に面会数が増えた。
- ・ 抱くのが母しかできないことで、娘に学校を休ませてしまったこと。
- ・ 危険認知がない上に体が大きくなり力が強くなり抵抗をおさえることが大変になってきた。
- ・ 本人が骨折した為、家事を含め、介護者（夫）の負担が急増した。
- ・ 医師との信頼関係が得られない。こちらが満足できるような治療が受けられない。
- ・ 通院時の介護タクシーが少ない
- ・ 常に介助者は妻の私でないといけない為（眼薬の介助は1日4回～5回さす）
- ・ わかってはいるけれどお互いにストレスを感じている 思い通りにならない。
- ・ 書類関係の代理記入、送迎、精神的心配（1人で生活しているため）
- ・ 細かい事に常にフォローしなければならない
自分でやろうとしているが後始末の方が大変
- ・ 障害者の当事者だけでなく介護者の健康なども歳を重ねると不安になってくる
- ・ インフルエンザにかかって介護ができない時
- ・ シーネをはずして遊んだ後、またシーネを着けるのが困難。本人は強く拒否をしている。

⑦-2 困ったことがあった場合、誰かに相談したか

ア 第1・四半期（回答者 24 人）

- 介護をしていく中で困ったことがあったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。
第1・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおり（複数回答）。
- 「子ども」が 29.2%、「配偶者」が 20.8%、「友人・知人」が 16.7%となっている
- 「相談する人はいない」は 33.3%であった

イ 第2・四半期（回答者 25 人）

- 第2・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおり（複数回答）。
- 「配偶者」と「子ども」が 36.0%、「友人・知人」が 16.0%となっている
- 「相談する人はいない」は 28.0%であった

ウ 第3・四半期（回答者 20 人）

- 第3・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおり（複数回答）。
- 「子ども」が 45.0%、「配偶者」と「友人・知人」が 25.0%となっている
- 「相談する人はいない」は 20.0%となっている

エ 第4・四半期（回答者 23 人）

- 第4・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおり（複数回答）。
- 「配偶者」が 34.8%、「子ども」が 30.4%、「友人・知人」が 21.7%となっている
- 「相談する人はいない」は 17.4%となっている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-29 及び図 2-29 のとおり（複数回答）。
- 「子ども」が 34.8%、「配偶者」が 29.3%、「友人・知人」が 19.6%となっている
- 「相談する人はいない」は 25.0%となっている

表 2-29 困ったときの相談の有無の推移

	親	配偶者	子ども	兄弟姉妹	祖父母	友人・知人	会社の上司・同僚	幼稚園・保育園等の先生	学校の先生	医師	看護師・保健師	公的機関の職員等	PMDAの保健福祉相談窓口	障害者の団体の	障害者相談支援センター	地域包括支援センター	その他	相談する人はいない	回答なし	回答者数
第1・四半期	2	5	7	2	1	4	0	—	2	3	1	3	1	1	2	1	2	8	5	24
	8.3%	20.8%	29.2%	8.3%	4.2%	16.7%	0.0%	—	8.3%	12.5%	4.2%	12.5%	4.2%	4.2%	8.3%	4.2%	8.3%	33.3%	—	—
第2・四半期	0	9	9	1	1	4	0	—	3	2	0	3	1	2	2	1	0	7	8	25
	0.0%	36.0%	36.0%	4.0%	4.0%	16.0%	0.0%	—	12.0%	8.0%	0.0%	12.0%	4.0%	8.0%	8.0%	4.0%	0.0%	28.0%	—	—
第3・四半期	3	5	9	2	1	5	0	—	3	4	4	3	0	1	2	1	2	4	15	20
	15.0%	25.0%	45.0%	10.0%	5.0%	25.0%	0.0%	—	15.0%	20.0%	20.0%	15.0%	0.0%	5.0%	10.0%	5.0%	10.0%	20.0%	—	—
第4・四半期	3	8	7	2	0	5	0	—	1	2	2	0	0	3	1	1	2	4	12	23
	13.0%	34.8%	30.4%	8.7%	0.0%	21.7%	0.0%	—	4.3%	8.7%	8.7%	0.0%	0.0%	13.0%	4.3%	4.3%	8.7%	17.4%	—	—
年間単純平均	2.0	6.8	8.0	1.8	0.8	4.5	0.0	—	2.3	2.8	1.8	2.3	0.5	1.8	1.8	1.0	1.5	5.8	10.0	23.0
	8.7%	29.3%	34.8%	7.6%	3.3%	19.6%	0.0%	—	9.8%	12.0%	7.6%	9.8%	2.2%	7.6%	7.6%	4.3%	6.5%	25.0%	—	—
27年度平均	1.3	4.5	6.5	1.3	0.5	4.3	0.0	0.0	1.0	0.8	0.5	1.8	—	2.0	—	—	2.0	4.5	2.5	19.3
	6.5%	23.4%	33.8%	6.5%	2.6%	22.1%	0.0%	0.0%	5.2%	3.9%	2.6%	9.1%	—	10.4%	—	—	10.4%	23.4%	—	—
26年度平均	1.5	5.3	8.8	2.3	1.0	4.5	0.3	0.3	3.0	3.5	2.0	1.8	—	2.0	—	—	3.5	4.8	1.8	25.5
	5.9%	20.6%	34.3%	8.8%	3.9%	17.6%	1.0%	1.0%	11.8%	13.7%	7.8%	6.9%	—	7.8%	—	—	13.7%	18.6%	—	—
25年度平均	2.8	7.5	9.0	2.0	0.8	3.5	0.0	0.0	2.5	2.5	2.3	1.3	—	1.5	—	—	2.8	4.0	1.3	27.0
	10.2%	27.8%	33.3%	7.4%	2.8%	13.0%	0.0%	0.0%	9.3%	9.3%	8.3%	4.6%	—	5.6%	—	—	10.2%	14.8%	—	—
24年度平均	1.8	9.0	10.5	2.3	1.0	6.8	0.0	0.0	2.5	3.8	2.8	3.3	—	1.3	—	—	4.8	5.3	2.0	31.3
	5.6%	28.8%	33.6%	7.2%	3.2%	21.6%	0.0%	0.0%	8.0%	12.0%	8.8%	10.4%	—	4.0%	—	—	15.2%	16.8%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

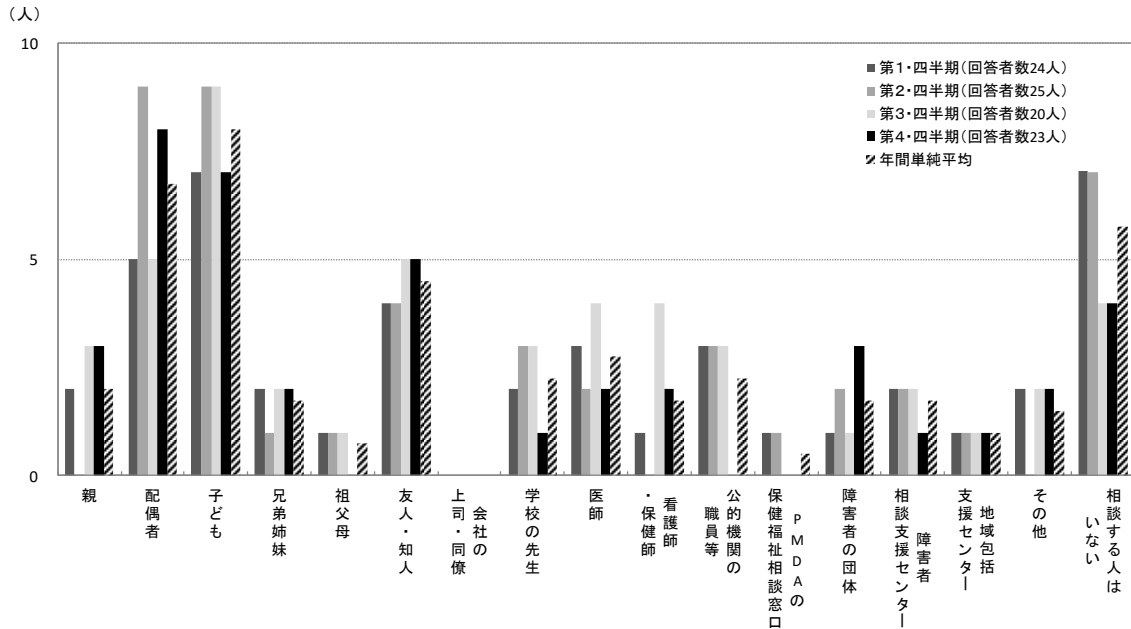


図 2-29 困ったときの相談の有無の推移

⑦-3 解決策の有無

ア 第1・四半期（回答者 20 人）

- 介護をしていく中で困ったことがあったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表 2-30 及び図 2-30 のとおり。
- 「解決した」と回答した人は 30.0%、「解決していない」と回答した人は 70.0%であった

イ 第2・四半期（回答者 21 人）

- 第2・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表 2-30 及び図 2-30 のとおり。
- 「解決した」と回答した人は 14.3%、「解決していない」と回答した人は 85.7%であった

ウ 第3・四半期（回答者 20 人）

- 第3・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表 2-30 及び図 2-30 のとおり。
- 「解決した」と回答した人は 25.0%、「解決していない」と回答した人は 75.0%であった

エ 第4・四半期（回答者 22 人）

- 第4・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表 2-30 及び図 2-30 のとおり。
- 「解決した」と回答した人は 36.4%、「解決していない」と回答した人は 63.6%であった

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-30 及び図 2-30 のとおり。
- 「解決した」と回答した人は 26.5%、「解決していない」と回答した人は 73.5%であった

表 2-30 解決策の有無の推移

	解決した	解決していない	回答なし	合計
第1・四半期	6	14	9	20
	30.0%	70.0%	—	100.0%
第2・四半期	3	18	12	21
	14.3%	85.7%	—	100.0%
第3・四半期	5	15	15	20
	25.0%	75.0%	—	100.0%
第4・四半期	8	14	13	22
	36.4%	63.6%	—	100.0%
年間単純平均	5.5	15.3	12.3	20.8
	26.5%	73.5%	—	100.0%
27年度平均	9.3	9.8	2.8	19.0
	48.7%	51.3%	—	100.0%
26年度平均	11.0	14.5	1.8	25.5
	43.1%	56.9%	—	100.0%
25年度平均	8.5	17.8	2.0	26.3
	32.4%	67.6%	—	100.0%
24年度平均	12.0	18.0	3.3	30.0
	40.0%	60.0%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

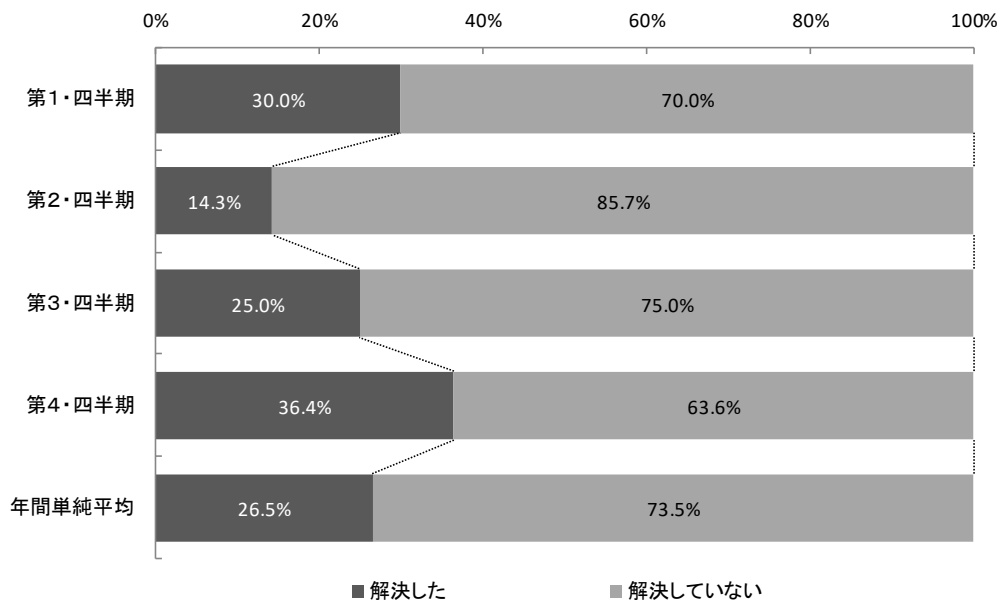


図 2-30 解決策の有無の推移

⑦-4 困ったことの解決策

○介護をしていく中での主な具体的解決策については、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解決策
来年受験なので学校推薦をとる為成績を維持し最後の部活（吹奏楽）のコンクールの為時間が足りない。	元来おしゃべりなので皆んなに聞いてもらってすっきりする。
仕事の都合で介助できない時がある	息子の妻に頼んだ
加齢で、あっちこっちに痛みが出て、体力に自信が持てない	精神的に話せて楽になった。
調査研究事業謝金受給を理由に、扶養配偶者から除外通知があった。	税務署に実態を説明。本人の確定申告をすることで扶養配偶者として認められた。（所得が105万以下）
急に病院にいかななくてはならない事が増えました	まわりの人が助けてくれました
仕事の都合で外出など本人の希望に応えられないことがある	娘や息子の妻に介助を頼んだ
年齢とともに、今すぐにと言う事が増えて、まてなくなった為、自分との時間調整にこまっています	子供や友人が代わりに動いてくれました。
急な用事の際、すぐに代わりの介護者が見つからなかった	身内の者に頼んだり、公的な介護制度を利用したりした。
時間的な問題	自分が出来ない時は周りがかかわってくれる。
体力に自信がない	話すと楽になる
抱くのが母しかできないことで、娘に学校を休ませてしまったこと。	娘に休んでもらった。
本人が骨折した為、家事を含め、介護者（夫）の負担が急増した。	息子・嫁の応援。介護保険利用による介助用品の貸与等、ケアマネージャー等の支援。
障害者の当事者だけでなく介護者の健康なども歳を重ねると不安になってくる	気持ちの上で話すとらくになる
はずして遊んだ後、シーネを着けるのが困難。本人は強く拒否をしている。	本人にがまんしてもらおう。

⑦-5 困ったことの解決方法

○主たる介護者にたずねた、困ったことの主な具体的解決方法については、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解決方法
年をとるごとに、昨年より今年というように、性格が短気になったり、細かくなったりで、言葉で説明したりが辛い。	頑張るしかないですね。
後遺症状が多種多様なので、どこの病院にかかれば良いかわからない。	セカンドオピニオンを積極的に行えば解決しそうだが、費用が心配。
健康被害者に気をつかう事	健康被害者の回復、体力、視力が少しでも回復、または希望がもてれば良いと思う
家族の行動が少しおかしく感じる人ができたため、本人がその行動で精神的に不安定がひどくなる	できない
介護者の健康状態悪化で思うような対応が出来ない	病気の治療
良くなる見込みもなく、毎日苦しんでいるのを見ても何もしてあげられない。	
視力を失い、すべて言葉で説明しなければならない	医学の進歩
体力が落ちた。	今の所方法を見つけられない。
夜眠れない。	わからない。
旅行に行ったり、外泊したり、車イスから本人をフロアやたたみに車イスに座らせる時降ろす時に親2人で力を合わせて行なうが、だんだん力がなくなり、心配になっています。自宅にはリフトがありますが他にはありませんので。抑制帯がなかなか出来上らない。	ボランティアさんを頼むこと。効果的な良い抑制帯が出来ること。抑制帯が不用となる良い状態になること。（たぶん、それはムリだと思います）
身長、体重が増え介護が大変になってきた。	ヘルパーをたのむ。
どこの病院にかかったら良いかわからない。	インターネットなどでもう一度良く調べること。

1日24時間が足りない。	「金銭である」派遣される介護者でも、看護師でも外から来てくれる人は偉そうに説教だけ。こちらの事情も知らず、自分達の施設や病院でのやり方ばかりで、逆に迷惑であるが、こちらで、自分で、自分の金を払って頼んだ人は忠実に助けてくれる。直接、こちらから、支払った方が、思うように助けてくれる故、他からの人は頼まない。
車の運転があやうくなってきている。	年齢に関する事なので難しい。
ほんのちょっとしたことであっても減ることのない負担である。	ひとりひとりが日々努力して、視力低下と向き合い、すこしでも悪化を防ぐに尽きる。
視力のますますの低下	医学の進歩
本人が大きくなるにつれて体重が増えてきた。	とりあえず、時間かけてでも体重維持か増加しないようにする
老化	方法が解らない。
使用していたシーネが劣化したので新しいものを作ったが、なかなかうまく行かない。その様子をチェックする必要があり、今まで以上に面会数が増えた。	OT、担当者と私達の意見が合わない。新しく出来上がったシーネの（筒状のもの）直径が小さくなり、付けにくい。本人がとてもイヤがって、私には装着出来ません。解決出来ない事がある。
医師との信頼関係が得られない。こちらが満足できるような治療が受けられない。	スティーブンスジョンソン症候群に対する医療機関の深い理解が広まること。
通院時の介護タクシーが少ない	介護タクシーの増加
常に介助者は妻の私でないといけない為（眼薬の介助は1日4回～5回さす）	わからない
自身、体調が悪くても、気を遣いながらの生活	健康被害者の視力が少しでも回復すれば、前向きに生活できるのではと思う。生活の面でも、障害基礎年金と謝金だけで、余裕があれば少し気持ちが楽になるのではと思う。
細かい事に常にフォローしなければならない自分でやろうとしているが後始末の方が大変	日常生活での細かい事なので、一緒にいる時以外は？
体向など体力がないので苦労する。	ヘルパーさん等々への依頼。
体重が増えて力も強くなり抱きかかえる負担が増えてきた。	特にない

⑧ 主たる介護者を支えるものの有無

ア 第1・四半期（回答者 30人）

○第1・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表2-31及び図2-31のとおり。

□「あった」と回答した人は 63.3%、「なかった」と回答した人は 36.7%であった

イ 第2・四半期（回答者 28人）

○第2・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表2-31及び図2-31のとおり。

□「あった」と回答した人は 46.4%、「なかった」と回答した人は 53.6%であった

ウ 第3・四半期（回答者 27人）

○第3・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表2-31及び図2-31のとおり。

□「あった」と回答した人は 55.6%、「なかった」と回答した人は 44.4%であった

エ 第4・四半期（回答者 33人）

○第4・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表2-31及び図2-31のとおり。

□「あった」と回答した人は 57.6%、「なかった」と回答した人は 42.4%であった

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-31及び図2-31のとおり。

□「あった」と回答した人は 55.9%、「なかった」と回答した人は 44.1%であった

表 2-31 主たる介護者を支えるものの有無の推移

	あった	なかった	回答なし	合計
第1・四半期	19	11	28	30
	63.3%	36.7%	—	100.0%
第2・四半期	13	15	28	28
	46.4%	53.6%	—	100.0%
第3・四半期	15	12	28	27
	55.6%	44.4%	—	100.0%
第4・四半期	19	14	22	33
	57.6%	42.4%	—	100.0%
年間単純平均	16.5	13.0	26.5	29.5
	55.9%	44.1%	—	100.0%
27年度平均	18.0	16.0	22.5	34.0
	52.9%	47.1%	—	100.0%
26年度平均	22.0	19.5	23.5	41.5
	53.0%	47.0%	—	100.0%
25年度平均	22.5	22.0	24.0	44.5
	50.6%	49.4%	—	100.0%
24年度平均	24.0	18.0	20.5	42.0
	57.1%	42.9%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

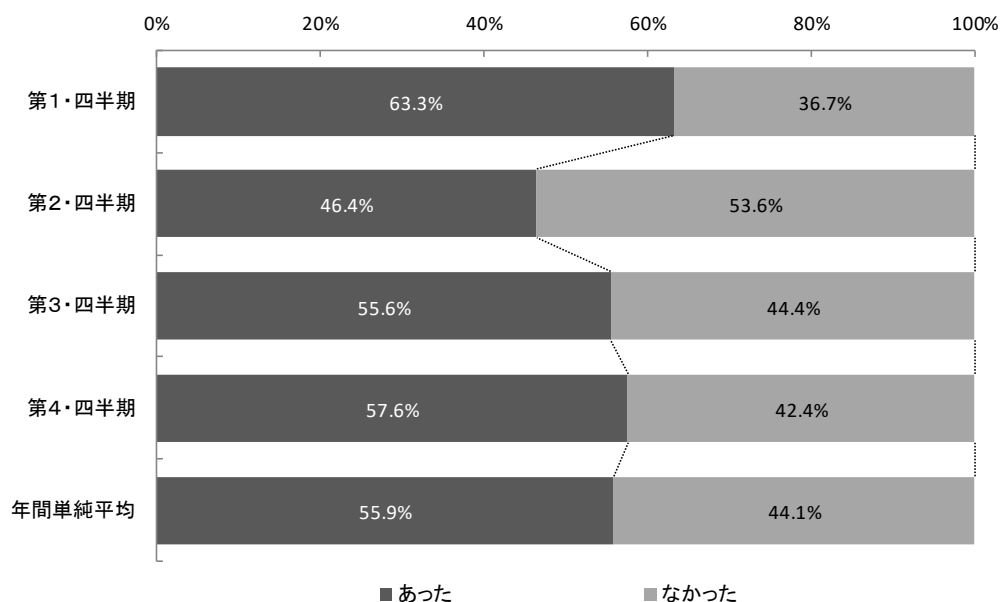


図 2-31 主たる介護者を支えるものの有無の推移

⑧-1 介護者を支えるもの 具体的内容

○主たる介護者を支える主な具体的内容については、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

1. 家族

- ・ 夫に手伝ってもらう。
- ・ 姉妹娘友人達がよく手伝ってくれる
- ・ 子供、兄弟
- ・ 友人、子供が、私のかわりに母の病院に行ってくれます。

2. 知人・友人

- ・ 友人・知人との会話
- ・ 友人、学校の保護者との情報交換
- ・ 友人に食事にさそったりしてもらえた。

3. ヘルパー・ボランティア

- ・ ホームヘルパー、ガイドヘルパーの方々
- ・ ヘルパーさんやリハビリの先生がほぼ毎日入ってくれて仕事ができるようになっている
- ・ 病院

4. 患者会

- ・ 患者の会の人との会話・患者の会で病院や介護施設の情報交換した
- ・ 関西懇親会、東京総会で会員各位のご苦勞を拝見したこと。
- ・ 障害を持つ親とのつながりで、話せるだけでよかった

5. 公的な機関・制度

- ・ 音声ガイドのパソコンについて市の福祉センターで相談した
- ・ 公的制度による金銭的援助
- ・ いざとなれば、なんとか助けてもらえる国であると思う
- ・ 介護保険による介助用品の借用。

6. 趣味・外出など

- ・ 肉体的ストレスは精神的なものと同様に感じているので趣味や字習、社会参加（情報）を怠ることなく加齢を自らのものとして突き進むことだ

⑨ 介護者の社会参加・社会活動等の状況

ア 第1・四半期（回答者42人）

- 第1・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表2-32及び図2-32のとおり。
- 社会参加や社会活動などを行っている人が76.2%、行っていない人が23.8%となっている

イ 第2・四半期（回答者40人）

- 第2・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表2-32及び図2-32のとおり。
- 社会参加や社会活動などを行っている人が67.5%、行っていない人が32.5%となっている

ウ 第3・四半期（回答者38人）

- 第3・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表2-32及び図2-32のとおり。
- 社会参加や社会活動などを行っている人が76.3%、行っていない人が23.7%となっている

エ 第4・四半期（回答者43人）

- 第4・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表2-32及び図2-32のとおり。
- 社会参加や社会活動などを行っている人が60.5%、行っていない人が39.5%となっている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-32及び図2-32のとおり。
- 社会参加や社会活動などを行っている人と行っていない人の割合は、年間平均では、行っている人が69.9%、行っていない人が30.1%となっている

表 2-32 介護者の社会参加・社会活動等の実施状況の推移

	参加(活動)した	まったくしていない	回答なし	合計
第1・四半期	32	10	16	42
	76.2%	23.8%	—	100.0%
第2・四半期	27	13	16	40
	67.5%	32.5%	—	100.0%
第3・四半期	29	9	17	38
	76.3%	23.7%	—	100.0%
第4・四半期	26	17	12	43
	60.5%	39.5%	—	100.0%
年間単純平均	28.5	12.3	15.3	40.8
	69.9%	30.1%	—	100.0%
27年度平均	31.0	12.5	13.0	43.5
	71.3%	28.7%	—	100.0%
26年度平均	32.8	14.3	18.0	47.0
	69.7%	30.3%	—	100.0%
25年度平均	37.3	17.0	14.3	54.3
	68.7%	31.3%	—	100.0%
24年度平均	33.8	15.3	13.5	49.0
	68.9%	31.1%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

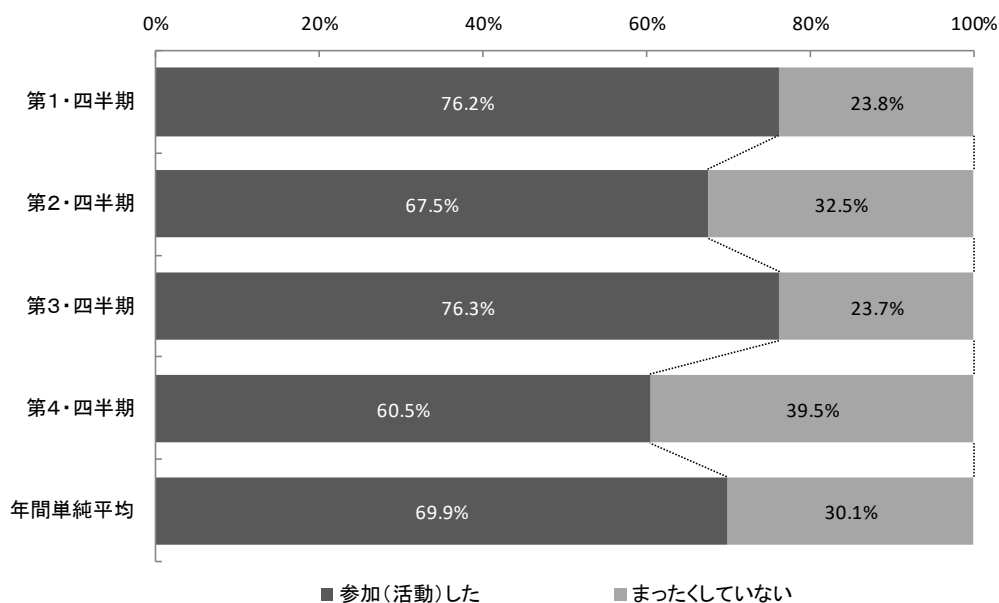


図 2-32 介護者の社会参加・社会活動等の実施状況の推移

⑨-1 介護者の社会参加・社会活動等をしなかった理由（SJSの健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者8人）

- 社会参加や社会活動などを行わなかったと答えた人にその理由を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-33及び図2-33のとおり。
 - 「体力的に余裕なし」が25.0%、「時間的・経済的に余裕なし」が12.5%となっている
 - その他としては、「息子の事を思うと、とてもそんな場合ではない」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者11人）

- 第2・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-33及び図2-33のとおり。
 - 「時間的・経済的に余裕なし」が36.4%、「体力的に余裕なし」が18.2%となっている
 - その他としては、「病気」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者6人）

- 第3・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-33及び図2-33のとおり。
 - 「時間的・経済的に余裕なし」が33.3%、「体力的に余裕なし」が16.7%となっている
 - その他としては、「愛犬が病気の為」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者12人）

- 第4・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-33及び図2-33のとおり。
 - 「時間的・経済的に余裕なし」が41.7%、「体力的に余裕なし」が25.0%となっている
 - その他としては、「妻が仕事をしているので時間がない」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-33及び図2-33のとおり。
 - 社会参加・社会活動などを行わなかった理由の年間平均では、「時間的・経済的に余裕なし」が32.4%、「体力的に余裕なし」が21.6%となっている

表 2-33 介護者の社会参加・社会活動等をしなかった理由の推移

	時間的・経済的に余裕なし	体力的に余裕なし	その他	回答なし	合計
第1・四半期	1	2	5	1	8
	12.5%	25.0%	62.5%	—	100.0%
第2・四半期	4	2	5	0	11
	36.4%	18.2%	45.5%	—	100.0%
第3・四半期	2	1	3	2	6
	33.3%	16.7%	50.0%	—	100.0%
第4・四半期	5	3	4	2	12
	41.7%	25.0%	33.3%	—	100.0%
年間単純平均	3.0	2.0	4.3	1.3	9.3
	32.4%	21.6%	45.9%	—	100.0%
27年度平均	1.8	3.8	4.0	1.3	9.5
	18.4%	39.5%	42.1%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

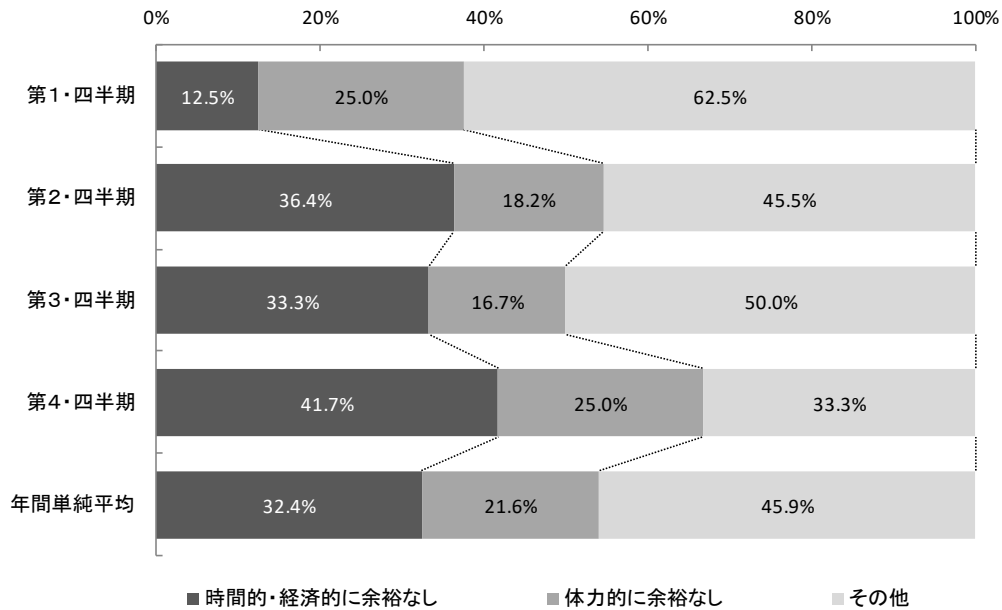


図 2-33 介護者の社会参加・社会活動等をしなかった理由の推移

⑨-2 介護者の社会参加・社会活動のきっかけ（SJSの健康被害者の方のみに質問）

○主たる介護者の社会参加・社会活動の主なきっかけについては、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 健康のため
- ・ 散歩
- ・ 他人との会話のなかに学ぶことが沢山ある為
- ・ 本人の訴え
- ・ 地域の小学校で卓球教室をしていたので参加した。
- ・ 昔からママ友でグループ活動している
- ・ 近所の方のおさそい
- ・ 自分の時間が少しふえた為
- ・ 退職後時間のゆとりが出来たから。
- ・ 夏季休暇を利用して。
- ・ 知人の勧め
- ・ 部活、地域のサークルに入会、習字、ピアノは就学前から習っている。
- ・ もともと趣味でやっていたから
- ・ 近くの小学校で日曜日スポーツを楽しむ会をされていたので、参加しました。
- ・ 気分転換
- ・ 妻の介助で京都の病院に行った時、観光した。
- ・ 学校のクラブ活動、親と一緒に合唱団参加、先生に誘われ勤労者団体の吹奏楽団にも参加。
- ・ スポーツクラブに入っている
- ・ 地域の知り合いから小学校にて卓球を楽しむ会に誘われ参加しました。
- ・ 自分の時間が少しできたから
- ・ 友人の誘い
- ・ 姉の音楽会への誘い
- ・ 地域の小学校で卓球を時々やっているのので参加しました。
- ・ 知人の勧めや、インターネットで情報を得た

⑨-3 介護者の社会参加・社会活動等の内容

ア 第1・四半期（回答者 31人）

- 社会参加や社会活動などを行ったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-34及び図2-34のとおり（複数回答）。
- 「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が38.7%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が35.5%、「スポーツ教室、大会などへの参加」が32.3%となっている
- その他としては、「散歩」「仕事」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 27人）

- 第2・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-34及び図2-34のとおり（複数回答）。
- 「旅行・キャンプ・つりなどの活動」と「友達との遊び」が44.4%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が40.7%となっている
- その他としては、「ウォーキング、庭造り」「散歩」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 29人）

- 第3・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-34及び図2-34のとおり（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が51.7%、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が48.3%、「趣味の同好会活動」が34.5%となっている
- その他としては、「ヨガ、散歩」「こどものサッカー試合みに行く」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 26人）

- 第4・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-34及び図2-34のとおり（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」と「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が46.2%、「友達との遊び」が42.3%となっている
- その他としては、「山歩き、散歩」「仕事」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-34及び図2-34のとおり（複数回答）。

□社会参加・社会活動などの内容の年間平均では「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が44.2%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が43.4%、「友達との遊び」が34.5%となっている

表2-34 社会参加・社会活動等の内容の推移

	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	スポーツ教室、大会などへの参加	旅行・キャンプ・つりなどの活動	趣味の同好会活動	ボランティアなどの社会活動	障害者団体の活動	地域活動	パソコンを利用した社会参加	友達との遊び	その他	特になし	回答なし	回答者数
第1・四半期	11	10	12	4	5	3	8	3	8	6	—	1	31
	35.5%	32.3%	38.7%	12.9%	16.1%	9.7%	25.8%	9.7%	25.8%	19.4%	—	—	—
第2・四半期	11	10	12	8	5	4	9	4	12	3	—	0	27
	40.7%	37.0%	44.4%	29.6%	18.5%	14.8%	33.3%	14.8%	44.4%	11.1%	—	—	—
第3・四半期	15	6	14	10	3	1	8	4	8	5	—	0	29
	51.7%	20.7%	48.3%	34.5%	10.3%	3.4%	27.6%	13.8%	27.6%	17.2%	—	—	—
第4・四半期	12	8	12	8	3	2	9	3	11	5	—	0	26
	46.2%	30.8%	46.2%	30.8%	11.5%	7.7%	34.6%	11.5%	42.3%	19.2%	—	—	—
年間単純平均	12.3	8.5	12.5	7.5	4.0	2.5	8.5	3.5	9.8	4.8	—	0.3	28.3
	43.4%	30.1%	44.2%	26.5%	14.2%	8.8%	30.1%	12.4%	34.5%	16.8%	—	—	—
27年度平均	13.3	7.5	14.3	8.8	4.3	4.0	3.0	2.5	—	6.0	0.0	0.5	30.5
	43.4%	24.6%	46.7%	28.7%	13.9%	13.1%	9.8%	8.2%	—	19.7%	0.0%	—	—
26年度平均	13.0	7.5	12.3	7.0	3.8	4.0	8.0	3.0	—	8.5	0.3	0.0	31.0
	41.9%	24.2%	39.5%	22.6%	12.1%	12.9%	25.8%	9.7%	—	27.4%	0.8%	—	—
25年度平均	13.5	6.8	15.5	7.3	1.8	6.5	4.5	3.8	—	9.5	0.0	0.0	37.3
	36.2%	18.1%	41.6%	19.5%	4.7%	17.4%	12.1%	10.1%	—	25.5%	0.0%	—	—
24年度平均	12.5	5.8	15.8	5.5	2.0	5.8	6.8	3.5	—	5.5	1.5	0.5	33.3
	37.6%	17.3%	47.4%	16.5%	6.0%	17.3%	20.3%	10.5%	—	16.5%	4.5%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

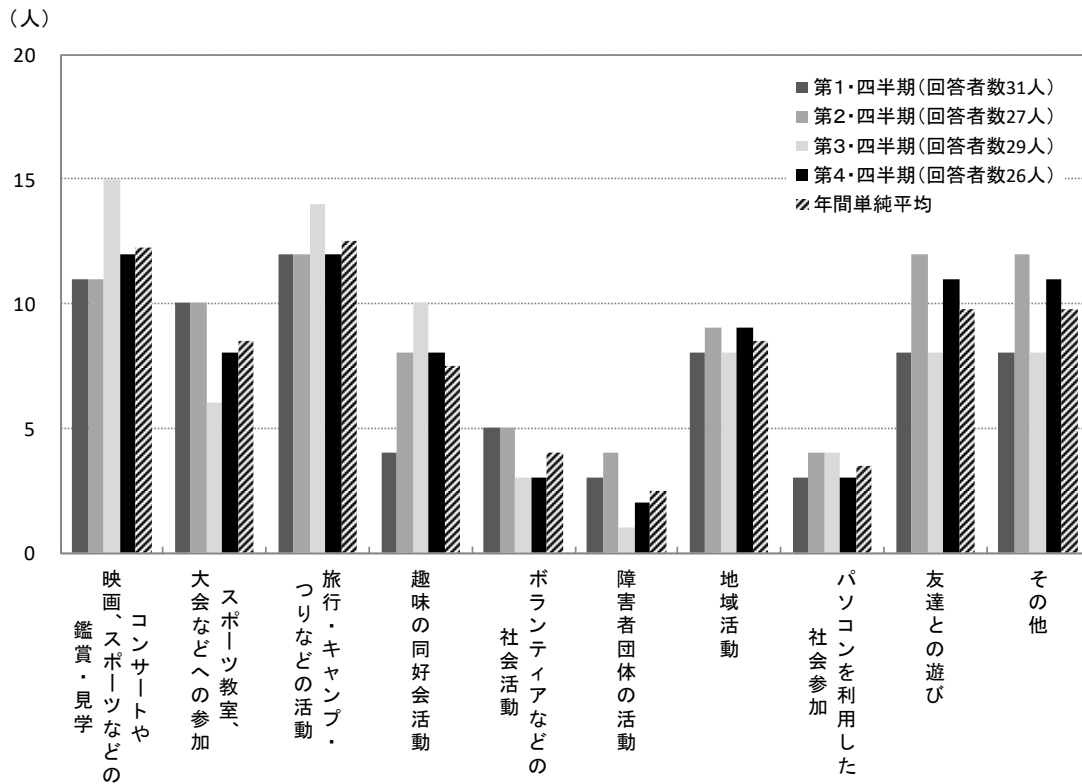


図2-34 社会参加・社会活動等の内容の推移

⑩ 新しい発見や気分転換などの有無

ア 第1・四半期（回答者 37 人）

○第1・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表2-35及び図2-35のとおり。

□「あった」と回答した人は40.5%、「なかった」と回答した人は59.5%であった

イ 第2・四半期（回答者 35 人）

○第2・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表2-35及び図2-35のとおり。

□「あった」と回答した人は40.0%、「なかった」と回答した人は60.0%であった

ウ 第3・四半期（回答者 33 人）

○第3・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表2-35及び図2-35のとおり。

□「あった」と回答した人は33.3%、「なかった」と回答した人は66.7%であった

エ 第4・四半期（回答者 36 人）

○第4・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表2-35及び図2-35のとおり。

□「あった」と回答した人は41.7%、「なかった」と回答した人は58.3%であった

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-35及び図2-35のとおり。

□介護をしていく中で新しい発見や気分転換などの有無については、年間の平均では「あった」が39.0%、「なかった」が61.0%であった

表 2-35 介護をしていく中で新しい発見や気分転換の有無の推移

	あった	なかった	回答なし	合計
第1・四半期	15	22	21	37
	40.5%	59.5%	—	100.0%
第2・四半期	14	21	21	35
	40.0%	60.0%	—	100.0%
第3・四半期	11	22	22	33
	33.3%	66.7%	—	100.0%
第4・四半期	15	21	19	36
	41.7%	58.3%	—	100.0%
年間単純平均	13.8	21.5	20.8	35.3
	39.0%	61.0%	—	100.0%
27年度平均	14.5	21.8	20.3	36.3
	40.0%	60.0%	—	100.0%
26年度平均	14.5	27.8	22.8	42.3
	34.3%	65.7%	—	100.0%
25年度平均	20.0	27.3	21.3	47.3
	42.3%	57.7%	—	100.0%
24年度平均	21.5	23.5	17.5	45.0
	47.8%	52.2%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

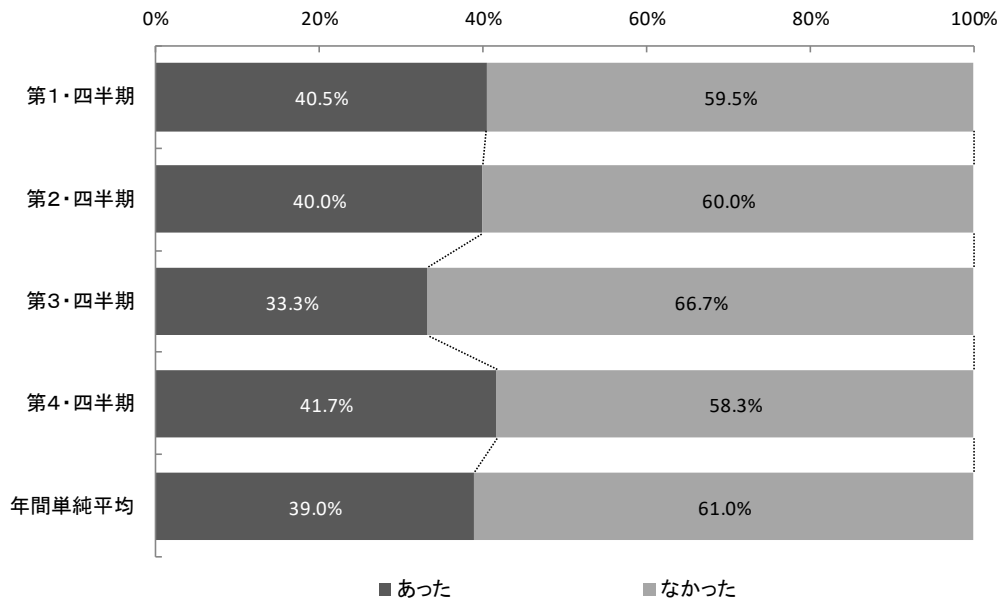


図 2-35 介護をしていく中で新しい発見や気分転換の有無の推移

⑩-1 新しい発見や気分転換について

○⑩で「あった」と回答した本人または介護者にたずねた主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 散歩で公園を通る時に、季節ごとの草花を感じられることが、気分転換になっている
- ・ 同行援護のおかげで、その時間有効に使えた。全て介助しなければと気負うことがなくなりました。（私も障害があるため大変でした）
- ・ 天気の良い日に空と木々を観ながらの散歩は気分転換になる
- ・ 健康被害者からの「ありがとう」の一言に支えられている部分がある。
- ・ 介護をしてもらって母が自分に合せてくれる。
- ・ たまたま身体症状がないことと、視力低下が手術（角膜移植）に至っていないので、そのような具体例に接して心の準備が必要であると、強く感じさせられています。
- ・ 近くの温泉などに行く
- ・ 仕事もいき、友人ともランチや飲み会を楽しむ、すごく息抜きになる。
- ・ コンサートに行けた。
- ・ 北海道へ行った。広い畑、直線道路、野性動物等。
- ・ 友人と会って話が出来た事、友人との会食など
- ・ 愛犬（柴犬）と散歩、話し相手です。楽しいですよ
- ・ 母親が入院中は伯母の家から通学で部活に専念。吹奏楽コンクールは金賞をとることが出来た。
- ・ 庭造りをしているとイライラの気分が落ちつく。
- ・ 心理セミナー的な事を一緒に参加している。
- ・ 友とランチへ行ったり、料理教室へ行ったりできている。
- ・ 旅行してリフレッシュなど
- ・ 病院のケースワーカーの方が福祉サービスや、傷病手当の手続きや、社保から国保への切替等の手続きをサポートして下さったので助かった。
- ・ 障害者基礎年金のみの生活も不安もある。この制度が続く事を常に願います。
- ・ 大学の推薦入学に合格とライオンズクラブの奨学生に選ばれ（学校推薦）で10万円のご褒美を頂けたこと
- ・ 友達とドライブしてランチを食べて気分転換となる
- ・ 本人の症状は変わらないが、現状を維持していく努力、視力低下、涙（泉停止）を積極的に行なう意欲が失われていないと感じさせられるとき。
- ・ 少ない時間でも、自分のやりたい事我慢せずやるようにしてリフレッシュできる事もある
- ・ 弟のサッカー試合をみに行く。
- ・ 自分が元気をしている時は気付かなかった事を、人にお願いする事で色々な見方があり新しい発見
- ・ バイトをすることで仲間が増えこれから先の生活につながる様な気がする
- ・ 旅行に出て、子供と離れてみること。

(3) C票（過去1年間の日常生活状況調査）からみた生活状況の概要

■ 治療状況

① 健康被害を受けた方の治療状況

○健康被害を受けた方の治療状況については表3-1及び図3-1のとおり。

□入院中が1.9%、通院中が98.1%となっている

表3-1 治療状況

入院中	通院中 (往診含む)	回答なし	合計
1	51	3	52
1.9%	98.1%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

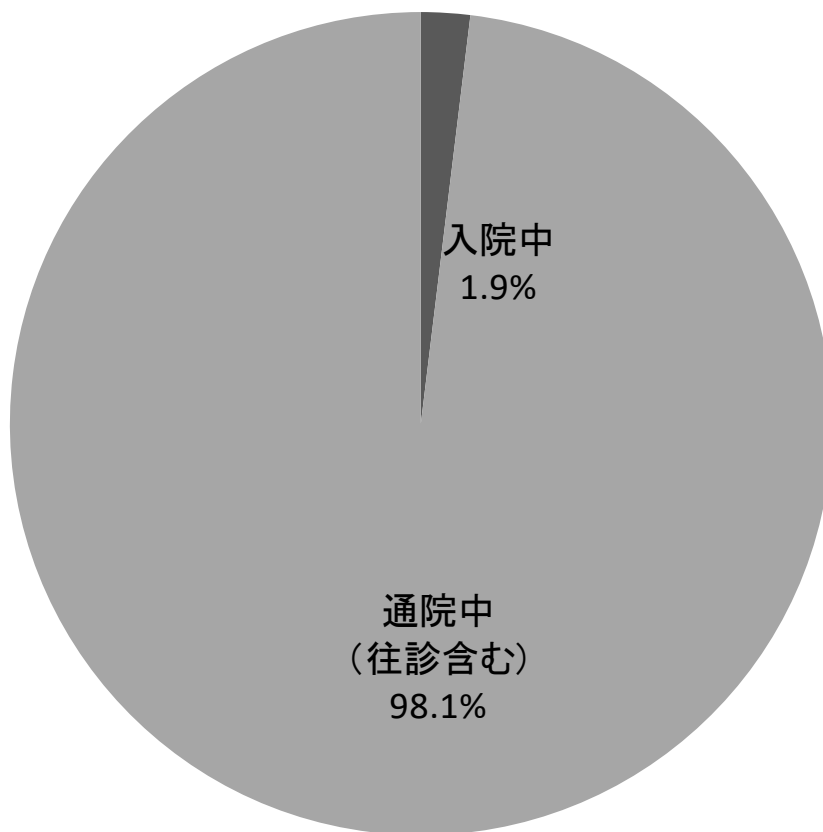


図3-1 治療状況

② 副作用の疾患以外で治療を受けるときに注意していること

②-1 通院時に注意している点

○ 通院時に注意をしている点についてたずねた結果は、表3-2及び図3-2のとおり(複数回答)。

□ 「家族などによる送迎」が64.4%、「事前に交通機関やルートを確認」が46.7%、「ヘルパー等に同行を依頼」が26.7%となっている

表3-2 通院時に注意している点

事前に交通機関やルートを確認	ヘルパー等に同行を依頼	家族などによる送迎	介護タクシーの利用	その他	回答なし	回答者数
21	12	29	1	12	10	45
46.7%	26.7%	64.4%	2.2%	26.7%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

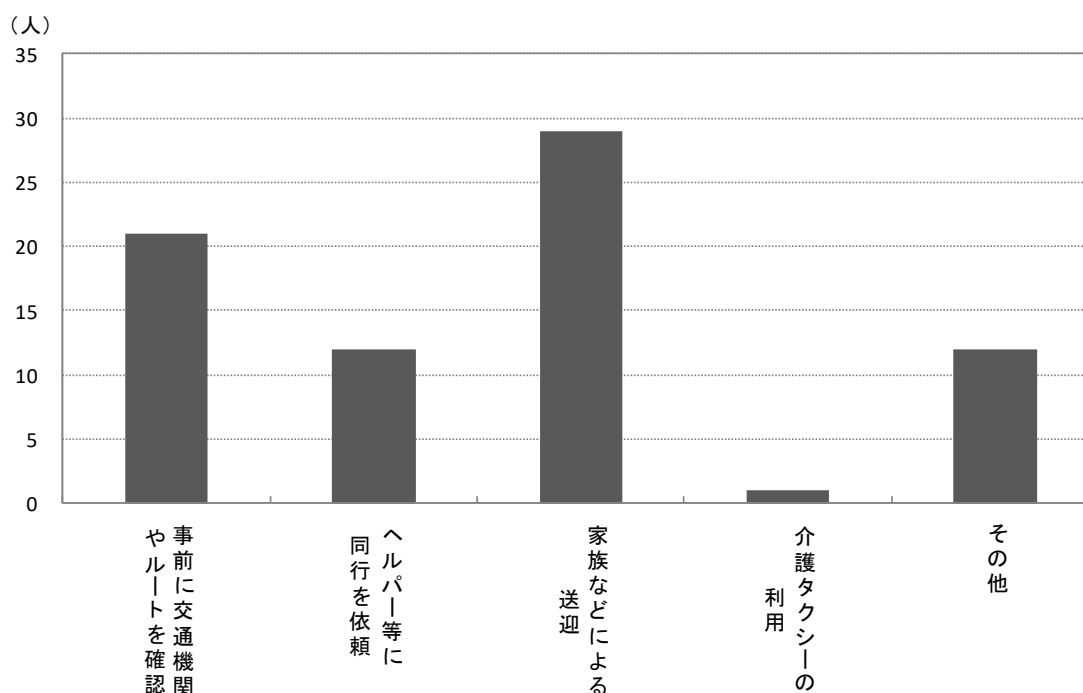


図3-2 通院時に注意している点

○具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 普通のタクシー
バス停まで迎えに来てもらう
連絡をしておく
- ・ 慣れた所であっても日々の工事や、道路の状況が変わる為時々、転倒したり、ぶつかったり、怪我もある。
- ・ 妻の私が運転で通院している。
- ・ 一人では全く外出できなくなったので配偶者が必ず一緒に行きます
- ・ 特に冬は足元がすべるので車を利用
- ・ 眼の保護の為にサングラスをつける。
- ・ 盲導犬の同伴
- ・ 姉妹や友人達による送迎 娘につきそってもらう事が多いが忙しい時などは友人・隣人も協力してくれる
- ・ 車の送迎、公共の交通機関
- ・ 混雑をなるべくさける。（予約する）
- ・ 天候が悪い時はタクシー利用
- ・ 友達に頼んだり、車を出してもらったりする

②-2 治療を受けるときに注意している点

○治療を受けるときに注意をしている点についてたずねた結果は、表3-3及び図3-3のとおり（複数回答）。

□「既往歴を告げる」が76.0%、「受けている医療について分からないことは医療スタッフに聞く」が70.0%、「お薬手帳を持参」が68.0%となっている

表3-3 治療を受けるときに注意している点

既往歴を告げる	お薬手帳を持参	受けている医療について分からないことは医療スタッフに聞く	その他	回答なし	回答者数
38	34	35	11	5	50
76.0%	68.0%	70.0%	22.0%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

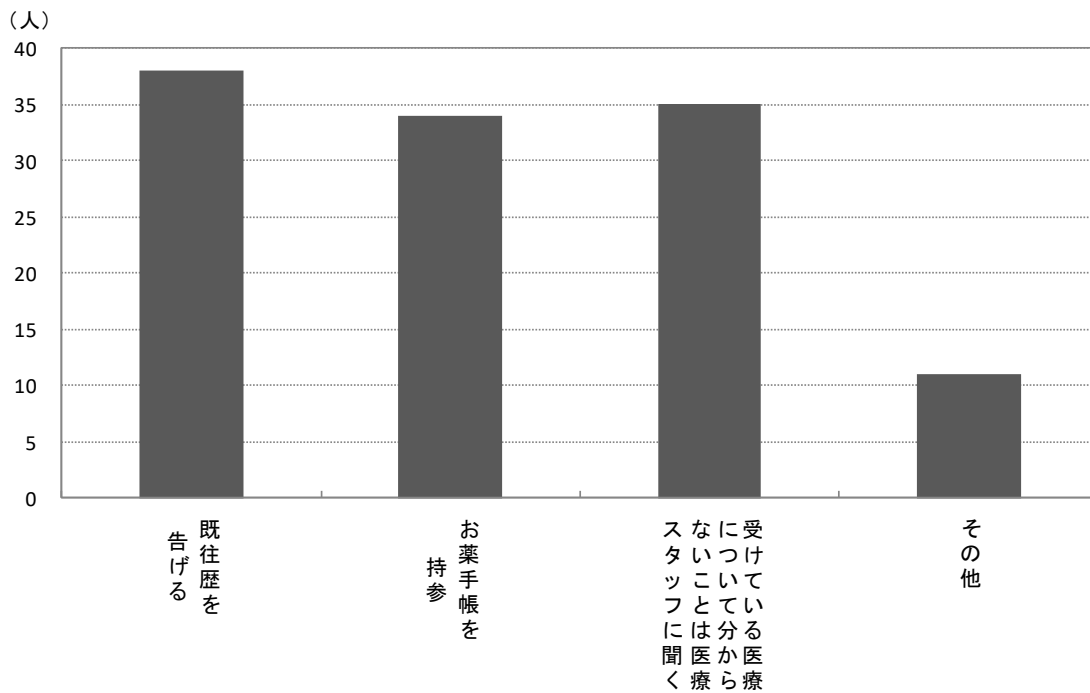


図 3-3 治療を受けるときに注意している点

○具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ なるべく同じ病院かかる。（SJS があると知っている Dr に受診する様にしている）
- ・ 禁忌の薬名を告げる。（バクター、ボスミン）
- ・ 目が不自由で身体の障害もあることを告げておく
- ・ PMDA が発行している「受給者カード」を出す。
- ・ 眼科はもちろんの事、内科も永年のかかりつけである。（様子を見ながら薬を出してくれる）
- ・ 内服のアレルギーに敏感なので、かなり気をつけている。
- ・ 薬疹によって SJS になったので薬（クスリ）に対して、慎重のうえに慎重、この病気の治療がないことによる失敗だけはさげたい。
- ・ 治療によっては SJS を告げる
- ・ リスク（副作用）の少ない薬にしてもらう。
- ・ 新しい薬の時は確認する。街のドラッグストアは利用しない（のみ薬）

②-3 治療を受けるときに困ったこと（SJSの健康被害者の方のみに質問）

○治療を受けるときに困ったことについてたずねた結果は、表3-4及び図3-4のとおり（複数回答）。

□「SJSについて医師が理解していない」が61.9%、「SJSであることを告げたら診療を拒まれた」が19.0%となっている

表3-4 治療を受けるときに困ったこと

SJSについて医師が理解していない	SJSであることを告げたら診療を拒まれた	その他	回答なし	回答者数
13	4	11	27	21
61.9%	19.0%	52.4%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

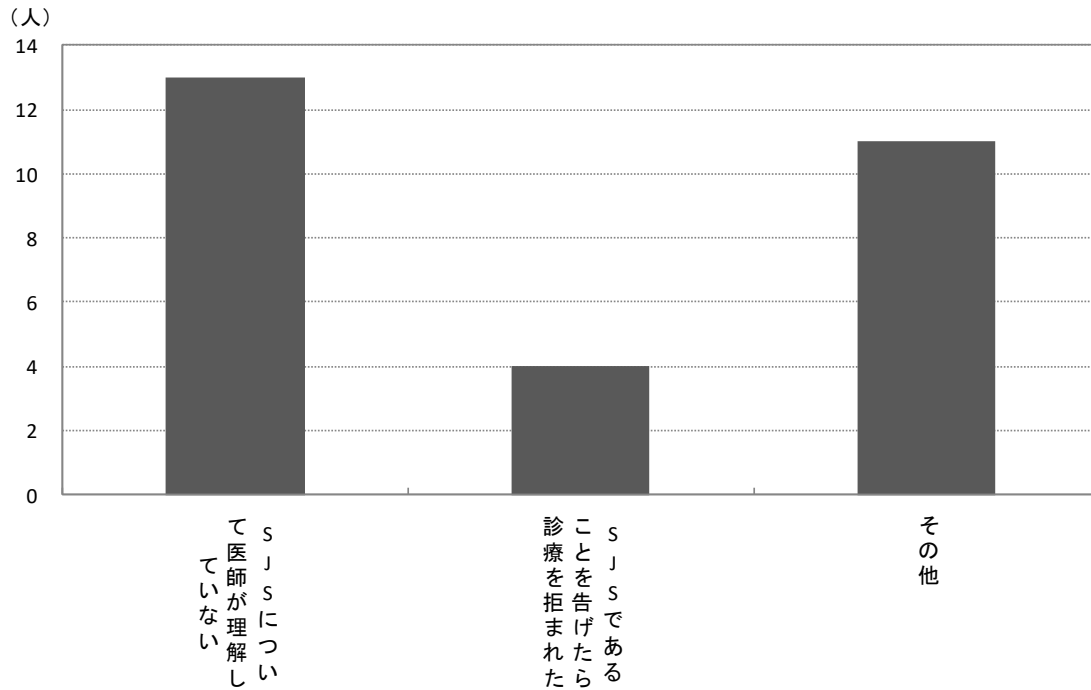


図3-4 治療を受けるときに困ったこと

○具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ SJS の発症原因となる薬品が明確でないので、医師も使用薬品に迷うことが多い。
- ・ SJS について理解している。
- ・ ジェネリックの薬に、内科の先生がかえられた為、また薬しんが出て体調を崩して大変でした
- ・ 入院中は必要な他科の対応をしてもらえなかった
- ・ 日頃から健康に気を付けた生活をするようにしている。医師が注意をして下さる病院にかかる。
- ・ 入院した時に見えないので同室の人々に気をつかう トイレや洗面までの間に車イスや点滴用ポール、ワゴン等ぶつからないように気をつかう
- ・ SJS と言ったら、薬を出してもらえなかったことがある。
- ・ 処方薬に制限が出る。
- ・ 診療はみてくれるが以前インフルエンザの時も薬をこわがって出してもらえなかった。
- ・ この病気をいやがる（診療その他を）医者が多い。
- ・ 投薬が慎重にならざるを得ない（使える薬が少ない）

②-4 その他注意している点の主な内容は以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 薬の処方を受ける際、その副作用について事前に十分な説明を受けるようにしている。
- ・ 今は、ジェネリックに変える医院などが増えていますが、体にあわない事が多いので、やめてもらっています。
- ・ 患者が少ない日時に行く（感染を防ぐ）
- ・ スリッパに履き替えの時は、自分のくつに印（クリップ）しておく。
受付やインフルエンザ等書類が多いので困る。
ある大学病院で「給済金を頂いているから、タクシーできても心配ないでしょう」医師から言われ、給済されていないことを説明するのに大変だった。
- ・ 使用してはいけないクスリは必ず伝える。
- ・ 病気にならないように心がけている
- ・ 加齢とともにあちこち症状が出てきても新薬はこわい。私の未来はどうなるのか、不安だらけ。まいにちが恐怖の生活。
- ・ 飲み薬はできるだけ飲まない（医師と相談する）
- ・ 眼圧が高くなっていないか常に気をつけている
- ・ 訪問介護時にノートに記入する様にしている。

■ 過去1年間の日常生活について

③ 困ったことの有無

○ 過去1年間における困ったことの有無については、表3-5及び図3-5のとおり。

□ 困ったことが「増えた」33.3%、「減った」が1.9%、「変わらない」が59.3%であった。一方、困ったことは「ない」とする人は5.6%となっている

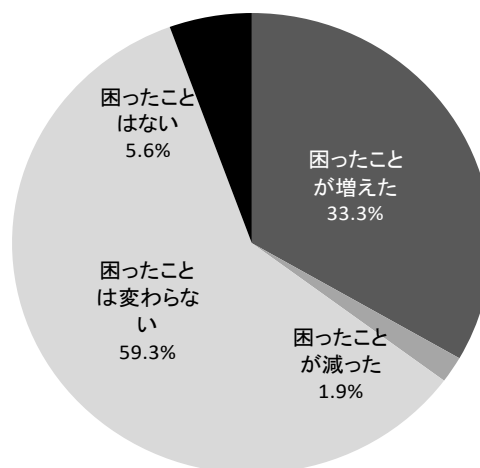


図3-5 困ったことの有無

表3-5 困ったことの有無

困ったことが増えた	困ったことが減った	困ったことは変わらない	困ったことはない	回答なし	合計
18	1	32	3	1	54
33.3%	1.9%	59.3%	5.6%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

③-1 困ったことについて

○過去に困ったことがあったと回答した本人または介護者にたずねた「困ったこと」主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 視力が急激に低下したため日常生活のあらゆる点で不便。
- ・ 視力障害の為、転倒し骨折した。
- ・ 医療機関（眼科）を受診した際、風邪をうつされてしまい体調を崩した。
- ・ さがし物がみつからない時、介護タクシーが予約でいっぱいの時など
- ・ 抗生剤の効き目が悪くなり、耐性菌がすぐに出てきてしまいなかなか、効果のある抗生剤がなくなってきました。
- ・ 買い物や散歩などで外出する際に介助者が必要なこと
- ・ 自分自身が視覚障害を持っているのに親や弟が衰えて来ているのに面倒を見てやれない
- ・ ウォーキングも難しくなった。今まで何とか出来ていた事がむずかしくなり、たえず介助者が必要なこと。
- ・ 外出先の駅等（券売機）コンビニのタッチパネルが増えた
- ・ 縁石で転んで骨折した。
- ・ 身体がつかなくなってきて、仕事（はり・きゅう・マッサージ）をするのが非常に苦痛になってきた。死にたいと思うことが多くなってきた。
- ・ いたみやみえにくさがふえた
- ・ 少しずつ、見えにくくなってきているので、読み書きが、大変不自由になってきた。
- ・ 娘達との時間の調整
- ・ 新しい所へ行く際、標識が見えないので、目的地に到着するのに時間がかかる。ドライアイで15～20分おきに点眼が必要だが、満員電車やバスでは、人に接触しているので危険を感じる。明かりのない道では、足元が見えないまま歩かないといけないので危険。
- ・ 母の老化
- ・ 体調により視力が悪くなる日がある
- ・ 夫の認知症ぎみであることで、通院してもらうのが難しくなったのでそろそろガイドをつけてもらうつもりで動いている。
- ・ 本人のストレス
- ・ 主人が亡くなり、一人生活になり、不安と生活面で全体的に困っている。
- ・ 普段外出は家族の介助を頼っているため家族の都合が悪い時、外出をあきらめる。
- ・ 慣れた家でも頭をぶつけてしまった
- ・ 介護の額が年齢による体力の衰えを感じている。
- ・ てんかん発作が増えた、深夜まで起きて寝ない
- ・ 新しいシーネに慣れない。
- ・ 体が大きくなり、介護が大変になってきた。

③-2 困ったことがあった場合、誰に相談したか

○過去に困ったことがあったと答えた人に回答を求めた。誰かに相談したかについてたずねた結果は、表3-6及び図3-6のとおり（複数回答）。

- 「配偶者」が41.9%、「子ども」が29.0%、「公的機関の職員等」が19.4%、「親」「友人・知人」「医師」が16.1%となっている
- 「相談する人はいない」は9.7%であった

表3-6 困ったときの相談の有無

親	配偶者	子ども	兄弟姉妹	祖父母	友人・知人	会社の上司・同僚	学校の先生	医師	
5	13	9	3	0	5	0	1	5	
16.1%	41.9%	29.0%	9.7%	0.0%	16.1%	0.0%	3.2%	16.1%	
看護師・保健師	公的機関の職員等	PMDAの保健福祉相談窓口	障害者の団体	障害者相談支援センター	地域包括支援センター	その他	相談する人はいない	回答なし	回答者数
2	6	0	2	3	3	3	3	20	31
6.5%	19.4%	0.0%	6.5%	9.7%	9.7%	9.7%	9.7%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

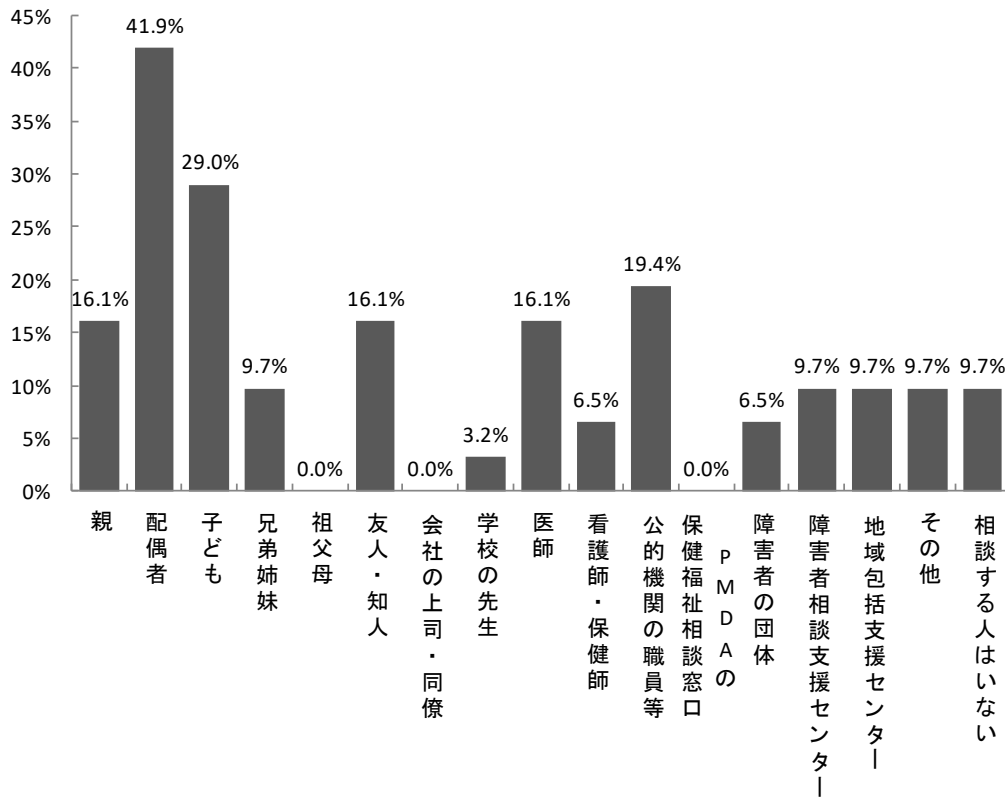


図3-6 困ったときの相談の有無

③-3 解決策の有無

○困ったことがあったとする人に、解決策の有無についてたずねた結果は、表 3-7 及び図 3-7 のとおり。

□困ったことに対して解決したと回答した人は 33.5%、一方、解決していないと回答した人は 66.7%であった

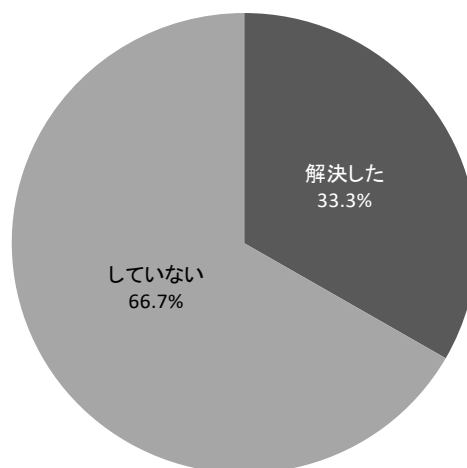


表 3-7 解決策の有無

解決した	していない	回答なし	合計
10	20	23	30
33.3%	66.7%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

図 3-7 解決策の有無

③-4 解決策について

○③-3 で「解決した」と回答した本人または介護者の困ったことと解決策の主な内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解決策
さがし物がみつからない時、介護タクシーが予約でいっぱいの時など	その時、ヘルパーさん、親せき etc に連絡した。
抗生剤の効き目が悪くなり、耐性菌がすぐに出てきてしまいなかなか、効果のある抗生剤がなくなってきました。	色々な抗生剤を、使用して、しのいでいます。
買い物や散歩などで外出する際に介助者が必要なこと	
娘達との時間の調整	人に聞いてもらうことですべて解決
母の老化	母の体調、生活介護リズムを正しく保つこと。
体調により視力が悪くなる日がある	眼をやすめ、じっとしている
夫の認知症ぎみであることで、通院してもらうのが難しくなったのでそろそろガイドをつけてもらうつもりで動いています	一応ガイドをつける方向で動いています
てんかん発作が増えた。深夜まで起きて寝ない	解決にむけて、対策を考え中。
新しいシーネに慣れない。	本人にがまんしてもらう。

③-5 解決方法について

○③-3で「解決していない」と回答した本人または介護者に、どのような方法で解決できるとするか解決方法をたずねた。主な内容は以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解決方法
視力が急激に低下したため日常生活のあらゆる点で不便。	視力が回復しない限り困難。 この視力での生活に慣れるには、かなりの時間を要すると思う。
外出先の駅等（券売機）コンビニのタッチパネルが増えた	国がしっかりと取り組むべき
身体がつかなくなってきて、仕事（はり・きゅう・マッサージ）をするのが非常に苦痛になってきた。死にたいと思うことが多くなってきた。	国民年金の障害者年金だけなので、死ぬまで働かなければ、ならないと思う、不安です 給済制度の認定基準が変われば苦しみから出るきっかけがあるかもしれない。
新しい所へ行く際、標識が見えないので、目的地に到着するのに時間がかかる。ドライアイで15～20分おきに点眼が必要だが、満員電車やバスでは、人に接触しているので危険を感じる。明かりのない道では、足元が見えないまま歩かないといけないので危険。	バス停が暗くて、バス停前のベンチが見えず、何度も膝をぶつけたので、灯りの設置を市役所等に相談したが、私有施設内なので管轄外ととり合ってもらえなかった。私有施設へ投書したか、聞き入れられるか不明。
主人が亡くなり、一人生活になり、不安と生活面で全体的に困っている。	
加齢	永遠に解決しない、視力が戻らないから。
慣れた家でも頭をぶつけてしまった	本人が気をつける事しかない 手を先に出して歩く
日常的に手助けすることが多くなった	アルバイトをやめて、常に一緒に行動するしかないが、そうすると気が休まる時間がないのでつらいかも
介護の額が年齢による体力の衰えを感じている。	外部の支援者を探す。
体が大きくなり、介護が大変になってきた	わからない

④ 日常生活の満足度

○過去1年間の日常生活における満足度についてたずねた結果は、表3-8及び図3-8のとおり。

- 「不満」が29.2%、「やや不満」が31.3%となっている
- 「不満」を1点、「満足」を4点とすると平均は2.1点である

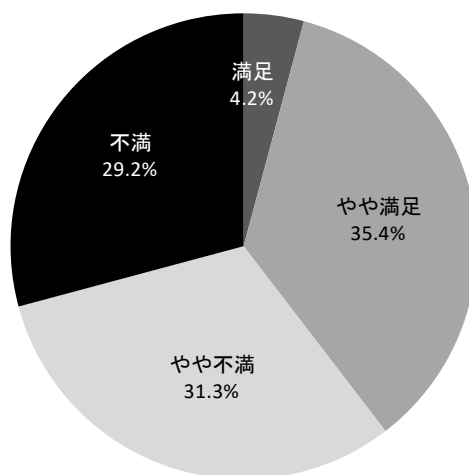


図3-8 日常生活の満足度

表3-8 日常生活の満足度

満足	やや満足	やや不満	不満	回答なし	合計
2	17	15	14	7	48
4.2%	35.4%	31.3%	29.2%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

④-1 満足度の理由について

○④の回答に至った具体的な理由の満足度別の主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

1. 満足

- ・ 充実した生活を送っているため
- ・ 毎日とても充実しているから

2. やや満足

- ・ 毎日、自分らしく時を過ごせているので
- ・ 外出する際、周囲に対して不安感や不便さを感じることもあるが、そのほかは特に不便さを感じずに過ごせたため
- ・ 交通が不便のため諦めることも多い。配偶者の私も視覚障害があり車に乗れないため不便な地域。
- ・ 子供達もそれぞれの方向に進みつつあり同居の年寄り（夫の両親）も前程すき放題のことを言わなくなり精神面で安定している。
- ・ 「見えにくさ」を感じるものの、基本的には一人で移動もできるから。
- ・ 今いきていられることに満足
- ・ 少しでも見えるだけ幸せです
- ・ 外出時、気を遣ったり迷ったりする事もあるが何とか今迄トラブルなく過ごしている。屋内では特に問題なく過ごしている。
- ・ 外出が出来ているので
- ・ ヘルパーさんを利用することが増えた
- ・ 自分なりにストレス解消をしているから

3. やや不満

- ・ 視力が低下し不便な事が増えたから
- ・ 概ね満足した日常生活をおくれたが、1~3月は骨折の為外出、家事も出来なかった。
- ・ 毎年、悪化する事がない。
- ・ 今の生活に慣れたため。
- ・ 調子が好調ではないため
- ・ 満足という理由ではないため
- ・ わずかだが年々視力が低下するため、思いどおり出来なくなる。
- ・ シーネ、ヘッドギアなど着けている。

4. 不満

- ・ 視力障害だから。

- ・ 目の痛みと息苦しさが常にあり、生きていくのが辛い。
- ・ 全然見えない
としを重ねる事に、見えなくなっていて日常生活に支障ある。
- ・ 目が痛く、精神的にも安定せず、肺の状態も悪く、毎日、生きていくのが大変です。
- ・ 不自由が多い
- ・ 身体や目の痛みや苦しさが増している
生活が徐々に苦しくなっている
- ・ 朝起きてから、夜寝るまで、全てが不自由で不便、諦めてはいるが、不満を感じる。
思うようにいかない。
- ・ 視力障害の為、不自由
- ・ 主人の病気との戦いを共にしてきました。
- ・ 普通に、視力があってほしい。（みえてほしい）
- ・ 本人が明るくふるまっている

B票(社会活動を中心とした調査)及びC票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査) からみた生活状況の概要

日常生活の満足度と外出の頻度(第4・四半期)との関係(人数)

	ほぼ毎日	週に4から5回	週に2から3回	月に2から3回	全く外出していない	回答なし	合計
満足	1	1	0	0	0	0	2
やや満足	5	2	6	2	2	0	17
やや不満	5	4	1	4	1	0	15
不満	4	3	3	4	0	0	14
回答なし	0	2	3	2	0	0	7
合計	15	12	13	12	3	0	55

日常生活の満足度と現在行っている社会参加・社会活動等(第4・四半期)との関係(人数)

	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	スポーツ教室、大会などへの参加	旅行・キャンプ・つりなどの活動	趣味の同好会活動	ボランティアなどの社会活動	障害者団体の活動	地域活動	パソコンを利用した社会参加	友達との遊び	その他	回答者数
満足	0	0	0	1	0	1	0	2	1	0	2
やや満足	6	4	4	3	0	4	2	2	4	2	17
やや不満	4	0	1	4	0	5	1	1	2	3	15
不満	4	1	4	3	2	4	1	3	3	3	14
回答なし	1	0	0	2	1	1	0	1	2	0	7
合計	15	5	9	13	3	15	4	9	12	8	55

⑤ 日常生活を満足にするために一番やりたいことについて

○ 日常生活を満足にするために一番やりたいことについてたずねた結果は、表 3-9 及び図 3-9 のとおり（複数回答）。

□ 「旅行・外出」が 51.2%、「趣味」が 25.6%、「コンサートや映画鑑賞、スポーツ観戦」が 18.6%となっている

表 3-9 日常生活を満足にするために一番やりたいこと

コンサートや映画鑑賞、スポーツ観戦	旅行・外出	趣味	社会活動・団体活動	その他	回答なし	回答者数
8	22	11	5	14	12	43
18.6%	51.2%	25.6%	11.6%	32.6%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

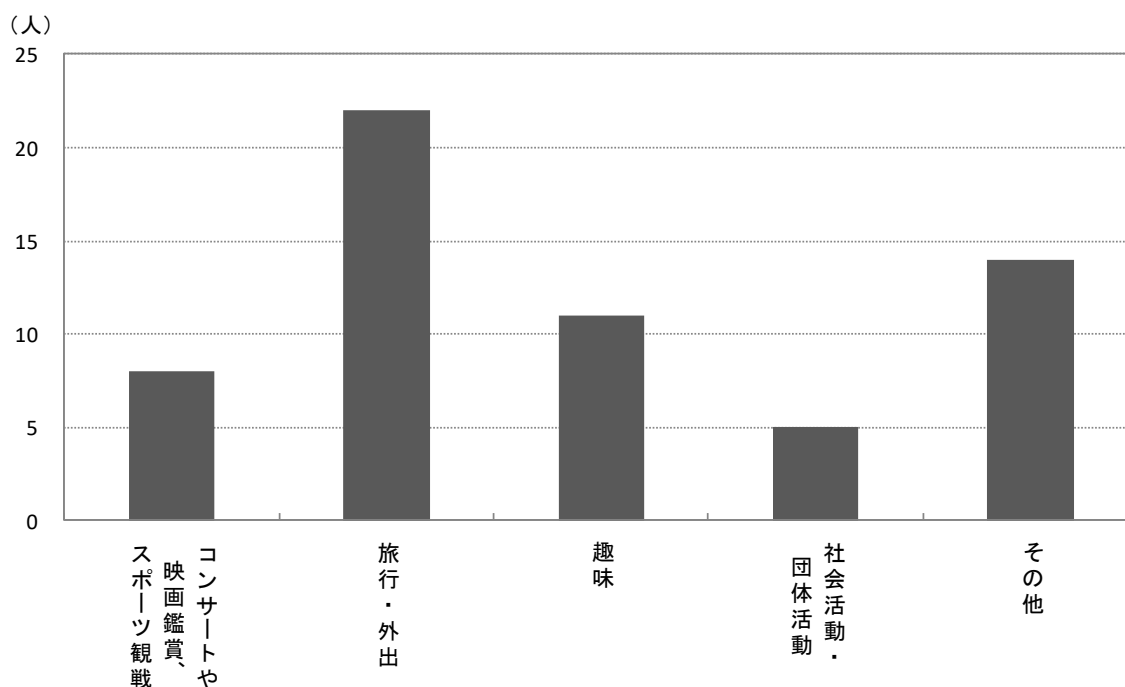


図 3-9 日常生活を満足にするために一番やりたいこと

○ 具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ レストラン等に食事を食べに行きたい
- ・ 温泉地での湯治がしたい。
- ・ 転職
- ・ コンサートや映画鑑賞など行きたい
- ・ ゆっくり病院でみて頂きたい
京都のSJSの専門医に治療をして頂きたい。
それ以上ののぞみはありません
- ・ 視力が出たら海外旅行がしたい。
- ・ 何とか、母の体調が保て、本人は返事も出来ないが、母の小さい時からの話を夜聞かせてあげると本人の人生は8才から止まっているが、母の人生を聞くのはテレビよりも楽しいようである。
- ・ 点字図書館等から借りる、寄せ、落語を聞く事、ほとんど聞いてしまった。
- ・ 眼の具合がよく自分で少しでも動きまわること
- ・ 普通に全てやりたい。（出来る事は）
- ・ 一人暮らし（自律した生活）をし、いくらかでも世の中の役に立つ人間でありたい
- ・ 何もしないでボーっとしていたり
- ・ シーネ、ヘッドギアを着けなくて生きて行く事が出来るようにしたい。
- ・ ショートステイ

⑤-1 実現可能性

○日常生活に満足するために一番やりたいことの実現可能性についてたずねた結果は、表3-10及び図3-10のとおり。

- 「出来ると思う」が21.3%、「やや出来ると思う」が34.0%となっている
- 一方、「出来ないと思う」が23.4%、「あまり出来ないと思う」が21.3%となっている

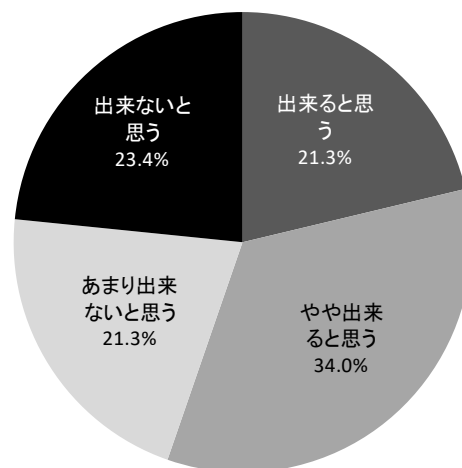


図3-10 実現可能性

表3-10 実現可能性

出来ると思う	やや出来ると思う	あまり出来ないと思う	出来ないと思う	回答なし	合計
10	16	10	11	8	47
21.3%	34.0%	21.3%	23.4%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

⑤-2 実現可能性の理由について

○⑤-1 の日常生活に満足するために一番やりたいことの実現可能性及びその理由の主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 介護保険のヘルパーでは対応できない
- ・ 日程など可能な限り、活動に参加する意思はあるから
- ・ 骨折の影響も少なくなると思うので。
- ・ 遠方への外出が困難。
- ・ 移動などのサポートしてくれる人がいる。
- ・ 見えないため、難しい
- ・ 友人がいないし、家族も、高齢で、一緒に行く人がいません。
- ・ 家族や、ヘルパーさんの協力があるので
- ・ 求職状況がきびしい。
- ・ 時間と気持ちに余裕があればできそうです。
- ・ 興味がわいてきた
- ・ 仕事をしなければならない
経済的にむずかしい
- ・ お金があれば、できると思う。
- ・ 府立医大外園教授に望みをつないで居ります。
- ・ 家族の力を借りれそうだから
- ・ 調子の良い日ばかりではないから
- ・ 目が見えないから、行動するのに一人で行けないから。
- ・ 時間的都合がつかないかもしれない
- ・ 眼が見えない
- ・ 視力がない。
- ・ 介護してくれる人がいるため。
- ・ 視力障害
- ・ いつか、そのようになりたい。
- ・ 実際に活動しているから
- ・ 経費がかかる。視力障害がネックとなる。（カルチャー教室への参加）
- ・ 親と一緒に動けるので
- ・ 妻が仕事をしているので時間がない。
- ・ 近場で温泉とか探す。
- ・ 支援センターなどがいろいろ考えてくれている
- ・ 子供が体調を崩さなかったら行けると思うから。
- ・ 本人が生きて行くのに必要だから。
- ・ かわいそうで。

⑥ 日常生活における工夫点

○ 日常の生活で工夫していることの主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 一年前と同じ
- ・ 今までと同じ
- ・ 家で段差のあるところに目印をつけておく
危ないので、軽い食器を使うようにしている
- ・ 音声付きの映画を見たり、その活動に参加したりして、家に閉じこもらないようにする。
- ・ コミュニケーションをとるようにしている。物の位置、様子を伝えるようにしている。伝えたいことをメモしておく。
- ・ 物の位置をかえない。
- ・ iPadの使用。（音声ガイドなど）
- ・ 患者会の年に1度の情報をたのしみにしている
- ・ ゴーグルで湿度保全
- ・ 外出時は必ずサングラスをつける
常時、目薬をさすので、手指を清潔にする
- ・ 火はあぶないのでオール電化にした。
- ・ 大きな希望を持たない、妥協する。
- ・ 市の「広報」を音声で、送ってもらうことにした。
- ・ 体調管理
- ・ そうなれるよう、情報を収集し、できることから実践している
- ・ 介護とアルバイトの通勤時にスイッチを切り替え（ラジオや音楽で）
- ・ なるべくシーネ・ヘッドギアをはずす時間を作りたいのでひんぱんに面会に行く。
- ・ デイサービスで発散させる（体をたくさん動かす）

⑦ 今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動について（複数回答）

○健康被害者が今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動の内容については、表3-11及び図3-11のとおり（複数回答）。

- 「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が55.1%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が49.0%、「趣味の同好会活動」が28.6%、「スポーツ教室、大会などへの参加」が24.5%となっている
- その他としては「おいしいものを食べあるく」などをあげている

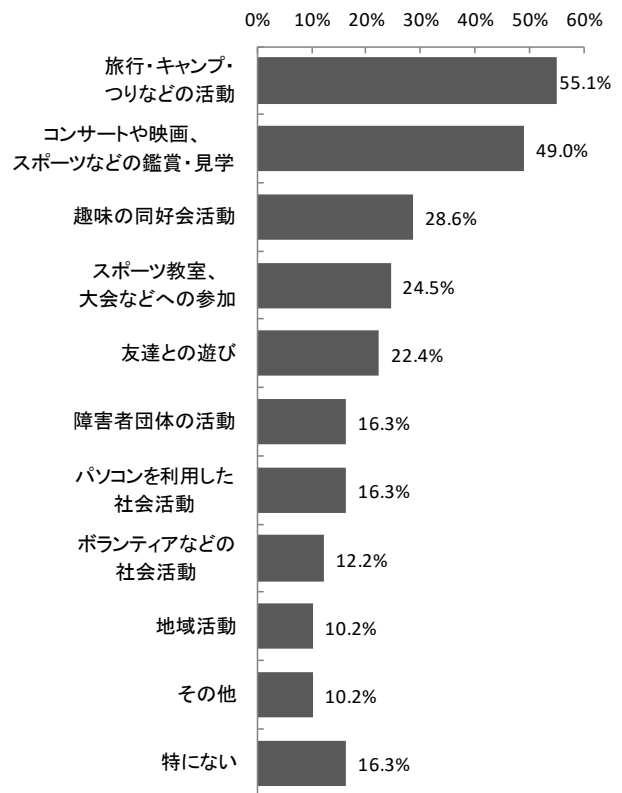


図3-11 今後やってみたい活動等について

表3-11 今後やってみたい活動等について

旅行・キャンプ・つりなどの活動	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	趣味の同好会活動	スポーツ教室、大会などへの参加	友達との遊び	障害者団体の活動	パソコンを利用した社会活動	ボランティアなどの社会活動	地域活動	その他	特になし	回答なし	回答者数
27	24	14	12	11	8	8	6	5	5	8	6	49
55.1%	49.0%	28.6%	24.5%	22.4%	16.3%	16.3%	12.2%	10.2%	10.2%	16.3%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

⑦-1 今後やってみたい活動についての情報取得元（複数回答）

○健康被害者が今後やってみたい活動の情報について、どこから情報を得るかをたずねた結果は、表3-12及び図3-12のとおり（複数回答）。

□「家族友人」が66.7%、「インターネット・情報サイト」が53.8%、「ラジオ」が43.6%、「テレビ」が35.9%となっている

□その他としては「電子図書（Kindleなど）」などをあげている

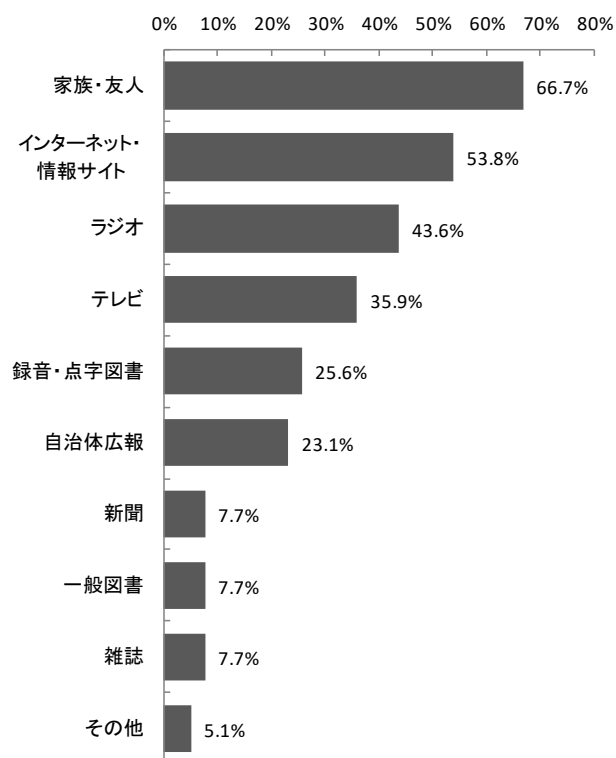


図3-12 今後やってみたい活動等についての情報取得元

表3-12 今後やってみたい活動等についての情報取得元

家族・友人	インターネット・情報サイト	ラジオ	テレビ	録音・点字図書	自治体広報	新聞	一般図書	雑誌	その他	回答なし	回答者数
26	21	17	14	10	9	3	3	3	2	2	39
66.7%	53.8%	43.6%	35.9%	25.6%	23.1%	7.7%	7.7%	7.7%	5.1%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

■ 福祉サービスについて

⑧ 必要な福祉サービスについて（複数回答）

○ 必要な福祉サービスについての主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 年間を通じての福祉サービス契約だけでなく必要な時だけ手軽に利用出来るサービスを考えて頂きたい。
- ・ 最近、地域差があるかもしれないが、ガイドヘルパーが不足していて、家族が都合がつかない時など困ることが多いので、その改善を行政として考えて欲しい。
- ・ 家事援助、全般。
- ・ 福祉サービスは受けていないので、特に要望なし。
- ・ 介護タクシー充実
- ・ 複数の家族（自分だけでない）が障害を持っている家庭の状況も知ってもらい、公的なサービスにつなげてほしい。
- ・ 車がないと移動不便な地域なので、同行援護でもガイドさんの車に乗せてもらえるよう改善してほしい。買い物や何か見に行きたくても殆ど諦めている。
- ・ 自治体によって差がある。同じ障害に対しては、全国同じであってほしい。福祉サービスと介護との有り様が今一わからない。給済制度の認定の方法を現状に合わせて考えてほしい（遺伝子けん査等）
- ・ 福祉サービスを受けるために必要な書類が多すぎる。その場所に行くのも不便。
- ・ 音の出る信号が少ない
- ・ 歩道の整備
無謀な自転車走行の取締まり
歩きスマホ等の歩行の障害となる行動への規制
- ・ 障害者支援費（介護者（含む））への支払金額を、障害者本人に渡すようにしてもらった方が有難い。市や府から、障害者への多額の支援費が支払われているのに殆どが施設に支払われる
- ・ 今のところは特にないが、今後、このまま視力が低下したら必要になってくるだろう
- ・ 今のところ、娘・友人・姉妹に助けてもらい他の人の手はかりなくても成りたっている
- ・ 市によって、”視力障害者”への格差がありすぎて、情報がうけとれない。
- ・ いまのところ利用しているサービスがないので、視力障害の現状が、維持出来るよう全力を上げて、やれることはすべて心がけております。
- ・ 現在の自治体のヘルパー制度は、利用しにくいものになっているので（時間数、サービスなど）当事者（個々）に合わせて、臨機応変にオーダーメイドのサービス提供になる
- ・ 金融機関、各種契約書など自筆を求められるとき、困難な場合があり、なんとかならないものでしょうか。
- ・ 皆さんに親切にやってもらっていると感じているが、言葉使い一つで落ち込む時もある。（人

間ですから、しょうがないが)

- ・ ベッド (パソコンの補助とか) など支給されるものをもっと幅広げてほしい。
- ・ 出掛ける時、1日見てもらえる方が欲しい。
- ・ 親亡き後、当事者の生活が心配なのでグループホームを増やしてほしい
- ・ ショートステイなど利用したい時に空きがない時があり、困る時がある。
- ・ ひんぱんに行く母親の代りに、ヘルパーさん等の派遣が来ると良い。母親が行かれない時には本人はつらい思いをしていると思う。
- ・ 送迎サービス

■ 必要な情報について

⑨ 必要な情報について (複数回答)

○ 現在必要な情報についてたずねた結果は、表 3-13 及び図 3-13 のとおり (複数回答)。

□ 「福祉サービス」が 57.1%、「医療」が 51.0%、「趣味・娯楽」が 32.7%、「健康づくり」が 26.5%となっている

□ その他の必要な情報としては「公共交通機関に関する情報」などをあげている

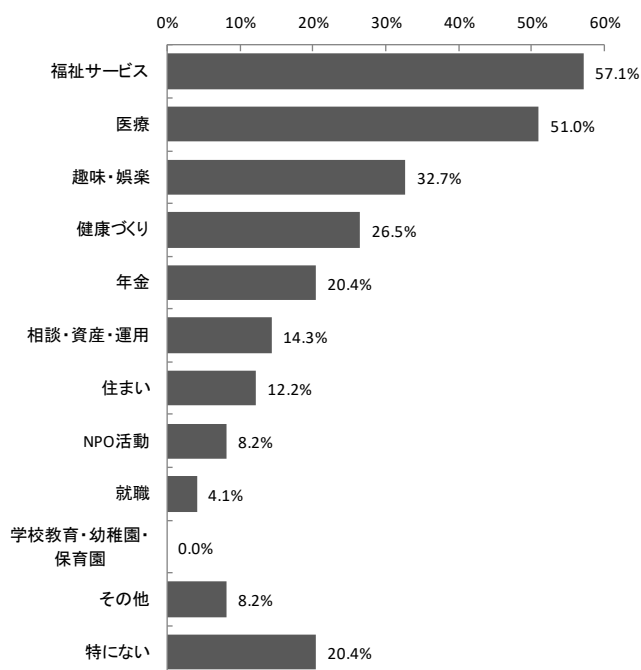


図 3-13 必要な情報について

表 3-13 必要な情報について

福祉サービス	医療	趣味・娯楽	健康づくり	年金	相談・資産・運用	住まい	NPO活動	就職	学校教育・幼稚園・保育園	その他	特にない	回答なし	回答者数
28	25	16	13	10	7	6	4	2	0	4	10	6	49
57.1%	51.0%	32.7%	26.5%	20.4%	14.3%	12.2%	8.2%	4.1%	0.0%	8.2%	20.4%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

○具体的に知りたいことの主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 最新の治療法について。先端医療について（再生医療）の現状。
- ・ どの病院へ行けばSJSの目の治療にくわしいか
- ・ 家族信託について ・ 年金について
- ・ 人工角膜の手術をした人の術後の経過情報
- ・ 映画の映像の解説のある映画館に関する情報。
- ・ 医療は日々進歩していると思う。治すことは望めないが快適に過ごす方法（眼の状態）が知りたい。（医療用コンタクトは本当にありがたい。なければ眼をあけることすら出来ない）
- ・ 今後の通信環境、電化製品
- ・ 視力障害者が受けられる福祉サービスはどんなものがあるのか、障害者総合支援法の内容
- ・ 医学に進歩を期待できるのか（希望がもてる様な答をいただいたことがない）
- ・ 入所中の本人にヘルパーさんの派遣が出来るかどうか。

⑨-1 今必要な情報についての情報取得元（複数回答）

○今必要としている情報について、どこから情報を得るかをたずねた結果は、表3-14及び図3-14のとおり（複数回答）。

□「インターネット・情報サイト」が52.8%、「テレビ」と「家族・友人」が44.4%、「ラジオ」が38.9%、「自治体広報」が27.8%となっている

□その他としては「患者会」「介護職員」「医師、病院」などをあげている

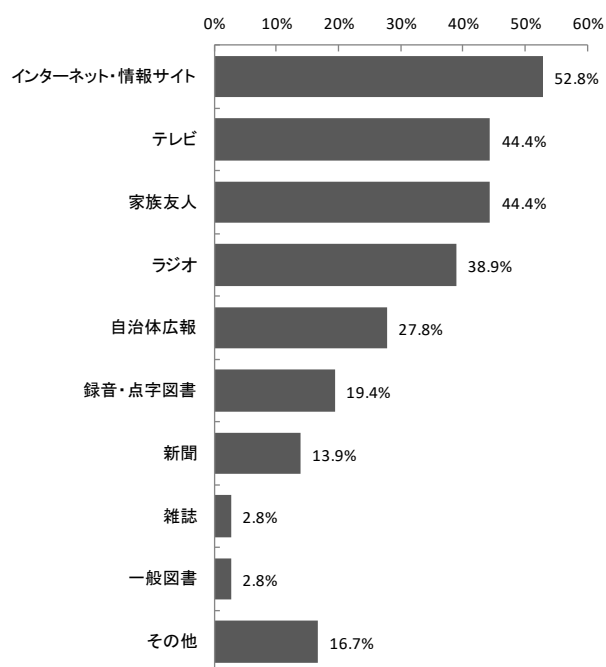


図3-14 必要な情報についての情報取得元

表3-14 必要な情報についての情報取得元

インターネット・情報サイト	テレビ	家族友人	ラジオ	自治体広報	録音・点字図書	新聞	雑誌	一般図書	その他	回答なし	回答者数
19	16	16	14	10	7	5	1	1	6	3	36
52.8%	44.4%	44.4%	38.9%	27.8%	19.4%	13.9%	2.8%	2.8%	16.7%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

Ⅲ む す び

むすび

本報告書は、平成17年度に実施した医薬品の副作用による健康被害実態調査の結果を踏まえ、障害者のための一般施策では必ずしも支援が十分でないと考えられる重篤かつ希少な健康被害者のQOLの向上策及び必要なサービス提供のあり方等を検討するための資料を得るため、平成28年4月1日から平成29年3月31日までの1年間に健康被害を受けられた方々の日常生活の様々な取り組み状況等を調査集計したものです。

日常生活の具体的な工夫事例等については、国際生活機能分類に基づいたライフサイクル（生活環境）ごとにとりまとめています。

今回を含め、11回に亘り調査を実施してきたところですが、本報告書では、医薬品の副作用による健康被害を受けられた調査研究対象者の方々における、日常生活の様々な工夫の実態が明らかとなっております。

その一方で、スティーブンス・ジョンソン症候群（SJS）の方にあっては、視機能障害に対するケアが、ライ症候群の方にあっては、四肢機能改善、拘縮予防目的のリハビリのほか、全介助を必要とする場合は、介助を行うご家族の高齢化も懸念されており、患者家族の肉体的、精神的負担に対する医療的な介入が必要となっている状況が覗えます。

これらの健康被害を受けられた調査研究対象者及び介助を行うご家族のQOL向上の実現のためには、日常生活における工夫だけではなく、更なる医療的な介入、肉体面・精神面でのケアも必要です。

今後もさらに、実態を把握するために、現在の調査項目については、継続して調査を実施することとしております。

IV 參考資料

A票(福祉サービスの利用状況についての調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「2 現在、受けている 以外の福祉サービス」

参考1

内容	性別	年代
透析治療をうけている病院が運営をする介護支援事業所からケアマネジャーの月1回の訪問や相談をうけていました。 ベッド、車椅子、テーブル、スライディングボードなど介護用品の貸し出しをうけていました。	男	60代
ありません	女	60代
入院中	男	20代
ボランティアによる点字指導	男	60代
芸術センターなどへ(親が老齢の為に)移動がなかなか思う様に行けない	男	50代
同行援護(外出) 訪問介護(家事、身体)	女	80代
福祉サービスは受けていません	男	40代
利用していない	男	50代
世田谷区緊急介護人制度	女	70代
京都府立医科大学病院入院中	女	70代
福祉サービスは受けていない。	女	60代
福祉サービスは利用してない	女	60代
動行援護4~5 居宅援護8~9	男	40代
音訳サービス 在宅訪問によるパソコンサポート 在宅訪問による調理訓練	男	40代
音訳サービス 訪問による調理訓練やタブレット訓練	男	40代
受けていない。	男	70代
利用していない	男	40代
サビ工図書	女	60代
必要がない	女	50代
一部個人負担のある横浜市福祉特別乗車券の支給	女	40代

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

A票(福祉サービスの利用状況についての調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「3 障害者総合支援法に基づく福祉サービスで ~ 以外のサービス名」
 内容

内容	性別	年代
歩行訓練	女	30代
家事援助、代筆、代読、身の回りの整理介助	女	40代
パン、陶芸、言語教室	女	60代
水回りの掃除、副菜一品 図書館で本を読んで頂いています。	女	50代
居宅介助	女	50代
対面朗読		
買物代行		
デジター図書		
居宅介護	女	80代
	男	60代
通院等介助(身体介護無)(通院の為に送迎・付添)	男	60代
ホームヘルパー	女	40代
朗読サービスCDの貸し出し	女	70代
ホームヘルプサービス	男	40代
家事援助		
代筆、代読(よみ書き)	男	40代
サビエ図書	女	60代
特になし	女	50代
居宅支援サービス	女	40代
家事援助、買物、粗大ゴミ出し	女	40代

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

A票(福祉サービスの利用状況についての調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「4 介護保険制度に基づく福祉サービスで ~ 以外のサービス名」

内 容	性別	年代
歩行訓練(白杖)	女	30代
社会福祉協議会	女	60代
みどり愛育園入所	男	30代
放課後デイサービス	男	10代
地域活動ホーム、放課後デイサービス	男	10代
一時ケア、放課後等デイサービス	男	10代
居宅移動支援	男	20代
居宅支援事業ヘルパー	男	20代
居宅支援サービス	男	20代
ヘルパー	男	20代
ヘルパー	男	20代
児童デイサービス	女	10代
デジター図書	女	80代
車イス、ベッド、簡易トイレを借りる。	女	70代
前月と同様、車イス、簡易トイレ、ベッド借用。	女	70代
介護保険を使っての手すりの設置	女	70代
居宅サービス(ホームヘルパー) 家事援助、読み書き	男	40代

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

A票(福祉サービスの利用状況についての調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「 - 2 外出するうえで工夫したこと」

参考4

内 容	性別	年代
暗くなら出かけない。	女	50代
なし	女	70代
靴の選択、ベタ靴で転倒防止	女	60代
東京都が発行しているHelpマークを付けている	女	60代
船や鉄道は、係の方に手引き(案内)をお願いする	女	40代
動きやすい靴	女	30代
トイレの介助が体重があり、ヘルパーさんが大変なので、パッドを2枚付けている。(外出前に)	男	10代
外出先での胃ろう注入は、車イスのリクライニングを少し倒すので、その場所が必要となり、S.A.など狭くて利用出来ない事が多い。寒い時は外で注入する。又は車中で行なう。注入物につるりんこを混ぜるので、屋外ではとてもやりにくい。ほこりも心配。そこで、昼注入だけでも、かんたんに注入出来るものに変更してもらいました。高速道路の車イス用駐車場は非常にキケンな所があります。スロープを出すと、一般車の通行する道路上に出してしまう。なかなか車イスの出入りがスムーズに出来ない。この件は申し出ましたが現状は変えられないと返事がありました。気を付けてやります。	男	30代
ひざ掛けでは寒いので上下防寒着を使用している。室内と外との温度差が大きいので注意している。	男	30代
上下完全防寒着を着用する。風当りの少ない場所を選んで散歩する。	男	30代
食事が流動食なので車の中で流せる様にした。	女	30代
車のおりおりにふみ台を買いました。	女	10代
車のシートにオリジナルのベルトを作った。	男	10代
手を離さない。足元に何かある場所は歩かせない。	男	10代
車に手作りのベルトを作った。	男	10代
早い時間、人の少ない時間帯に行く。	男	20代
シグナルエイド(音声信号のあるところ)で音声をならす。ボタンがあってもボタンの位置が判らない時有用)の使用	女	70代
盲導犬の貸与を受けている	女	70代
サイフを落とす事あるので、サイフに鈴をつけた	女	70代
混雑する日、時間をさける	男	40代
航空機内は杖は折りたたみが良い。足も悪いので、杖は太くて使いやすいものを使う	女	60代
雪がふってからは、すべりにくい杖、頭を守る帽子を買った	女	60代
雪や氷の上でもすべりにくい杖をはく。	女	60代
右側歩行(右が見えないため)	女	60代
急がない、あわてない	男	40代
夜になると、暗くて更に見辛くなること、向かいから光が当たる(自動車のヘッドライト等)と眩しくて足元が全く見えなくなる為、日暮までに帰るようにする。	女	40代
盲導犬を同伴	女	40代
以前も書いたが、車椅子にのせて、押し出すと前へずってゆくの、お腹のところは枕をつつみ車の後ろで結んでいる	女	40代

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「 - 2 社会参加・社会活動等のきっかけ」

(1. 家族、親類 2. 友人、知人等 3. 患者団体、同好会等 4. 情報誌や広告等 5. テレビ、ラジオ 6. インターネット 7. 自発的な活動 8. その他)

区分	内 容	性別	年代
1	ゴールデンウィークに家族と旅行した。	女	40代
1	実家への帰省	女	40代
1	子供のすすめ	女	70代
1	家族の進めと、同行	女	60代
1,2	家族や知人からの勧めがあった	男	60代
1,2	家族や友人にさそわれた	女	60代
1,7	夫の休みが取れたから。	女	40代
1,7	京都の眼科へ行った時に、観光もした。	女	40代
2	奈良県の友達にマラソンに参加した事をきき、初めて府内のマラソンに参加。	女	30代
2	鍼灸の勉強会に誘われたから。	男	60代
2	障害者になる前の仲間達が誘ってくれた。	男	60代
2	友人に誘われたため。	男	50代
2	人が誘って下さることは何んでも経験する	女	40代
3	障害者団体の集まりに参加するため	男	60代
3	患者間の交流、これに尽きます。	女	60代
3	障害者団体の活動に継続的に参加している	男	50代
3	市の公報で知ったことがきっかけ。	女	60代
4	市の公報	男	60代
6	メールの知らせ等	男	40代
7	何となく運動不足だったため。	女	60代
7	体力づくりをしようと考えたことがきっかけです	女	60代
7	点字	女	30代
7	気分転換	男	40代
7	趣味、スポーツ	男	50代
7	生きがいを求めて。	女	70代
7	散歩	男	40代
7	パソコン、朗読図書、散歩	男	40代
7	近所の散歩、買物	男	40代
7	本人の興味	女	40代
8	介助してくれる人がいたため	男	50代
8	時間に余裕がある。また健康の為に。	女	60代

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「 - 2 屋内での生活における工夫」

参考6

内容	性別	年代
物をなるべくもたない	女	60代
特になし	女	70代
暗いところがまったくたぐだめなので明るいところへ場所を決めてならべらるようにする	女	60代
蛍光灯をLEDに変えた。明るく経済的でおすすぬ。		
モノを前に並べる	女	60代
奥が見えないので、出来るだけ柵数を増やして見易いようにする。		
鍵の表・裏がわかるように印をつけた。		
照明(採光)の加減		
テーブルと食器の色のコントラストを考えた使用する	男	60代
炊飯器などスイッチ(入・切)に凸シールを貼る 工夫では無いですが読むべえ(読み取り機)が大変役立っています。	女	30代
より安定性のあるイスに交換	女	60代
物をできるだけ置かないようにし、本人が自宅で過ごしやすいようになるように心がけている	男	10代
天井に付いているエアコンの防風対策。風邪をひくのは冷房が入った夏で、インフルエンザや冬の風邪はひいたことがほとんどありません。何年か振りに点滴をしました。(尿路感染)本人の年令も上がり、この先のこと心配です。入所していても、色々心配があり、週に3回は様子を見なければなりません。抑制帯をはずしてフリーな時間を持つ事や、散歩に行く等。本人の生活エリア(サークル内)のクッションやたんたんだんとんに掛けている大バスタオル、大ぬいぐるみ(クッション兼)、おもちゃなどの汚れ落とし、カバー類の定期的な交換等。ベッド生活ではないので、色々と気がかりな事が多い。(気にしていても限がありません、親だけがそう思っている)部屋と場所(6人部屋の位置)が変わった。床頭台やカラーBOXを置くところが狭く、使用しづらい。カラーBOXには、せんたくものを入れているが、出し入れするのが困難な事がある。狭いので工夫の仕様がなない。	男	30代
寝たきりなので、出来るだけ車イスで座らせる様にして、日の照る場所に連れていく。	女	30代
足元につまづき物を置かない。手の届く位置に危ない物をおかない。室温の調整。口に入れて危ないオモチャの除去	男	10代
DVDをレンタルして見させた。	男	20代
ケガのないようすべり止めマットを使う。	男	20代
退屈しないよう、DVD借りて見る。		
シャブナーに輪ゴムをまく	女	80代
柱の角やドア枠の角等は、身体をぶつけ易いので隙き間テープで保護している。	男	50代
浴室、トイレ等すすりをつけた。	女	70代
グラス、カップ、湯飲み等の下に、コースターを敷いている。(テーブルに置いてある位置を安全に、わかる様に。)		
テーブルの上で手をすべらせる様に探れば、入れ物(コップ等)を倒す危険を回避できる。	男	60代
熱い飲み物で火傷をしない様になる		
壊れた食器で怪我をする心配が減る。(万が一の場合を考え、ガラス製品は使用しない。)		
自動電灯	女	70代
正眼者に確認する。	女	60代
ドアノブなど突起している物にあたる(ぶつか)事あるため、カバーをした。	女	70代
コンセントは、つけたままにしておく。(コンセントさし込みをするのが困難なため)		
ドアノブetc.によくぶつかため、ドアノブに、布を巻いた。	女	70代

内	容	性別	年代
いつもぶつかるドアノブなどに布を巻いた。		女	70代
食器などの整理整頓をしやすい棚の配置		女	60代
扉はすべて開けておく		男	40代
食器等の整理しやすい棚の配置		男	40代
冷蔵庫の賞味期限の確認をヘルパー訪問時にしてもらう		男	40代
郵便受けに点字書籍等大型の封筒が入らない為ドアに袋をさげ入れてもらう		男	70代
ドア、戸はすべて開けておく。		男	40代
物の位置など変える時は必ず、確認と声をかける		女	60代
テレビやラジオをつけておく位置がわかりやすい		女	60代
掃除等見えないのと、体力がないので困っている 休みながらやっている		女	60代
スイッチはなるべくタッチパネル風をさける		男	40代
階段にカラーテープ		女	50代
とびらは全てひき戸		女	40代
靴下を履かない		女	40代
自宅はバリアフリー 実家は日本家屋の為敷居等の段差ありの生活な為、屋内はほとんど素足で生活しています。		女	40代
ガラス食器は無色透明だと見辛いので、使用後はすぐに洗って、直す。太陽の光が眩しいのでブラインドやレースのカーテンで、部屋の中にきつい日光が差し込まないようにする。		女	40代
ガラス(透明)食器は見えづらいので、洗った後はすぐに元の場所に戻す。		女	40代
注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。		女	40代

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「- 5 視力以外の状況」

参考7

内容	性別	年代
眼の大きさがどんどん小さくなる。 週3回透析をうけています。	女	60代
9年前からころんで両足の大腿骨骨折による痛みと車椅子生活になりました。骨粗鬆症 入院中の5月6日に緊急の大腸摘出手術で人工肛門になった。 十二指腸潰瘍で出血で死亡(6月6日)5日間透析もできなかつた。(この間意識もはっきりしていて話もできる状態でした。医師も看護 士も生命力が強いと言っておどろいていました。)	男	60代
22年経過しているのに苦しみから逃れられない。	女	60代
全身けんたい感 脱力感 頭痛	女	60代
食道が細くなったのか、食べ物がよくかんで飲みこもうと思ってもつままる時がある つかれていたり、話しをしすぎるとのどがかれて声 がでなくなる 便秘(粘膜も痛くなる)	男	50代
歯肉炎	女	50代
熱が出やすい	女	50代
1月 今年1月8日いつもこの報告書に記入して貰っていてました主人が亡くなって、途方にくれています。改めて心から有りがた く、感謝の気持ちでいっぱいです。今回は娘(長女)に記入して貰いました。	女	70代
婦人科関係	女	60代
肺の状態が悪化して、人工呼吸器を装着。寝たきりで、食事も話す事もできなくなり、使用している鎮痛剤も効き目が弱くなり、しんど さと痛みで毎日生き地獄だと言っています。(気管切開をして1年になる)ベット上での生活のため腰痛も悪化	男	20代
発症後26年間、咳をしているが、その原因がわからない。今年、呼吸器内科と耳鼻科を受診したが異常無しと言われた。咳が出始め ると、本人は非常に苦しい。	女	60代
歩行困難 難聴	男	80代
腔癒着	女	40代
足のつめ変形	女	30代
脳出血による右半身不随	女	60代
言語(失語)障害 難聴 (視力)等で最悪です。	女	60代
肺マック症の治療中に、更に、アスペルギルスになり、鼻炎が悪化し、痛みがひどく、精神的に耐えられないくらいに、辛いです。目、 耳、めまい、鼻、心臓、肺、肝臓、精神と病気が多すぎて、死にたくなくなります。92才の父が軽度の認知があり86才の母は、認知症で ホームに居ます。両親のためにも、1つでも良いので少しでも病気を治し、親孝行したいです。	女	50代
肺マック症、肺アスペルギルス、アレルギー性鼻炎、帯状疱疹後の体のふらつき、めまい	女	50代
手術後、口を大きくあけられないのと、歯の下の骨とけざっている為、歯が痛い事がたまたまあります	女	80代
皮膚にっしんが出来、毎日、かゆみで苦しんでいます	女	80代
耳、足の指などに霜焼けによくなっています	女	80代
人工股関節置換(両足)	女	80代
右膝変形性膝関節症	女	70代

内容	性別	年代
原因不明の全身の筋肉や関節の痛み。 閉鎖性細気管支炎 緑膿菌への日和感染。 ひどい偏頭痛と眼精疲労。 多くの抗生物質に耐性が出来てしまい、目や肺などに細菌感染を起こしてしまつと抗生物質が効かなくなつてきている。 ひざの治療	女	40代
偏頭痛治療薬 高脂血症治療薬 消化性潰瘍治療薬 など服用 卵巣腫瘍(4cm位)があつて、定期検査を行っている。 逆流性胃炎薬を服用。 めまい、ふらつきがある時がある 手の爪が割れる	女 女 女 女 女	40代 60代 60代 70代 60代
気管支喘息 アトピー性皮膚炎(顔首手等露出している部分は特にかゆみ、が強く眠れない位薬で抑え、ステロイドにより皮膚は黒く、肥厚している) 腹腔内腫瘍にて大腸摘出20cm(2015年1～3月入院) 高熱が続きながら薬がきかず10日位入院してうち手後れになつてし 消化器系で、ぶく膜炎、開腹手術後遺症、二年前に腹腔内膿瘍の後時々腹痛あり、気管支喘息等	男 男 男	40代 40代 40代
てんかん 偏頭痛 寒暖の差や、台風の影響(気圧の変化)でほとんど動けない日がある。これから、気温が下がつて来るので、動けない日が多くなるので不安になる。介護者も身体障害があるので、動く事も出来ず、今後の生活も不安に思う。今、制度が継続する事を切に願います。 目やにが多い 泌尿器や、婦人科も炎症 副腎にも異常あり 顔や体の毛がこい 副腎に異常あり 泌尿器等に異常あり 尿のトラブル(ひん尿、炎症) 脳こうそくの後遺症この薬の副作用で貧血 脳梗塞、下肢静脈血栓、貧血症 皮膚癬痕 口腔内の菌(ドライマウスによる) 口腔と同じで、鼻の奥がとと乾いている。 昨年自宅階段より落下、骨折、入院年内一杯コルセットを使用したせい運動不足と梅雨時と年令か座っていると痛いところだらけと嘆いております。	男 女 女 女 女 男 女 女	40代 60代 60代 60代 60代 40代 50代 40代
8月角膜炎手術の為入院する予定が今回は粘膜炎のみ手術で8/30～9/23日迄府立医科大学外園先生のお世話になりました 10/3日はまだ抜糸が終つておりませんので外来で行くことになっております。同じ病室の方のお話をお聞きしてますと早朝よりの回診、手術、夜間8時から始められた手術が夜間1時半までにおよんだ等々頭がさがる思いで一杯でした。本人は5才に満たない時からですので60才近い方70才をこえてから発症された方のお話し相手と慰め役をかって出ておりました。健康被害者救済部の皆様のおかげで治療に専念させて戴けますこと感謝申し上げます。 冷え性 右膝から右足首の前方にかけてのしびれ 右膝下のしびれ 冷え症	女 女	40代 40代

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿つて要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)から見た生活状況の概要
 男女別・年代別の「 - 1 主たる介助者の健康状態 詳細」

(1.良好、概ね良好 2.介護の負担減少 3.生活の工夫に関するもの 4.四肢に関するもの 5.内臓機能に関するもの 6.聴覚・呼吸機能に関するもの
 7.眼科領域に関するもの 8.精神面に関するもの 9.年齢面に関するもの 10.その他)

区分	内容	性別	年代
1	高校生なのとすきなことをやらせてもらっているから。	女	40代
1	良い協力者に恵まれています	男	40代
1	いろいろ故障はあるが、日常生活に大きな支障はない。	女	70代
1,2	特に介護が必要ないため	男	60代
1,2	出来ることは自分でしてもらっているので少し手助け。	女	60代
1,2	一人ではなく多くの人達に助けてもらえるから	女	60代
1,4	膝、腰などの痛みがあるが、特に大きな病気はない。	女	70代
1,9	老化にもなう障害はあるものの概ね健康。	女	70代
2	ヘルパーさんやデイへ通所することになり、負担も軽減されているから	男	10代
2,3	本人が同行援護を利用し、ゴルフができるようになり喜んでます。私もその時間余裕ができたから。	男	40代
2,8	介護が負担にはなっていないが今後の事を考えると不安である。	男	50代
3	食事、スポーツなどで体力をつけている。	女	60代
3	薬をのまなくても大丈夫なように、生活指導を受けている(食事、運動、etc)	女	60代
3	健康に気をつけている	女	30代
3	運動週2回、ポジティブな考え方	女	30代
3	地域活動に参加しているから。(運動、ボランティア)	女	40代
3	スポーツ、散歩などほとんど毎日やっている	男	60代
3	食生活等に気をつけている。	男	20代
3	文句は決して言わない。	女	60代
4	腰痛 ひざ	男	50代
4	数年前からひざが変形関節症となり、リハビリが必要	男	20代
4	両手首の関節炎	女	20代
4,5	両膝の半月板断裂	女	20代
4,5	持病の関節痛に加え、不整脈も出て来て、病院へ行く事が多くなった。	男	20代
4,5	不整脈やひざの関節痛など、持病が増えた	男	20代
5	5年前に発症した心筋梗塞と胸椎左骨切のしよじょうが悪化したためADLが困難	男	40代
5	逆流性食道が悪化して、食事がいつものように食べられない事があり、体力が低下した。疲れやすくなった。シーネを少しでもはずしてやりたいと思ったいと思ったい面会数も増えた。	男	30代
5,6	肩痛・腰痛がひどい	女	30代
5,8	5月に入り発作がひどくなり、6月は学校、休み、早退が頻ぱんで、介護が増えてしまい、メンタルにも身体的にも負担がかかっ	男	10代
6	耳が遠くなった。判断能力が低下。	女	60代
6,10	眩暈あり	男	40代
7	視力障害の悪化	男	40代
7,9	視力障害と年をとってきた。	女	60代

区分	内容	性別	年代
8	元気でいなければ...と言う、気持だけ	女	60代
8	少し疲れ気味	男	60代
8,9	本人が障害をうけた8才当時は細い小さい子であったのが寝たまま、座位も会話も出来ぬのに食べる事だけは必死で食べよ うとするので食べるだけが楽しみなので、せめてと食べさせていたら、母よりも身長迄大きくなり、重くなり、母は逆に老化で、目 も耳も悪くなり力もなくなり、よろっているが、せめて母の手でと、頑張っている。それが又健康を保ってくれているようである。	女	40代
8,9	母の老化、然し、母は体力も弱くなり、スロースローの動作になり24時間の時間がなくなり、髪をたく時間もなくなり、他人からみれ ば、不幸にみえるが、不思議は母は、今が一生人生の中で幸せを感じる、せめて母の手で最後までと思っている。	女	40代
8,9	更年期障害により、イライラや体調不良など。糖尿病、高血圧の悪化	男	10代
8,9	更年期という事もあるが、息子の目の状態など考え気持ち的に落ち込みがちになる。	男	20代
8,10	介護者も障害者	男	40代
8,10	仕事が出来ない事に罪悪感を覚える事がある。生活費についての不安等。	男	40代
8,10	障害者、障害の程度が悪くなってきた(通院中)	男	20代
8,10	息子の入院で毎日病院通い	男	60代
8,10	4月1日から主人が入院して6月6日に十二指腸潰瘍で亡くなったので精神的につらくて悲しいです。	男	60代
9	親が高齢、病弱でヘルパーを利用している(介護)であるが(息子(視覚障害)の目となり、外出介助をする事もあり 常に介 護が必要のため	男	40代
9	高齢の為	男	50代
9	抱き方が変わったため体力的におろろろを感じる。	女	10代
9	年齢的に体力が落ちていく。	女	30代
9	本人の視力低下著しく、訴えが多くなっていく。とくに後期高齢期となり、高齢性難聴が年相応となり、本人が反応が遅い、と訴 えられる。老々介護の認識を考えさせられる。	女	60代
9	後期高齢期(75歳)を迎えて、妻の介護に徹するため	女	60代
9	年齢的なもので、物忘れなどが多くなったので、色々問題が起っている。	女	60代
10	身体障害があるので自身の体調管理もあるため	男	40代
10	常に介護、介助が必要のため	男	70代
10	他の家族の緊急入院等たいへんであった	男	40代
10	外出する時は常に介護が必要のため	女	60代
10	入院中	女	70代
10	病院への付き添いなどで、休みがない。	女	40代
10	常に言葉で伝えなくてはならないので疲労が溜まるため。	男	60代
10	介護を必要とする人数が増えた。	男	60代
10	忙しすぎます	女	80代
10	自分自身にも病気がある為	女	80代
10	寝込むことはなかった。	女	10代
10	インフルエンザにかかった	女	10代
10	持病の悪化	女	70代
10	良好という理由でもないため	男	50代

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「 - 1 介護をしていく中で、困ったこと」
 (1.精神面に関するもの 2.肉体型面に関するもの 3.生活面に関するもの 4.経済面に関するもの 5.その他)

区分	内容	性別	年代
1	家族の行動が少しおかしく感じる人がでてきたため、本人がその行動で精神的に不安定がひどくなる	男	50代
1	わかってはいるけれどもお互いにストレスを感じている 思い通りにならない。	男	50代
1	ほんのちよっとしたことであっても減ることのない負担である。	女	60代
1	良くなる見込みもなく、毎日苦しんでいるのを見ても何もしてあげられない。	男	20代
1	はずして遊んだ後、シーネを着けるのが困難。本人は強く拒否をしている。	男	30代
1	抱くのが母しかできないことで、娘を学校を休ませてしまったこと。	女	10代
1	夜眠れない。	女	20代
1	気持ちに余裕がなくなって来た事	男	70代
1	健康被害者に気をつかう事	男	40代
1	本人の体調に気をつかうこと	男	40代
1,2	視力が(全失なわれいき、次は、失明状態にある)心との戦い。	女	30代
1,2	障害者の当事者だけでなく介護者の健康なども歳を重ねると不安になってくる	男	20代
1,2	自身、体調が悪くても、気を遣いながらの生活	男	40代
1,3	書類関係の代理記入、送迎、精神的心配(1人で生活しているため)	女	70代
1,3	新名神高速道路立ち退き転居で発生した脊柱間狭窄症の症状が朝夕に感じられる年齢を迎えて、日々闘いの毎日であることを自覚する。	女	60代
1,3	年齢とともに、今すぐと言う事が増えて、まてなくなつた為、自分との時間調整にこまっています	女	80代
1,3	常に介助者は妻の私でないといけない為(眼薬の介助は1日4回~5回さす)	男	70代
2	介護者の健康状態悪化で思うような対応が出来ない	女	70代
2	視力を失い、すべて言葉で説明しなければならぬ	女	60代
2	本人が大きくなるにつれて体重が増えてきた。	男	10代
2	加齢による体力のおとろえ	女	30代
2	体重が増えて力も強くなり抱きかかえる負担が増えてきた。	男	10代
2	体力に自信がない	男	20代
2	インフルエンザにかかって介護ができない時	女	10代
2	80才になりますと、何事にも時間がかかり思うように出来ず(本人には云えません)	男	50代
2	本人が骨折した為、家事を含め、介護者(夫)の負担が増えた。	女	70代
2	介護者の身体障害の不調	男	40代
2,3	旅行に行ったり、外泊したり、車イスから本人をフロアやたみに車イスに座らせる時降るす時に親2人で力を合わせて行なうが、だんだん力がなくなり、心配になります。自宅にはリフトがありませんが他にはありませんので、抑制帯がなかなか出来上	男	30代
2,3	急に体調くずした時	女	70代
2,3	母が血圧の薬のみ出してから、老化に加えて、動きがスロースローになり24時間、時間が足りない。	女	40代
3	車の運転があやうくなってきている。	女	60代
3	一つの行動に時間がかかり過ぎたりする。	女	60代
3	介護が必要なため、出かける用事をやめる事になったから(楽しみが減った)	男	50代

区分	内容	性別	年代
3	(時間がなかった為)乗る電車までのすき間、導く際の段差等の配りよ。階段等の配りよいろいろ困った。昨年末に実家鹿児島に帰った。電車で羽田まで私が導いた。	男	60代
3	仕事の都合で介助できない時がある	男	60代
3	細かい事に常にフォロワーしなければならぬ。自分でやろうとしているが後始末の方が大変	女	60代
3	使用していたシーネが劣化したので新しいものを作ったが、なかなかうまく行かない。その様子をチェックする必要があり、今まで以上に面会数が増えた。	男	30代
3	急に病院にいかななくてはならない事が多くなった	女	80代
3	生活していく上で常に言葉での説明が必要。最近、伝えた事を忘れる事が多々あり、説明することが増えた。	男	60代
3	トラブルあった時、すぐに行けない事。	女	70代
3	急な用事の際はすぐに人が見つからず親が付添いをする	男	40代
3	病院(通院)の介助 眼薬の介助(本人のこまごました事すべて)	男	70代
3	買い物や用事など急には介助者がいない	男	40代
3	介助者が足りない	男	40代
3	来年受験なので学校推薦をとる為成績を維持し最後の部活(吹奏楽)のコンクールの為時間が足りない。	女	40代
5	後遺症状が多種多様なので、どこの病院にかかれば良いかわからない。	女	40代
5	どこの病院にかかったら良いかわからない。	女	40代
5	医師との信頼関係が得られない。こちらが満足できるような治療が受けられない。	女	40代
5	通院時の介護タクシーが少ない	女	70代
5	病院への面会 介護サービスの申請等	男	40代

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「 - 4 介護をしてくる中で困ったことの解決方法」
 (1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5. 環境因子 6. その他)

区分	内 容	性別	年代
3	元来おしゃべりなので皆んなに聞いてもらってすっきりする。	女	40代
3	精神的に話せて楽になった。	男	20代
3	話すとならなる	男	20代
3	気持ちの上で話すとならくなる	男	20代
5	身内の者に頼んだり、公的な介護制度を利用した	女	60代
5	息子の妻に頼んだ	男	60代
5	まわりの人が助けてくれました	女	80代
5	身内の者に頼んだり、公的な介護制度を利用した	女	60代
5	娘や息子の妻に介助を頼んだ	男	60代
5	子供や友人がわかりに動いてくれました。	女	80代
5	身内の者に頼んだり、公的な介護制度を利用した	女	60代
5	自分が出来ない時は周りがかわってくれる。	女	40代
5	息子・嫁の応援。介護保険利用による介助用品の貸与等、ケアマネージャー等の支援。	女	70代
5	身内の者に頼んだり、公的な介護制度を利用した	女	60代
5	同行援護のおかげでゴルフを本人が始められ充実した生活となった	男	40代
5	娘に介助を代わってもらった	男	60代
5	主人がお正月休みで自宅にいたので	女	10代
6	娘に休んでももらった。	女	10代
6	4月より大学生オリエンテーション、宿題、バイトに追われ母親と接する時間が減ってくる。	女	40代
6	本人にがまんしてもらった。	男	30代

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「 - 5 介護をしていく中で困ったことの解決すると考えられる方法」
 (1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5. 環境因子 6. その他)

区分	内 容	性別	年代
1	本人の症状(視力低下)があるから	女	60代
1	健康被害者の回復、体力、視力が少しでも回復、または希望がもてれば良いと思う	男	40代
1	本人の体力及び視力の回復	男	40代
1,5	同居、視力の回復	女	70代
1,5	ひとりひとりが日々努力して、視力低下と向き合い、すこしでも悪化を防ぐに尽きる。	女	60代
1,5	健康被害者の視力が少しでも回復すれば、前向きに生活できるのではと思う。生活の面でも、障害基礎年金と謝金だけで、余裕があれば少し気持ち楽になるのではと思う。	男	40代
1,6	OT、担当者と私達の意見が合わない。新しく出来上がったシーネの(筒状のもの)直径が小さくなり、付けにくい。本人がとてもしやがって、私には装着出来ません。解決出来ない事がある。	男	30代
2	とりあえず、時間かけてでも体重維持が増加しないようにする	男	10代
3,6	セカンドオピニオンを積極的に行えば解決しそうだが、費用が心配。	女	40代
3,6	インターネットなどでもう一度良く調べること。	女	40代
3,6	数々の病院を積極的に受診してみる。	女	40代
5	ガイドヘルパーを頼めば良いとは思いますが、できるだけ家族で対応したい。今後は手続きする必要がある。	男	60代
5	ヘルパーさん等々への依頼。	女	30代
5	介護タクシーの増加	女	70代
5,6	ボランティアさんを頼むこと。効果的な良い抑制帯が出来ること。抑制帯が不用となる良い状態になること。(たぶん、それはムリだと思います)	男	30代
6	年齢に関することなので難しい。	女	60代
6	病院で診断してもらい、薬を飲むなど	女	60代
6	できない	男	50代
6	むずかしい	男	50代
6	病気の治療	女	70代
6	わからない	女	70代
6	医学の進歩	女	60代
6	まだ、介護、介助出来るが、体力的、精神的に無理そうになったら、考える。	女	60代
6	日常生活での細かい事なので、一緒にいる時以外は?	女	60代
6	本人がどのようにこれから成長していくかわからないので解決はまだ先になると思う	男	10代
6	解決出来ない	男	30代
6	今の所方法を見つけれられない。	女	30代
6	方法が解らない。	女	30代
6	特にならない	男	10代
6	わからない。	女	20代
6	話す事しかできない	男	20代
6	解決は(親)である故一生無いと思います...	男	50代

区分	内 容	性別	年代
6	頑張るしかないですよね。	男	60代
6	ステイプンスジョンソン症候群に対する医療機関の深い理解が広まること。	女	40代
6	制度が障害者と高齢との別で(視)障害と高齢とも外から来てくれる人は偉そうに説教だけ。こちらの事情も知らず、自分達の施設や病院でのやり方はかりで、逆に迷惑であるが、こちらで、自分で、自分の金を払って頼んだ人は忠実に助けてくれる。直	男	40代
6	「金銭である」派遣される介護士でも、看護師でも外から来てくれる人は偉そうに説教だけ。こちらの事情も知らず、自分達の施設や病院でのやり方はかりで、逆に迷惑であるが、こちらで、自分で、自分の金を払って頼んだ人は忠実に助けてくれる。直接、こちらから、支払った方が、思うように助けてくれる故、他からの人は頼まない。	女	40代

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「 - 1 主たる介護者を支えるようなもの」
 (1. 家族 2. 知人・友人 3. ヘルパー・ボランティア 4. 患者会 5. 公的な機関・制度 6. 趣味・外出など 7. その他)

区分	内 容	性別	年代
1	皆で手分けしてやっている	女	60代
1	子供、兄弟	男	60代
1	子どもに時々来てもらう。	女	60代
1,2	姉妹娘友人達がよく手伝ってくれる	女	60代
1,2	友だち、ごども	女	10代
1,2	友人、子供が、私のかわりに母の病院に行ってくれます。	女	80代
1,2	子供、友人には、力になってもらえる事。	女	80代
1,2	友人や、私の子供達が助けてくれます	女	80代
1,2	家族、友人、知人などと話して楽になりました	男	40代
1,2	知人、家族との会話	男	40代
1,2	兄とその奥さん	女	60代
1,2	伯母がお寺にいる為法事の手伝いアルバイトをさせてもらい年配の方々のお話や褒められたりで「メッチャ楽しいワ」と申してお (視)障害(息子)母親と別居でそれぞれにヘルパーは利用しているが、利用出来る時間や内容で限界があり、今は親が読み書 きして居るが、プライベートに関する(と称して)してほしい事が公的な所ではしてもらえないのが困る	女	40代
1,3		男	
1,7	ごどもが小さい時からそうですが、ずっと一人で見て来た。もちろん時々兄弟や夫もささえてくれたが、基本一人でした。	男	20代
2	友人達とおしゃべりや食事。	女	60代
2	友人との会食など	男	60代
2	友人との会話 フィーリングハウスという会での勉強会	女	30代
2	施術をして頂いている会の仲間	女	30代
2	知人との交流	女	30代
2	友人に食事にさそったりしてもらえた。	女	30代
2	友人に相談したり聞くことにより情報交換ができたため。	男	10代
2	友人と話したり情報交換をすること。先生に相談	男	10代
2	友人・知人との交流	女	60代
2	親戚の助け	女	70代
2	友人・知人との会話	男	40代
2,3	ヘルパーさんや友人などいろいろな手に助けられている	男	10代
2,3	ヘルパーさん、友人、学校の保護者との情報交換	女	10代
2,3	ヘルパーさん、友人	女	10代
2,3	公的制度(ホームヘルパー)、親せき	女	70代
2,7	いろいろなる意見やサービスをきいて、	男	10代
3	ガイドヘルパー	女	70代
3	ホームヘルパーさん、ガイドヘルパーさん	男	10代
3	ヘルパーさんやリハビリの先生がほぼ毎日入ってくれて仕事ができるようになっている	男	10代
3	やはりホームヘルパーさんの力が大きい。	男	10代

区分	内 容	性別	年代
4	患者の会の人との会話	男	50代
4	関西懇親会、東京総会で会員各位のご苦勞を拝見したこと。	女	60代
4	視覚障害者の会での交流	女	30代
4	障害を持つ親とのつながりで、話せるだけでよかった	男	20代
4	患者の会で病院や介護施設の情報交換をした	女	70代
4	患者の会で病院や介護施設の情報交換した	女	60代
4	同じ立場の方々に励まされた	男	40代
5	公的制度による金銭的援助	女	60代
5	障害年金で金銭的な心配はない	男	20代
5	音声ガイドのパソコンについて市の福祉センターで相談した	男	60代
5	市立の福祉センターで情報を得た	男	60代
5	いざとなれば、なんとか助けてもらえる国であると思う	女	60代
5	介護保険による介助用品の借用。	女	70代
5,7	病院の相談員等、公的サービス	男	40代
6	肉体的ストレスは精神的なものと連繫すると感じているので趣味や字習、社会参加(情報)を怠ることなく加齢を自らのものとして突き進むことだ	女	60代
6	ファミリーングなどの勉強会に出席	女	30代
6	卒業旅行、3回	女	40代
7	病院	女	70代
7	健康に過ごせる 感謝。	女	60代

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「 - 2 介護者の社会参加・社会活動等のきっかけ」
 (1.家族 2.知人・友人等 3.患者団体・同好会等 4.情報誌や広告等 5.テレビ、ラジオ 6.インターネット 7.自発的な活動 8.その他)

区分	内容	性別	年代
1	家族旅行	女	40代
1,2	友人との話し合い、姉の音楽会への誘い	女	40代
2	友達にさそわれて	男	50代
2	地域の知り合いから小学校にて卓球を楽しむ会に誘われ参加しました。	男	20代
2	近所の方のおさそい	女	30代
2	友人にさそわれて	女	80代
2	知人の勧め	女	70代
2	友人の誘い	女	70代
2	他人との会話のなかに学ぶことが沢山ある為	女	40代
2,6	知人の勧めや、インターネットで情報を得た	男	60代
7	スポーツクラブに入っている	男	60代
7	本人の訴え	女	60代
7	1.同人活動(詩) 2.パソコン	女	60代
7	「土曜会」(文字)15年、パソコン教室(15年)	女	60代
7	近くの小学校で日曜日スポーツを楽しむ会をされていたので、参加しました。	男	20代
7	特に介護を必要とする予定がない時は、出来るだけ活動をするよう心がけている。	女	70代
7	妻の介助で京都の病院に行った時、観光した。	女	40代
7	健康の為	女	60代
7	部活、地域のサークルに入会、習字、ピアノは就学前から習っている。	女	40代
7	学校のクラブ活動、親と一緒に合唱団参加、先生に誘われ勤労者団体の吹奏楽団にも参加。	女	40代
8	特になし。元々やっている。	女	60代
8	もともと趣味でやっていたから	男	60代
8	気分転換	男	40代
8	昔からママ友でグループ活動している	男	60代
8	古くからの友人グループ	男	60代
8	自分の時間が少してきたから	男	50代
8	退職後時間のゆとりが出来たから。	女	70代
8	夏季休暇を利用して。	女	40代
8	散歩	男	40代
8	以前からしている	女	60代

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「 - 1 介護をしていく中で、新しい発見や気分転換などがはかれたこと」
 (1.コンサートや映画等の観賞やスポーツ観戦 2.旅行、外出 3.趣味 4.患者団体等の活動 5.地域活動 6.その他)

区分	内 容	性別	年代
1	コンサートに行けた。	女	10代
1,2	友だちのおしゃべり 弟のサッカー試合をみに行く。	女	10代
2	旅行	女	60代
2	友達とドライブしてランチを食べて気分転換となる	男	50代
2	友人達のおしゃべり等	男	60代
2	友人達との食事会やお茶する。	男	60代
2	友人達との昼食会や旅行	男	60代
2	近くの温泉などに行く	女	30代
2	旅行、友人との食事会 楽しい時間を過ごせました。	女	30代
2	二人でカーブスに行ったり食事に出掛けると楽しく感じました。	女	30代
2	仕事もいき、友人ともランチや飲み会を楽しむ、すごく息ぬぎになる。	男	10代
2	友とランチへ行ったり、料理教室へ行ったりできている。	男	10代
2	北海道旅行へ行った。広い畑、直線道路、野性動物等。	男	30代
2	旅行	女	30代
2	外食と散歩が出来た。	女	30代
2	友人と新しい飲食店に行くこと。メンタル的に疲れている時。	男	10代
2	情報交換		
2	旅行してリフレッシュなど	男	10代
2	旅行に出て、子供と離れてみる。	男	10代
2	友人とのランチ	女	10代
2	家で本人の介助負担が大だったので、外出は気分転換になる。	女	70代
2	友達と会って話が出来た事	女	70代
2	散歩で公園を通る時に季節ごとの草花を見て季節を感じられることが、気分転換になっている	女	60代
2	植物と身体のために歩く事、その程度です。	男	70代
2	色々な方との交流で励まされました。	男	40代
2	健康被害者の「ありがとう」の一言に、支えられている部分がある。ごくたまにはあるが健康被害者と一緒に近所を散歩する事も救われる部分もある。	男	40代
3	障害者基礎年金のみの生活も不安もある。この制度が続く事を常に願っています。		
3	庭造りしているというイライラの気分が落ちつく。	女	60代
3	心理セミナー的な事を一緒に参加している。	女	30代
3	体を動かすことで気分転換している。	女	60代
5	バイトをすることで仲間が増えこれから先の生活につながる様な気がする	女	40代
6	やさしい言葉をかけてもらった時など	女	60代

区分	内容	性別	年代
6	たまたま身体症状がないことと、視力低下が手術(角膜移植)に至っていないのでそういう具体例に接して心の準備が必要であると、強く感じさせられています。	女	60代
6	20年を越えて、薬療の視力低下と闘う 永遠。	女	60代
6	本人の症状は変わらないが、現状を維持していく努力、視力低下、涙(泉停止)を積極的に行なう意欲が失われていないと感じさせられるとき。	女	60代
6	特になし	男	10代
6	1日・同窓生が訪問して来た。	女	30代
6	何事も仕方ないであきらめてしまふ	男	20代
6	少ない時間でも、自分のやりたい事我慢せずやるようにしてリフレッシュできる事もある	男	20代
6	悩みの共有	男	20代
6	柴犬が私をいつもお散歩に助けられています。うれしいです。	男	50代
6	愛犬(柴犬)と散歩、話し相手です。楽しいですよ	男	50代
6	いずれも、それなりに、refreshできる。	女	70代
6	病院のケースワーカーの方が福祉サービスや、傷病手当の手続きや、社保から国保への切替等の手続きをサポートして下さったので助かった。	男	40代
6	自分が元気でしている時は気付かなかった事を人にお願ひする事で色々な見方があり新しい発見	男	40代
6	観葉植物(ほっとした時に植物で元気をもらう)	男	70代
6	特になし	男	70代
6	同行援護のおかげで、その時間有効に使えた。全て介助しなければと気負うことがなくなりました。(私も障害があるため大変で健康被害者からの感謝の気持ち)	男	40代
6	介護をしてもらう母が自分に合せてくれる。	男	40代
6	母親が入院中は伯母の家から通学させてもらえ部活にも専念 吹奏楽コンクールは金賞をとることが出来ました。	女	40代
6	大学の推薦入学に合格とライオンズクラブの奨学生に選ばれ(学校推薦)で10万円のご褒美を頂けたこと	女	40代

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

（票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「-1 通院時に注意している点」

参考15

内 容	性別	年代	備考
普通のタクシー バス停まで迎えに来てもらう 連絡をしておく	男	50代	
慣れた所であっても日々の工事や、道路の状況が変わる為時々、転倒や、ぶつかったり、怪我也有。	男	40代	
妻の私が運転で通院している。	男	70代	
一人では全く外出できなくなっただので配偶者が必ず一緒にいきます	男	40代	
タクシー 特に冬は足元がすべるので車を利用	女	60代	
眼の保護の為にサングラスをつける。	女	40代	
盲導犬の同伴	女	40代	
姉妹や友人達による送迎 娘につきそってももらう事が多いが忙しい時などは友人・隣人も協力してくれる	女	60代	
車の送迎、公共の交通機関(近鉄、桜 京都間)	女	60代	
混雑をなるべくさける。(予約する)	女	40代	
天候が悪い時はタクシー利用	男	60代	
友達にたのんだり、車を出してもらおう	男	40代	

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

（票(1年間取り組みんできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「 - 2 治療を受けるときに注意している点」

参考16

内 容	性別	年代	備考
なるべく同じ病院かかる。(SJSがあると知っているDrに受診する様にしている)	女	70代	
禁忌の薬名を告げる。(バクター、ボスミン)	男	40代	
目が不自由で身体の障害もあることを告げておく	女	60代	
PMDAが発行している受給者カードを出す。	女	60代	
眼科はもろろんの事、内科も永年のかかりつけである。(様子を見ながら薬を出してくれる)	女	60代	
内服のアレルギーに敏感なので、かなり気をつけている。	女	60代	
PMDAが発行している受給者カードを見せる	男	50代	
薬疹によってSJSになったので薬(クスリ)に対して、慎重のうえに慎重、この病気の治療がないことによる失敗だけはさげたい。	女	60代	
治療によってはSJSを告げる	男	20代	
リスク(副作用)の少ない薬にしてみよう。	女	40代	
新しい薬の時は確認する。街のドラッグストアーは利用しない(のみ薬)	女	60代	

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組みできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「 - 3 治療を受けるときに困ったこと」

参考17

内容	性別	年代	備考
SJSの発症原因となる薬品が明確でないので、医師も使用薬品に迷うことが多い。	女	70代	
SJSについて理解している。	女	60代	
ジェネリックの薬に、内科の先生がかえられた為、また薬しんが出て、体調をくずして大変でした	女	80代	
入院中は必要な他科の対応をしてもえなかった	男	40代	
日頃から健康に気をつけていた生活をするようにしている。医師が注意を下さる病院にかかる。	男	70代	
入院した時に見えないので同室の人々に気をつかう トイレや洗面までの間に車イスや点滴用ポール、ワゴン等ぶつからないように気をつかう	女	60代	
なし	男	40代	
SJSと言ったら、薬を出してもえなかったことがある。	女	50代	
処方薬に制限が出る。	女	40代	
診療はみてくれるが以前インフルエンザの時も薬をこわがって出してもらえなかった。	女	60代	
この病気をいやがる(診療その他を)医者が多い。	女	60代	
投薬が慎重にならざるを得ない(使える薬が少ない)	女	40代	
ちゃんと調べて対応してくれる。	女	60代	

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

（票(1年間取り組みできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「 - 4 その他注意している点」

参考18

内 容	性別	年代	備考
薬の処方を受ける際、その副作用について事前に十分な説明を受けているようにしている。	女	40代	
特になし	女	60代	
今は、ジェネリックに変える医院などが増えていますが、体にあわない事が多いので、やめてもらってます。	女	80代	
患者が少ない日時に行く(感染を防ぐ)	男	40代	
スリッパにはきかえの時は、自分のくつに印(クリップ)しておく。	女	60代	
受付やインフルエンザ等書類が多いので困る。			
ある大学病院で「給済金頂いているから、タクシーでも心配ないでしょう」医師から言われ、給済されていないことを説明するのに変った。			
使用してはいけないクスリは必ず伝える。	女	60代	
病気になるように心がけている	男	50代	
加齢ともにあちこち症状が出てきても新薬はこわい。私の未来はどうなるのか、不安だらけ。まいにちが恐怖の生活。	女	60代	
飲み薬はできるだけ飲まない(医師と相談する)	男	60代	
眼圧が高くなっているか常に気をつけている	女	30代	
訪問介護時にノートに記入する様になっている。	女	30代	

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「 - 1 過去にあった困ったこと」

(1.外出に関すること 2.仕事に関すること 3.日常生活に関すること 4.その他)

区分	内容	性別	年代	備考
1	買い物や散歩などで外出する際に介助者が必要なこと	女	60代	
1	外出先の駅等(券売機)コンピニのタッチパネルが増えた	男	40代	
1	縁石で転んで骨折した。	男	50代	
1	新しい所へ行く際、標識が見えないので、目的地に到着するのに時間がかかる。ドライアイで15~20分おきに点眼が必要だが、満員電車やバスでは、人に接触しているので危険を感じる。明かりのない道では、足元が見えないまま歩かないといけないので危険。	女	40代	
1	普段外出は家族の介助を頼っているため家族の都合が悪い時、外出をあきらめる。	男	60代	
1,3	さがし物がみつからない時、介護タクシーが予約でいっぱいの時、お皿etc.割れた時etc	女	70代	
2	身体がつからなくなってきて、仕事(はりきゅう・マッサージ)をするのが非常に苦痛になってきた。死にたいと思うことが多くなってきた。	女	60代	
3	視力が急激に低下したため日常生活のあらゆる点で不便。	男	50代	
3	視力障害の為、転倒し骨折した。	女	70代	
3	自分自身が視覚障害を持っているのに親や弟が衰えて来ているのに面倒を見てやれない	男	40代	
3	ウォーキングもむずかしくなった。今まで何とか出来ていた事がむずかしくなり、たえず介助者が必要なこと。	男	70代	
3	いたみややえにくさがふえた	男	40代	
3	少しずつ、見えにくくなってきているので、読み書きが、大変不自由になってきた。	女	50代	
3	娘達との時間の調整	女	40代	
3	視力が下がってきた。	女	60代	
3	体調により視力が悪くなる日がある	女	60代	
3	主人が亡くなり、一人生活になり、不安と生活面で全体的に困っている。	女	70代	
3	慣れた家でも頭をぶつけてしまった	女	30代	
3	日常的に手助けすることが多くなった	女	60代	
4	医療機関(眼科)を受診した際、医師から風邪をうつされてしまい体調を崩した。	女	40代	
4	抗生剤の効き目が悪くなり、耐性菌がすぐに出てきてしまいなかなか、効果のある抗生剤がなくなってきました。	女	50代	
4	母の老化	女	40代	
4	夫の認知症みみであることで、通院してもらうのが難しくなったのでそろそろガイドをつけてもらってもいいです	女	60代	
4	本人のストレス	男	50代	
4	加齢	女	60代	
4	介護の額が年齢による体力の衰えを感じている。	女	30代	
4	てんかん発作が増えたり、深夜まで起きて寝ない	男	20代	
4	新しいシーネに慣れない。	男	30代	
4	体が大きくなり、介護が大変になってきた	男	10代	

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組みんできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「 - 4 解決策(解決した方)」

(1.心身機能 2.身体構造 3.活動 4.参加 5.環境因子 6.その他)

区分	内 容	性別	年代	備考
1	眼をやすめ、じっとしている	女	60代	
3	ケアマネジャー等のサポートで、介護用品etcのサポートを受けた。	女	70代	
3	その時、ヘルパーさん、親せきetcに連絡した。	女	70代	
3	一応ガイドをつける方向で動いてます	女	60代	
5	人に聞いてもらうことですべて解決	女	40代	
5	母の体調、生活介護リズムを正しく保つこと。	女	40代	
6	色々な抗生剤を、使用して、しのいでいます。	女	50代	
6	解決にむけて、対策を考え中。	男	20代	
6	本人にがまんしてもらう。	男	30代	

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組みんできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「 - 5 解決策(解決していない方)」

(1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5. 環境因子 6. その他)

区分	内 容	性別	年代	備考
1	視力が回復しない限り困難。 この視力での生活に慣れるには、かなりの時間を要すると思う。	男	50代	
1	永遠に解決しない、視力が戻らないから。	女	60代	
1	本人が気をつける事しかない 手を先に出して歩く	女	30代	
3	現在、市役所に相談中です。	女	50代	
3	外部の支援者を探す。	女	30代	
5	身内の者に同伴してもらったことで解決できた	女	60代	
5	バス停が暗くて、バス停前のベンチが見えず、何度も膝をぶつけたので、灯りの設置を市役所等に相談したが、私有施設内なので管轄外ととり合ってもらえなかった。私有施設へ投書したか、聞き入れられるか不明。	女	40代	
5	アルバイトをやめて、常に一緒に行動するしかないが、そうすると気が休まる時間がないのでつらいかも	女	60代	
6	わかりません	女	80代	
6	国がしっかりと取り組むべき	男	40代	
6	国民年金の障害者年金だけで、死ぬまで働かなければ、ならないと思う、不安です 給済制度の認定基準が変 われは苦しみから出るきっかけがあるかもしれない。	女	60代	
6	わからない	男	40代	
6	むずかしい	男	50代	

注)内容につきましても、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「 - 1 満足度の理由」
 (1.満足 2.やや満足 3.やや不満 4.不満)

区分	内 容	性別	年代	備考
1	充実した生活を送っているため	女	40代	
1	毎日とても充実しているから	男	40代	
2	毎日、自分らしく時を過ごせているので	女	80代	
2	外出する際、周囲に対して不安感や不便さを感じることもあるが、そのほかは特に不便さを感じずに過ごせたため	女	60代	
2	交通が不便のため諦めることも多い。配偶者の私も視覚障害があり車に乗れないため不便な地域。	男	40代	
2	子供達もそれぞれの方角に進みつつあり同居の年寄り(夫の両親)も前程すぎ放題のことを言わなくなり精神面で安定している。	女	40代	
2	「見えにくさ」を感じるものの、基本的には一人で移動もできるから。	男	40代	
2	今いきいきと過ごしていることに満足	男	60代	
2	少しでも見えるだけ幸せです	女	60代	
2	外出が出来ているので	女	30代	
2	ヘルパーさんを利用することが増えた	男	10代	
2	自分なりにストレス解消をしているから	女	10代	
3	視力が低下し不便な事が増えたから	男	50代	
3	大むね満足した日常生活をおくれたが、1~3月は骨折の為外出、家事も出来なかった。	女	70代	
3	毎年、悪化する事がない。	女	60代	
3	今の生活に慣れたため。	男	50代	
3	調子が好調ではないため	女	60代	
3	満足という理由ではないため	男	50代	
3	外出時、気を遣ったりまよったりする事もあるが何とか今迄トラブルなく過ごしている。屋内では問題なく過ごしている	男	60代	
3	わずかだが年々視力が低下するため、思いどおり出来なくなる。	男	60代	
3	シーネ、ヘッドギアなど着けている。	男	30代	
4	視力障害だから。	男	60代	
4	目の痛みと息苦しさは常にあり、生きていくのが辛い。	女	40代	
4	全然見えない としを重ねる事に、見えなくなっていて日常生活に支障ある。	女	70代	
4	目が痛く、精神的にも安定せず、肺の状態も悪く、毎日、生きていくのが大変です。	女	50代	
4	不自由が多い	男	40代	
4	身体や目の痛みや苦しさが増えている。生活が徐々に苦しくなっている	女	60代	
4	朝起きてから、夜寝るまで、全てが不自由で不便、諦めてはいるが、不満を感じる。思うようにいかない。	女	50代	
4	視力障害の為、不自由	女	40代	
4	主人の病気との戦いを共にしてきました。	女	70代	
4	普通に、視力があってほしい。(みえてほしい)	女	30代	
4	生きたりは苦しいことだから、この世は苦だから。	女	40代	
4	本人が明るくふるまっている	女	60代	

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

（票(1年間取り組みできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「日常生活を満足するために一番やりたいこと」

参考23

内 容	性別	年代	備考
レストラン等に食事を食べに行きたい	男	70代	
温泉地での湯治がしたい。	女	40代	
転職	男	40代	
コンサートや映画鑑賞など行きたい	男	40代	
ゆっくり病院でみて頂きたい 京都のSJSの専門医に治療をして頂きたい。 それ以上ののぞみはありません	女	60代	
わからない	男	40代	
視力が出たら海外旅行がしたい。	女	40代	
何とか、母の体調が保て、本人は返事も出来ないが、母の小さい時からの話を夜聞かせてあげると本人の人生は8才から止まっているが、母の人生を聞くのはテレビよりも楽しいようである。	女	40代	
点字図書館等から借りる、寄せ、落語を聞く事、ほとんど聞いてしまった。	男	60代	
眼の具合がよく自分で少しでも動きまわること	女	60代	
普通に全てやりたい。(出来る事は)	女	30代	
なし	男	20代	
一人暮らし(自律した生活)をし、いくらかでも世の中の役に立つ人間でありたい	女	40代	
妻が仕事をしているので時間が無い。	男	40代	
何もしないでボーっとしていたい	女	60代	
わかりません	男	10代	
シーネ、ヘッドギアを着けられないで生きて行く事が出来るようにしたい。	男	30代	
ショートステイ	男	10代	

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「 - 2 一番やりたいことを実現できるかどうか」

(1. 経済的理由 2. 健康上の理由 3. 精神的理由 4. 家族や友人に関する理由 5. 周辺の環境 6. その他)

区分	内 容	性別	年代	備考
1	求職状況がきびしい。	男	40代	
1	仕事をしなければならぬ 経済的にむずかしい	女	60代	
1	お金があれば、できると思う。	女	50代	
1,2	経費がかかる。視力障害がネックとなる。(カルチャー教室への参加)	男	60代	
2	骨折の影響も少なくなると思うので。	女	70代	
2	遠方への外出が困難。	女	40代	
2	見えないため、難しい	女	70代	
2	調子の良い日ばかりではないから	女	60代	
2	目が見えないから、行動するのに一人で行けないから。	女	60代	
2	眼が見えない	女	50代	
2	視力障害	女	60代	
2	子供が体調を崩さなかったら行けると思うから。	女	10代	
3,6	時間と気持ちに余裕があればできそうです。	男	40代	
4	移動などのサポートしてくれる人がいる。	女	60代	
4	家族の力を借りれそうだから	女	60代	
4	親と一緒に動けるので	女	30代	
4,5	友人がいらないし、家族も、高齢で、一緒に行く人がいません。	女	50代	
4,5	家族や、ヘルパーさんの協力があるので	女	80代	
4,5	介護してくれる人がいるため。	女	60代	
6	介護保険のヘルパーでは対応できない	男	70代	
6	日程など可能な限り、活動に参加する意思はあるから	男	50代	
6	興味がわいてきた	男	40代	
6	府立医大外園教授に望みをつないで居ります。	女	40代	
6	時間的都合がつかないかもしれない	男	50代	
6	いつか、そのようになりたい。	女	40代	
6	実際に活動しているから	男	40代	
6	妻が仕事をしているので時間がない。	男	40代	
6	近場で温泉とが探す。	女	30代	
6	支援センターなどがいる考えてくれている	男	20代	
6	本人が生きて行くのに必要だから。	男	30代	
6	かわいそうで。	男	10代	

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組みできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「日常生活で工夫したこと」

(1.生活環境、家屋等の構造の工夫 2.サービスの活用 3.補助器具等の活用 4.生活習慣の工夫 5.精神面の工夫 6.その他)

区分	内容	性別	年代	備考
1	家で段差のあるところに目印をつけておく。危ないので、軽い食器を使うようにしている	女	60代	
1	物の位置をかえない。	男	40代	
1	火はあぶがないのでオール電化にした。	女	60代	
2	患者会の年に1度の情報をたのしみに行っている	女	60代	
2	市の「広報」を音声で、送ってもらうことにした。	女	30代	
2	デイサービスで発散させる(体をたくさん動かす)	男	10代	
2,5	そうなるよう、情報を収集し、できることから実践している	女	40代	
3	iPadの使用。(音声ガイドなど)	男	50代	
3	ゴーグルで湿度保全	男	40代	
3,4	外出時は必ずサングラスをつける。常時、目薬をさすので、手指を清潔にする	女	40代	
4	コミュニケーションをとるようにしている。物の位置、様子を伝えるようにしている。伝えたいことをメモしておく。	男	40代	
4	なるべるシーネ、ヘッドギアをはずす時間を作りたいたのでひんぱんに面会に行く。	男	30代	
4,5	音声つきの映画を見たり、その活動に参加したりして、家に閉じこもらないようにする。	男	40代	
4,5	介護とアルバイトの通勤時にスイッチを切り替え(ラジオや音楽で)	女	60代	
5	大きな希望を持たない、妥協する。	女	50代	
5,6	体調管理	女	60代	
6	一年前と同じ	男	60代	
6	特にありません。	女	40代	
6	今までと同じ	女	80代	
6	わかりません。	女	50代	

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組みできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「必要な福祉サービスなどについてご意見、ご要望」
 (1.介護サービス(介助者関係) 2.制度の充実 3.施設面 4.その他)

区分	内容	性別	年代	備考
1	皆さんに親切にやってもらっていると感じているが、言葉づかい一つで落ち込む時もある。(人間ですから、しょうが出掛ける時、1日見てもらえる方が欲しい。)	女	60代	
1	最近、地域差があるかもしれないが、ガイドヘルパーが不足していて、家族が都合がつかない時など困ることが多いので、その改善を行政として考えて欲しい。	女	30代	
1,2	ショートステイなど利用したい時に空きがない時があり、困る時がある。	女	70代	
1,2	ひんぱんに行く母親の代りに、ヘルパーさん等の派遣が出来るが良い。母親が行かれない時には本人はつらい思いをしていると思う。	女	10代	
1,2	家事援助、全般。	男	30代	
2	介護タクシー充実	女	40代	
2	複数の家族(自分だけでない)が障害を持っている家庭の状況も知ってもらい、公的なサービスにつなげてほしい。	女	70代	
2	車がないと移動不便な地域なので、同行援護でもガイドさんの車にのせてもらえよう改善してほしい。買い物や何か見に行きたくても始と諦めている。	男	40代	
2	市によって、「視力障害者」への格差がありすぎて、情報がうけとれない。	男	40代	
2	現在の自治体のヘルパー制度は、利用しにくいものになっているので(時間数、サービスなど)当事者(個々)に合わせて、臨機応変にオーダーメイドのサービス提供になる 金融機関、各種契約書など自筆を求められるとき、困難な場合があり、なんとかならないものでしょうか。	女	40代	
2	ベット(パソコンの補助とか)など支給されるものをもっと幅広くしてほしい。	男	10代	
2	送迎サービス	男	10代	
2,3	親な後、当事者の生活が心配なのでグループホームを増やしてほしい	男	20代	
2,4	年間を通じての福祉サービス契約だけでなく必要な時だけ手軽に利用出来るサービスを考えて頂きたい。	男	50代	
2,4	自治体によって差がある。同じ障害に対しては、全国同じであってほしい。福祉サービスと介護との有り様が今一わからない。救済制度の認定の方法を現状に合わせて考えてほしい(遺伝子検査等)	女	60代	
3	音の出る信号が少ない	女	50代	
3,4	福祉サービスを受けるために必要な書類が多すぎる。その場所に行くのも不便。	女	50代	
3,4	歩道の整備 無謀な自転車走行の取締まり 歩きスマホ等の歩行の障害となる行動への規制	女	40代	
4	福祉サービスは受けていないので、特に要望なし。	女	60代	
4	わかりません	女	80代	
4	障害者支援費(介護者(含む))への支払金額を、障害者本人に渡すようにしてもらった方が有難い。市や府から、障害者への多額の支援費が支払われているのに殆どが施設に支払われる	女	40代	
4	今のところは特にないが、今後、このまま視力が低下したら必要になってくるだろう	女	60代	
4	今のところ、娘・友人・姉妹に助けてもらい他の人の手はかりなくとも成りたっている	女	60代	

区分	内 容	性別	年代	備考
4	いまのところ利用しているサービスがないので、視力障害の現状が、維持出来るよう全力を上げて、やれることはすべて心がけております。	女	60代	

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組みできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「今必要な情報について具体的に知りたいこと」

(1.医療・福祉サービス 2.年金 3.趣味・娯楽 4.住環境 5.社会活動・就職 6.経済面 7.その他)

区分	内 容	性別	年代	備考
1	病気・治療に関する情報が知りたい	男	70代	
1	最新の治療法について。	女	40代	
1	治療に関する情報が知りたい	女	60代	
1	人工角膜の手術をした人の術後の経過情報	男	40代	
1	どの病院へ行けばSJSの目の治療に詳しいか？	女	60代	
1	先端医療について(再生医療)の現状	男	40代	
1	治療に関する情報が知りたい	女	40代	
1	医療は日々進歩していると思う。直すことは望めないがいきいきにすごす方法(眼の状態)が知りたい。(医療用コンタクトは本来にありがたい。なければ眼をあけることすら出来ない)	女	60代	
1	治療に関する事 視力がよくなるわけではなく、わるくなっていくのに、治療を続けていくので、お金がかかるので、年金の減額はさびしいです	男	50代	
1	視力障害者が受けられる福祉サービスはどんなものがあるのか、手続きや費用のこと 本人から申請がなければ、行政側からは知らせはない。障害者総合支援法の内容がよくわからない	男	60代	
1	医学に進歩を期待できるのか、希望がもてる様な答をいただきたいことがない	女	60代	
1	入所中の本人にヘルパーさんの派遣が出来るかどうか。	男	30代	
1,2	福祉と年金	女	60代	
3	映画の映像の解説のある映画館に関する情報。映像がよく見えないので20年近く映画館にも行けてません。	女	40代	
3	今後の通信環境、電化製品	女	40代	
6	家族信託について知りたいです。	女	50代	
7	特になし	女	60代	

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

V 用語の解説

【用語の解説】

1 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

概要

医薬品医療機器総合機構は、平成13年に閣議決定された特殊法人等整理合理化計画を受けて、国立医薬品食品衛生研究所医薬品医療機器審査センターと医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構および財団法人医療機器センターの一部の業務を統合し、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づき平成16年4月1日に設立された。

当機構は、医薬品の副作用や生物由来製品を介した感染等による健康被害に対して、迅速な救済を図り（健康被害救済）、医薬品や医療機器等の品質、有効性および安全性について、治験前から承認までを一貫した体制で指導・審査し（承認審査）、市販後における安全性に関する情報の収集、分析、提供を行う（安全対策）ことを通じて、国民保健の向上に貢献することを目的としている。

名 称：独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

Pharmaceuticals and Medical Devices Agency (PMDA)

設 立：平成16年4月1日

法人の種別：非公務員型独立行政法人

2 医薬品副作用被害救済制度

創設：昭和55年5月1日

医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により入院治療が必要な程度の疾病や障害等の健康被害を受けた方に対して各種の副作用救済給付を行い、被害者の迅速な救済を図ることを目的とし、医薬品医療機器総合機構法に基づく公的制度として設けられた。

救済給付に必要な費用は、医薬品の製造販売業者がその社会的責任に基づいて納付する拠出金が原資となっている。

3 保健福祉事業

保健福祉事業は、昭和54年10月に医薬品副作用被害救済基金（現医薬品医療機器総合機構）が設立される際、救済制度の目的が医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図ることにあり、この目的の達成には、健康被害者について救済給付の支給以外に保健福祉事業を行う必要のある場合が考えられることから法制化された。

当初、事業内容としては、医薬品の副作用による健康被害の治療研究等が考えられていた。

具体的には、救済給付を行った死亡、障害等重篤の事例等について、早期診断、治療等に関する研究を行うことにより、救済給付の受給者及び今後発生する健康被害者の治療に役立てること。

根拠 独立行政法人医薬品医療機器総合機構法（平成14年12月20日 法律第192号）
第三条 独立行政法人医薬品医療機器総合機構（以下「機構」という。）は、医薬品の副作用又は生物由来製品を介した感染等による健康被害の迅速な救済を図り、並びに医薬品等の品質、有効性及び安全性の向上に資する審査等の業務を行い、もって国民保健の向上に資することを目的とする。

第四条～第十四条 略

第十五条 機構は、第三条の目的を達成するため、次の業務を行う。

一 医薬品の副作用による健康被害の救済に関する次に掲げる業務

イ 医薬品の副作用による疾病、障害又は死亡につき、医療費、医療手当、障害年金、障害児養育年金、遺族年金、遺族一時金及び葬祭料の給付（以下「副作用救済給付」という。）を行うこと。

ロ 次条第一項第一号及び第二号に掲げる給付の支給を受ける者並びに同項第三号に掲げる給付の支給を受ける者に養育される同号に規定する十八歳未満の者について保健福祉事業を行うこと。

ハ～ニ 略

二～五 略

2 略

4 ライ症候群【英字】（Reye's syndrome）

インフルエンザや水ぼうそう等のウイルス性疾患にかかった小児に、アスピリン等のサリチル酸系を投与すると、その後嘔吐、意識障害、けいれん等の急性症状を起こす。予後は悪く死亡率は高い。

5 SJS（スティーブンス・ジョンソン症候群【英字】（Stevens-Johnson syndrome））

皮膚粘膜眼症候群。皮膚粘膜等に発生する高熱性、炎症性の疾患。全身倦怠、食欲不振につづき結膜炎、口内炎、外陰部の炎症を伴う。気管支炎をおこすこともある。原因は不明であるが薬物、ウイルス等が考えられる。

6 QOL（生活の質）【英字】（quality of life）

一般に生活を物質的や技術的で量的側面からではなく、内容としての質的側面から捉え、生活者自身の満足感、幸福感、安心感、安定感等の諸要因のことをいう。医療、福祉、政策、環境等の広い分野で使われ、ADL、IADL、労働問題、情報保障、自己選択、自己決定、自己実現、障害や差別の改善等がある。生活環境を整え、健康で文化的な生活の向上を目指していて、価値観も含む。

7 ADL【英字】（activities of daily living）

日常生活動作の事。人間が毎日の生活を送るための基本的動作の事。

8 IADL【英字】（instrumental activities of daily living）

手段的日常生活動作の事。ADLが食事、入浴、排泄等の日常的の基本動作であるのに対し、IADLは電話の使い方、買い物、食事の支援、家事、洗濯、移動、外出、服薬の管理、金銭の管理の八項目で構成されておりADLで使用する動作を応用した動作が必要な活動を指す。

9 訪問介護（ホームヘルプ）

高齢者、障害者、難病患者等を対象に、家庭等にホームヘルパーを派遣し、入浴、排せつ、食事等の介護、調理、洗濯、掃除等の家事や生活等に関する相談、助言等日常生活上の世話をを行うサービス。巡回型と滞在型がある。

10 訪問入浴介護

介護保険の給付対象となる居宅サービスの1つで、在宅の要介護者等の居宅を訪問して行われる入浴の介護のことを指す。

11 訪問看護

居宅で介護を受ける要介護者・要支援者に、看護師、准看護師、保健師、理学療法士、作業療法士等が訪問して、必要な診療の補助を行うことを指す。

12 訪問リハビリテーション

要介護者等の居宅において、心身の機能の維持回復を図り、日常生活の自立を助けるために行われる理学療法、作業療法、その他必要なりハビリテーションを指す。

13 居宅療養管理指導

医師、歯科医師、薬剤師等が利用者宅を訪問し、療養上の管理や指導を行う介護保険の居宅サービスのひとつ。

14 通所介護（デイサービス）

在宅の高齢者等に施設に通ってもらい、生活指導・機能訓練・食事・入浴・健康チェック等のさまざまなサービスを日帰りで提供するサービス。

15 通所リハビリテーション（デイケア）

精神症状や問題行動が激しい痴呆性老人を対象とするデイケアで、生活機能の回復への訓練や指導、家族に対する介護指導を行う。

1 6 短期入所（ショートステイ）

居宅で暮らす要介護者について、介護を行う者の疾病その他の理由により、老人短期入所施設、特別養護老人ホーム、障害者支援施設等の福祉施設に短期間入所させ入浴、排泄、食事等の介護その他の日常生活上の世話および機能訓練を行うことである。

1 7 移送サービス

交通機関の利用が難しい高齢者や障害者を対象に、運転・介助等を行う送迎サービス。

1 8 同行援護

障害者自立支援法の地域生活支援事業において、視覚障害者が外出する際、その障害者に同行し、移動に必要な情報の提供や移動の援護等を行うこと。

1 9 就労移行支援

就労を希望する 65 歳未満の障害者に対して、生産活動、職場体験その他の活動の機会の提供、その他の就職に必要な知識及び能力の向上の為に必要な訓練、求職活動に関する支援、その適性に応じた職場の開拓、就職後における職場への定着の為に必要な相談、その他の必要な支援を行うこと。

2 0 就労継続支援 A 型

障害により通常の事業所に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が可能である者に対して行う雇用契約の締結等による就労の機会の提供および生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援事業のこと。

2 1 就労継続支援 B 型

障害により通常の事業所に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して行う就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援事業のこと。

VI 保健福祉事業の一環として実施する調査研究報告書
(生活状況調査票)

※記入しないでください。

保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書
(SJS 等用)

第4・四半期分（平成29年1月～平成29年3月）

調査票記入者氏名		本人との関係
----------	--	--------

提出方法

この保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書は、切り離さず基本情報及びA票（毎月記入用）とB票（四半期ごと記入用）とC票（年1回3月末記入用）と併せて4月1日から4月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-2

TEL:03-3506-9460

FAX:03-3506-9439

1. 健康被害者情報

基本情報

(ふりがな)

氏名 _____ 性別 男 女

生年月日 大正 _____ 年 月 日
昭和 _____
平成 _____

自宅住所
(〒 _____)

[電話番号 (_____) _____]
[FAX番号 (_____) _____]

2. 家族構成

同居家族全員を記入してください。

3月末日現在

副作用被害者本人との続柄を お答え下さい。	年 齢	主に介護をしている方に○を 付けてください。
(記入例) 母	(記入例) 60	(記入例) 主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている

3. 障害の種類・程度

級

級

A票

生活状況調査票

毎月記入

1月末日現在

答えられる範囲でお答え下さい。

(1. 点眼液の利用状況)

現在使用している点眼液はどれですか。

① ソフトサンティア	右眼	左眼	② クラビット	右眼	左眼
③ ヒアレイン	右眼	左眼	④ フルメトロン	右眼	左眼
⑤ 0.1%ヒアレインミニ	右眼	左眼	⑥ リンデロン	右眼	左眼
⑦ 0.3%ヒアレインミニ	右眼	左眼	⑧ 血清点眼	右眼	左眼
⑨ その他眼科処方薬 (内服薬を含む)					
(処方薬) 右眼	左眼	
(処方薬) 右眼	左眼	
⑩ 涙点プラグ	右眼	左眼			

(2. 福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。
 現在、受けている福祉サービスはどれですか。あてはまるものに○を付けて下さい。
 (複数回答可)

① 障害者総合支援法に基づく福祉サービス
 → (3. 障害者総合支援法に基づく福祉サービス) へ

② 介護保険制度に基づく福祉サービス
 → (4. 介護保険制度に基づく福祉サービス) へ

③ 上記①, ②以外の福祉サービス

具体的にお書き下さい:

(3. 障害者総合支援法に基づく福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。

各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。

(複数回答可)

① 同行援護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
② 就労移行支援 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
③ 就労継続支援A型 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
④ 就労継続支援B型 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
⑤ 上記以外のサービス 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
(サービス名：)	上記の理由

次頁へ続く↓

(4. 介護保険制度に基づく福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。
各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。
(複数回答可)

① 訪問介護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
介護内容 1. 身体介護中心型 2. 生活援助中心型 3. 通院等乗降介助 4. その他 ()	上記の理由
② 訪問入浴介護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
	上記の理由
③ 訪問看護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
看護内容	上記の理由
④ 訪問リハビリ 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
リハビリ内容	上記の理由
⑤ 居宅療養管理指導 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
指導内容	上記の理由

次頁へ続く↓

⑥ 通所介護 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
介護内容	上記の理由
⑦ 通所リハビリ 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
リハビリ内容	上記の理由
⑧ 短期入所 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
入所内容 1. 短期入所療養介護 2. 短期入所生活介護 (ショートステイ) 3. その他 ()	上記の理由
⑨ 送迎サービス 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
サービス内容	上記の理由
⑩ 上記以外の福祉サービス 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
サービス内容：	上記の理由

B票

生活状況調査票

4半期毎記入

IV期	1月～3月分	平成29年3月末日現在
-----	--------	-------------

答えられる範囲でお答えください。

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答え下さい。

(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

① 健康被害者が過去3ヶ月間に外出しましたか。(いずれか1つに○を付けて下さい。)

1. ほぼ毎日
2. 週に4から5回
3. 週に2から3回
4. 月に2から3回
5. まったく外出していない

①-1 外出された方にお聞きします。

主に誰の介助を受けて外出しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助なし
2. 配偶者
3. 親
4. 子供
5. その他の家族
6. 親戚
7. ホームヘルパー
8. 隣人・知人
9. 雇人
10. ボランティア
11. その他 ()

② 外出するうえで、または、外出しようとするうえで、困ることや不満に思うことはありますか。

1. ない
2. ある

②-1 上記②で「ある。」とお答えいただいた方にお聞きします。

困ること又は不満に思うことの具体的なものは何ですか。

(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助者がいない
2. 経費がかかる
3. 人の目が気にかかる
4. 人と話をすることが困難
5. 外出に必要な情報が得られない
6. 電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便
7. 道路や駅などの公共の場所の利用が不便
8. 利用する建物の設備(階段、トイレ、エレベーター等)の利用が不便
9. 人の混雑や車に身の危険を感じる
10. 駅などにおける人間関係のトラブル
11. その他 ()

次頁へ続く↓

<p>② - 2 外出するうえで工夫したことは何ですか。(該当するもの全てに○を付けてください。)</p> <p>【外出前の準備について】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予め、交通機関(時刻や乗り換えなど)や経路について調べておく 2. 介助者を依頼する(同行支援・行動支援など) 3. コースを事前に決めておく 4. その他()
<p>【服装・持ち物について】(該当するもの全てに○を付けてください。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目立つ服装をした 2. 目の保護のためサングラス、帽子を着用した 3. 白杖の使用 4. 両手が使えるよう、リュックサックを使用した 5. その他()
<p>【移動手段について】(該当するもの全てに○を付けてください。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自家用車を利用(家族、友人・知人による送迎) 2. 介護タクシーを利用 3. 公共交通機関を利用 4. その他()
<p>【上記以外に外出するうえで何か工夫したことがありましたらお書きください。】</p>
<p>③ 健康被害者が過去3ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)などをしましたか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. まったくしていない 2. 参加(活動)した
<p>③ - 1 まったくしていないとお答えになった方にお聞きします。 余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)をしなかった理由は何ですか。 (該当するもの1つに○を付けて下さい。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介助者がいなかった 2. 時間的・経済的余裕がなかった 3. 体力的に余裕がなかった 4. その他()
<p>③ - 2 参加(活動)したとお答えになった方にお聞きします。 余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)をするきっかけについてお書きください。</p>
<p>③ - 3 参加(活動)した方にお聞きします。そればどのような内容でしたか。 (該当するもの全てに○を付けてください。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学 2. スポーツ教室、大会などへの参加 3. 旅行・キャンプ・釣りなどの活動 4. 趣味の同好会活動 5. ボランティアなどの社会活動 6. 障害者団体の活動 7. 地域活動 8. パソコンを利用した社会参加 9. 友達との遊び 10. その他()

次頁に続く↓

<p>④ 屋内での生活で工夫していることはありますか。 1. ある 2. ない</p>
<p>④-1 あるとお答えになった方にお聞きします。 屋内での生活でどのような工夫をされていますか。</p>
<p>【家の造り・動線・物の配置に関するもの】（該当するもの全てに○を付けてください。）</p> <p>1. 通路や床に物を置かない 2. よく使う物は、同じ場所に置く 3. 段差がないように敷物などで調整した 4. 移動の妨げにならないよう、部屋の扉は開けたままにしておく 5. その他（)</p>
<p>【補助用具・音声の活用に関するもの】（該当するもの全てに○を付けてください。）</p> <p>1. 拡大読書器・ルーペの活用 2. 音声ガイドや朗読サービスの活用 3. その他（)</p>
<p>【衛生面・乾燥対策に関するもの】（該当するもの全てに○を付けてください。）</p> <p>1. 乾燥予防のため加湿器を利用している（台数を増やした） 2. こまめな温度調節 3. ハウスダストの徹底した除去（気管支炎など呼吸器系疾患の原因となるため） 4. その他（)</p>
<p>【区別方法に関するもの】（該当するもの全てに○を付してください。）</p> <p>1. 点字シールを付ける 2. カラーテープで目印をつける 3. 室内の動線に、カラーテープや蛍光塗料で目印を付ける 4. その他（)</p>
<p>④-2 上記以外に、屋内での生活で工夫したことがありましたらお書き下さい。</p>

次頁に続く↓

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。
(いずれか1つに○をつけてください。)

- 健康被害を受けた人
- 本人の意向を聞いて介護者が記入
- 本人の意向をくみとり介護者が記入
- 介護者が回答

⑤ 日常生活についてお聞きします。
(各項目の過去3ヶ月間の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)

⑤-1 ものが見えにくいために、新聞や本を読むことはどのくらい不自由ですか。	まったく 不自由 はない ①.....	あまり 不自由 はない ②.....	とても 不自由 ③.....	見えにくい のでやめた ④
⑤-2 目や、目のまわりの痛みや不快感の程度はどのくらいですか。	まったく ない ①.....	かすかに ある ②.....	中くらい ある ③.....	かなり ある ④
⑤-3 ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがありますか。	ない ①.....	ある ②		
⑤-4 物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがありますか。	ない ①.....	ある ②		
⑤-5 視力以外の状況はございますか。(該当するもの全てに○をつけてください。)				
<p>【皮膚や爪に関する症状】</p> <ol style="list-style-type: none"> 皮膚のかゆみ、乾燥 癬痕が残る 爪の変更、剥離 その他 () <p>【内臓機能に関する症状】</p> <ol style="list-style-type: none"> 高血圧 粘膜不全(粘膜部分からの出血等) 心肺機能の低下・異常 肝機能の低下・異常 腎機能の低下・異常 その他 () <p>【聴覚・呼吸機能に関する症状】</p> <ol style="list-style-type: none"> 音声が聞き取りにくい(難聴) 気管支炎、ぜん息 アレルギー性鼻炎 その他 () 				

次頁に続く↓

【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】

1. さかさまつげ
2. ドライアイ（涙が出ないなど）
3. 角膜の炎症
4. その他（)

【口腔に関する症状】

1. 口内炎
2. 味覚障害
3. 口の中が乾く（乾きやすい）
4. その他（)

【精神的な症状】

1. 不安障害
2. 睡眠障害
3. うつ
4. その他（)

【視力以外の症状で上記に掲げたほかにございましたら、お書きください。】

次頁へ続く↓

(主たる介護者の状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。

(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 主として介護をしている配偶者
2. 主として介護をしている親
3. 主として介護をしている兄弟姉妹
4. その他 ()

⑥ お答えいただいた方の健康状態について
(3ヶ月間のあなたの状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)

たいへん	まあ	やや	たいへん
良好	良好	悪い	悪い
①.....	②.....	③.....	④

⑥-1 その理由は何ですか。

⑦ この1年間に介護をしていく中で、
困ったことが、

- | | |
|----------|-------------|
| 1. 増えた | 2. 減った |
| 3. 変わらない | 4. 困ったことはない |

⑦-1 困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。

⑦-2 誰かに相談しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)

※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中のアルファベットに○を付けてください。

- | | |
|--|-------------------|
| 1. 親 (a 父親 b 母親) | 2. 配偶者 (a 夫 b 妻) |
| 3. 子供 (a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻) | |
| 4. 兄弟姉妹 | 5. 祖父母 |
| 6. 友人・知人 | 7. 会社の上司・同僚 |
| 8. 学校の先生 | 9. 医師 |
| 10. 看護師・保健師 | |
| 11. 公的機関の職員等 (a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 c 市(区)役所 d 民生委員 e 身体障害者相談員) | |
| 12. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の保健福祉相談窓口 | |
| 13. 障害者の団体(親、家族の会を含む) | |
| 14. 障害者相談支援センター(相談支援事業者を含む) ※1 | 15. 地域包括支援センター ※2 |
| 16. その他 () | |
| 17. 相談する人はいない | |

※1: 障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。

※2: 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。

次頁へ続く ↓

⑦-3 解決策はありましたか。	1. 解決した	2. していない
⑦-4 解決したと答えた方にお聞きします。それは、どのような方法で解決しましたか。		
⑦-5 していないと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決できると思いますか。		
⑧ 主たる介護者を支えるようなものがありましたか。 (公的制度、友人・知人、ボランティア等)	1. あった	2. なかった
⑧-1 それは具体的にどのようなものですか。		
⑨ 介護者等が過去3ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)などをしましたか。		
1. まったくしていない 2. 参加(活動)した		
⑨-1 まったくしていないとお答えになった方にお聞きします。 余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)をしなかった理由は何ですか。 (該当するもの1つに○を付けて下さい)		
1. 時間的・経済的余裕がなかった 2. 体力的に余裕がなかった 3. その他 ()		
⑨-2 参加(活動)したとお答えになった方にお聞きします。 余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)をするきっかけについてお書きください。		
⑨-3 参加(活動)した方にお聞きします。それはどのような内容でしたか。 (該当するもの全てに○を付けてください。)		
1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学 2. スポーツ教室、大会などへの参加 3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動 4. 趣味の同好会活動 5. ボランティアなどの社会活動 6. 障害者団体の活動 7. 地域活動 8. パソコンを利用した社会参加 9. 友達との遊び 10. その他 ()		
⑩ 介護をしてく中で、新しい発見や気分転換などはかれましたか。	1. あった	2. なかった
⑩-1 あったと答えた方にお聞きします。それはどのようなこと又はどのようなときですか。		

C 票

生活状況調査票

年1回3月末記入

3月末日現在

答えられる範囲でお答えください。
(治療状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

- 1. 健康被害を受けた本人
- 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
- 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
- 4. 介護者が回答

① 健康被害を受けた方の治療状況
(SJS等、副作用による健康被害に関する治療についてお答え下さい。)

- ① 入院中
(いつから入院していますか: 月から 日から)
- ② 通院中(往診含む) (月に 回)

② 副作用の疾患以外で治療を受けるときに注意していることはありますか。

②-1 通院時に注意している点について、該当するもの全てに○をつけてください。

- 1. 事前に交通機関(時刻や乗り換え)やルートを確認しておく
- 2. 通院時にはヘルパー等に同行を依頼する。(一人では外出しない)
- 3. 家族などによる送迎(公共交通機関の利用を避ける)
- 4. 介護タクシーの利用
- 5. その他

(具体的にお書きください:)

②-2 治療を受けるときに注意している点について、該当するもの全てに○をつけてください。

- 1. 既往歴(SJSであることなど)を告げる
- 2. お薬手帳を持参
- 3. 自らが受けている医療について分からないことは、医師、薬剤師、看護師などの医療スタッフに聞くようにしている
- 4. その他

(具体的にお書きください:)

②-3 治療を受けるときに、何か困ったことはありましたか。

- 1. SJSについて、医師が理解していない(又はSJSを知らない)
- 2. SJSであることを告げたら、診療を拒まれた
- 3. その他

(具体的にお書きください:)

次頁へ続く↓

②-4 その他注意している点がございましたら、お書き下さい。

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

③ この1年間で困ったことが、

- | | |
|----------|-------------|
| 1. 増えた | 2. 減った |
| 3. 変わらない | 4. 困ったことはない |

③-1 困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。

③-2 誰かに相談しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)

※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中のアルファベットに○を付けてください。

- | | | | |
|--|------------------|-------------|-------------|
| 1. 親 (a 父親 b 母親) | 2. 配偶者 (a 夫 b 妻) | | |
| 3. 子供 (a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻) | | | |
| 4. 兄弟姉妹 | 5. 祖父母 | 6. 友人・知人 | 7. 会社の上司・同僚 |
| 8. 学校の先生 | 9. 医師 | 10. 看護師・保健師 | |
| 11. 公的機関の職員等 (a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 c 市(区)役所 d 民生委員 e 身体障害者相談員) | | | |
| 12. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の保健福祉相談窓口 | | | |
| 13. 障害者の団体(親、家族の会を含みます) | | | |
| 14. 障害者相談支援センター(相談支援事業者を含む)※1 | | | |
| 15. 地域包括支援センター※2 | | | |
| 16. その他() | | | |
| 17. 相談する人はいない | | | |

※1: 障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。

※2: 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。

次頁へ続く↓

③-3 解決策はありましたか。	1. 解決した 2. していない
③-4 解決したと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決しましたか。	
③-5 していないと答えた方にお聞きします。それは、どのような方法で解決できると思いますか。	
④ 過去1年間の日常生活の満足度を教えてください。（最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。）	満足 やや満足 やや不満 不満 ①.....②.....③.....④
④-1 その満足度の理由は何ですか。	
<p>⑤ 日常生活を満足するために、一番やりたいことは何ですか。最も良く当てはまるものを1つ選んで○を付けてください。</p> <p>1. コンサートや映画鑑賞、スポーツ観戦 2. 旅行・外出 3. 趣味 4. 社会活動・団体活動（患者会の活動も含む） 5. その他</p> <p>（具体的に書きください：</p>	
⑤-1 実現できそうですか。（最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。）	出来る やや出来る あまり出来 出来ない と思う と思う ないと思う と思う ①.....②.....③.....④
⑤-2 その理由は何ですか。	
⑥ 日常生活で工夫したことがありましたら書きください。	

次頁へ続く ↓

⑦ 健康被害者が今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などについて、該当するもの全てに○を付けてください。（複数回答可）

1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学
2. スポーツ教室、大会などへの参加
3. 旅行・キャンプ・釣りなどの活動
4. 趣味の同好会活動
5. ボランティアなどの社会活動
6. 障害者団体の活動
7. 地域活動
8. パソコンを利用した社会活動
9. 友達との遊び
10. その他（)
11. 特にない

⑦-1 その情報はどこから得ますか。該当するもの全てに○を付けて下さい。（複数回答可）

- | | |
|----------|------------------|
| 1. 新聞 | 2. テレビ |
| 3. ラジオ | 4. 一般図書 |
| 5. 雑誌 | 6. 録音・点字図書 |
| 7. 自治体広報 | 8. インターネット・情報サイト |
| 9. 家族・友人 | |
| 10. その他 | |
| (|) |

(福祉サービス)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。（いずれか1つに○を付けてください。）

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

⑧ 必要な福祉サービスなどについてご意見、ご要望などがありましたら自由にお書きください。

次頁へ続く↓

(必要な情報)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

⑨ 今、必要な情報についてお聞かせください。(該当するもの全てに○を付けてください。また、その内容について具体的に知りたいことをお書きください。)(複数回答可)

1. 福祉サービス
2. 医療
3. 年金
4. 住まい
5. 就職
6. NPO活動など
7. 健康づくり
8. 趣味・娯楽
9. 相談・資産・運用
10. 学校教育・幼稚園・保育園
11. その他 ()
12. 特にない

◎具体的に知りたいこと。

[]

⑨-1 その情報はどこから得ますか。該当するもの全てに○を付けてください。(複数回答可)

- | | |
|-------------|------------------|
| 1. 新聞 | 2. テレビ |
| 3. ラジオ | 4. 一般図書 |
| 5. 雑誌 | 6. 録音・点字図書 |
| 7. 自治体広報 | 8. インターネット・情報サイト |
| 9. 家族・友人 | |
| 10. その他 () | |

※記入しないでください。

保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書
(ライ症候群等用)

第4・四半期分(平成29年1月～平成29年3月)

調査票記入者氏名		本人との関係	
----------	--	--------	--

提出方法

この保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書は、切り離さず基本情報及びA票(毎月記入用)とB票(四半期ごと記入用)とC票(年1回3月末記入用)と併せて4月1日から4月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課
〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-2
TEL:03-3506-9460
FAX:03-3506-9439

1. 健康被害者情報

基本情報

(ふりがな)

氏 名 _____ 性別 男 女

大正
生年月日 昭和 年 月 日
平成

自 宅 住 所
(〒 -)

[電話番号 () -]

[FAX番号 () -]

2. 家族構成

同居家族全員を記入してください。

3月末日現在

副作用被害者本人との続柄を お答え下さい。	年 齢	主に介護をしている方に○を 付けてください。
(記入例) 母	(記入例) 60	(記入例) 主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている

3. 障害の種類・程度

級

級

A票

生活状況調査票

毎月記入

1 月末日現在

答えられる範囲でお答え下さい。
(福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。 各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。 (複数回答可)	
①訪問介護 月に 日(回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
介護内容 1. 身体介護中心型 2. 生活援助中心型 3. 通院等乗降介助 4. その他 ()	上記の理由
②訪問入浴介護 月に 日(回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
介護内容	上記の理由
③訪問看護 月に 日(回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
看護内容	上記の理由

④訪問リハビリ 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
リハビリ内容	上記の理由
⑤居宅療養管理指導 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
指導内容	上記の理由
⑥通所介護 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
介護内容	上記の理由
⑦通所リハビリ 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
リハビリ内容	上記の理由

次頁へ続く↓

<p>⑧短期入所 月に 回</p>	<p>満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・・・・・②・・・・・・・・③・・・・・・・・④ ⑤</p>
<p>入所内容</p> <p>1. 短期入所療養介護 2. 短期入所生活介護 (ショートステイ) 3. その他</p> <p>()</p>	<p>上記の理由</p>
<p>⑨送迎サービス 月に 回</p>	<p>満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・・・・・②・・・・・・・・③・・・・・・・・④ ⑤</p>
<p>サービス内容</p>	<p>上記の理由</p>
<p>⑩上記以外の福祉サービス 月に 回 (サービス名)</p>	<p>満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・・・・・②・・・・・・・・③・・・・・・・・④ ⑤</p>
<p>サービス名： サービス内容：</p>	<p>上記の理由</p>

B票

生活状況調査票

4半期毎記入

IV期	1月～3月分	平成29年3月末日現在
-----	--------	-------------

答えられる範囲でお答えください。

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答え下さい。

(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

① 健康被害者が過去3ヶ月間に外出しましたか。(いずれか1つに○を付けて下さい。)
(外出には通園・通学を含みます。以下の質問も同じ。)

1. ほぼ毎日
2. 週に4から5回
3. 週に2から3回
4. 月に2から3回
5. まったく外出していない

①-1 外出された方にお聞きします。

主に誰の介助を受けて外出しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助なし
2. 配偶者
3. 親
4. 子供
5. その他の家族
6. 親戚
7. ホームヘルパー
8. 隣人・知人
9. 雇人
10. ボランティア
11. その他 ()

② 外出するうえで、または、外出しようとするうえで、困ることや不満に思うことはありますか。

1. ない
2. ある

②-1 困ることや不満に思うことがある。とお答えいただいた方にお聞きします。

困ること又は不満に思うことは何ですか。

(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助者がいない
2. 経費がかかる
3. 人の目が気にかかる
4. 人と話をすることが困難
5. 外出に必要な情報が得られない
6. 電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便
7. 道路や駅などの公共の場所の利用が不便
8. 利用する建物の設備(階段、トイレ、エレベーター等)の利用が不便
9. 人の混雑や車に身の危険を感じる
10. 駅などにおける人間関係のトラブル
11. その他 ()

② - 2 外出するうえで工夫したことは何ですか。

③ 健康被害者が過去3ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加（活動）などを行いましたか。

1. まったくしていない
2. 参加（活動）した

③ - 1 参加（活動）した方にお聞きします。それはどのような内容でしたか。
（該当するもの全てに○を付けてください。）

1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学
2. スポーツ教室、大会などへの参加
3. 旅行・キャンプ・釣りなどの活動
4. 趣味の同好会活動
5. ボランティアなどの社会活動
6. 障害者団体の活動
7. 地域活動
8. パソコンを利用した社会参加
9. 友達との遊び
10. その他 ()

④ 屋内での生活で工夫したことがありましたらお書きください。

次頁に続く↓

(主たる介護者の状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。

(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 主として介護をしている配偶者
2. 主として介護をしている親
3. 主として介護をしている兄弟姉妹
4. その他 ()

⑥ お答えいただいた方の健康状態について
(3ヶ月間のあなたの状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)

たいへん	まあ	やや	たいへん
良好	良好	悪い	悪い
①	②	③	④

⑥-1 その理由は何ですか。

⑦ この1年間に介護をしていく中で、
困ったことが、

1. 増えた
2. 減った
3. 変わらない
4. 困ったことはない

⑦-1 困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。

⑦-2 誰かに相談しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)
※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中のアルファベットに○を付けてください。

1. 親 (a 父親 b 母親)
2. 配偶者 (a 夫 b 妻)
3. 子供 (a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻)
4. 兄弟姉妹
5. 祖父母
6. 友人・知人
7. 会社の上司・同僚
8. 学校の先生
9. 医師
10. 看護師・保健師
11. 公的機関の職員等 (a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 c 市(区)役所 d 民生委員 e 身体障害者相談員)
12. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の保健福祉相談窓口
13. 障害者の団体(親、家族の会を含む)
14. 障害者相談支援センター(相談支援事業者を含む)※1
15. 地域包括支援センター※2
16. その他 ()
17. 相談する人はいない

※1: 障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。

※2: 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。

C票

生活状況調査票

年1回3月末記入

3月末日現在

答えられる範囲でお答えください。

(治療状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

① 健康被害を受けた方の治療状況	① 入院中 (いつから入院していますか: から) ② 通院中(往診含む) (月に 回)
② 副作用の疾患以外で治療を受けるときに注意していることはありますか。	
②-1 通院時に注意している点について、該当するもの全てに○をつけてください。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前に交通機関(時刻や乗り換え)やルートを確認しておく 2. 通院時にはヘルパー等に同行を依頼する(一人では外出しない) 3. 家族などによる送迎(公共交通機関の利用を避ける) 4. 介護タクシーの利用 5. その他 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 具体的にお書きください: </div>	
②-2 治療を受けるときに注意している点について、該当するもの全てに○をつけてください。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 既往歴を告げる 2. お薬手帳を持参 3. 自らが受けている医療について分からないことは、医師、薬剤師、看護師などの医療スタッフに聞くようにしている 4. その他 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 具体的にお書きください: </div>	
②-3 その他注意している点	

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

③ この1年間で困ったことが、

- | | |
|----------|-------------|
| 1. 増えた | 2. 減った |
| 3. 変わらない | 4. 困ったことはない |

③-1 困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。

③-2 誰かに相談しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)
※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中のアルファベットに○を付けてください。

- | | | | |
|--|------------------|-------------|-------------|
| 1. 親 (a 父親 b 母親) | 2. 配偶者 (a 夫 b 妻) | | |
| 3. 子供 (a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻) | | | |
| 4. 兄弟姉妹 | 5. 祖父母 | 6. 友人・知人 | 7. 会社の上司・同僚 |
| 8. 学校の先生 | 9. 医師 | 10. 看護師・保健師 | |
| 11. 公的機関の職員等 (a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 c 市(区)役所 d 民生委員 e 身体障害者相談員) | | | |
| 12. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の保健福祉相談窓口 | | | |
| 13. 障害者の団体(親、家族の会を含みます) | | | |
| 14. 障害者相談支援センター(相談支援事業者を含む)※1 | | | |
| 15. 地域包括支援センター※2 | | | |
| 16. その他 () | | | |
| 17. 相談する人はいない | | | |

※1: 障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。

※2: 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。

③-3 解決策はありましたか。

- | | |
|---------|----------|
| 1. 解決した | 2. していない |
|---------|----------|

③-4 解決したと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決しましたか。

③-5 していないと答えた方にお聞きします。それは、どのような方法で解決できると思いますか。

次頁へ続く↓

(福祉サービス)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

⑧ 必要な福祉サービスなどについてご意見、ご要望などがありましたら自由にお書きください。

(必要な情報)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

⑨ 今、必要な情報についてお聞かせください。(該当するもの全てに○を付けてください。また、その内容について具体的に知りたいことをお書きください。)(複数回答可)

1. 福祉サービス
2. 医療
3. 年金
4. 住まい
5. 就職
6. NPO活動など
7. 健康づくり
8. 趣味・娯楽
9. 相談・資産・運用
10. 学校教育・幼稚園・保育園
11. その他 ()
12. 特にない

◎具体的に知りたいこと。

⑨-1 その情報はどこから得ますか。該当するもの全てに○を付けてください。(複数回答可)

- | | |
|-------------|------------------|
| 1. 新聞 | 2. テレビ |
| 3. ラジオ | 4. 一般図書 |
| 5. 雑誌 | 6. 録音・点字図書 |
| 7. 自治体広報 | 8. インターネット・情報サイト |
| 9. 家族・友人 | |
| 10. その他 () | |

VII 健康状態報告書(診断書様式)

※記入しないでください。

健康状態報告書

提出方法

この健康状態報告書は10月1日から12月末日までの間に病院又は診療所で証明してください。

なお、保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書と併せて1月1日から1月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2
TEL 03-3506-9460
FAX 03-3506-9439

健康状態報告書

患者氏名		男・女	生年月日	昭和 平成	年 月 日	カルテNo.
------	--	-----	------	----------	-------	--------

(測定日： 年 月 日)

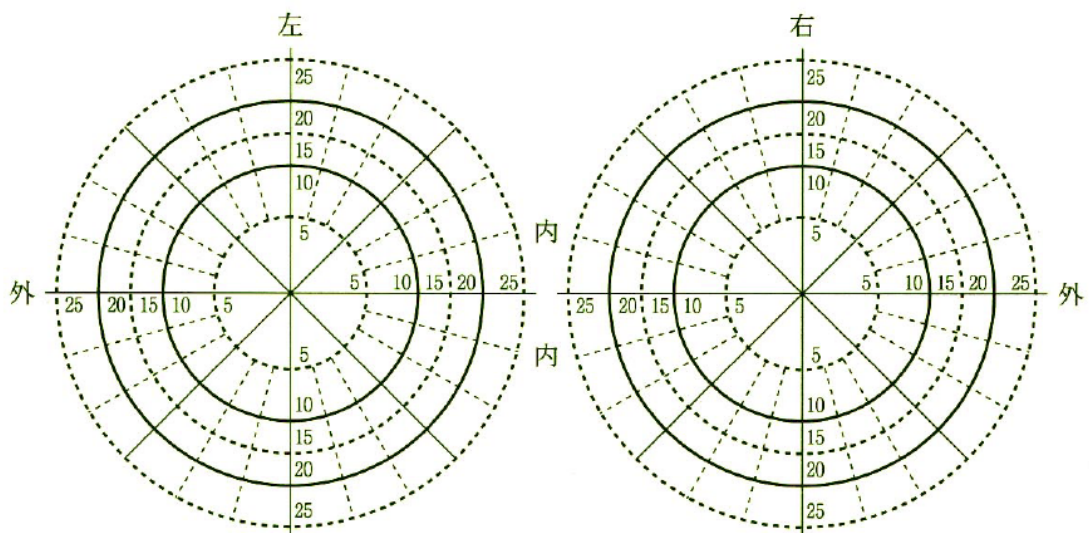
① 視 力 (視力測定の際の照度は200ルクスとします。)

	裸 眼	矯 正	矯正眼鏡
右 眼			D
左 眼			D

② 所 見 (必要なときは適宜図示してください。)

前 眼 部 所 見	中 間 透 光 体 所 見	眼 底 所 見
右	右	右
左	左	左

③ 視 野 (傷病から視野障害を測定する必要があると認めた場合には測定してください。)



④ QOL（生活の質）の改善のために医学的に行えることについてご意見がありましたら具体的にお書きください。（眼科医の視点からのQOL改善について）

⑤ その他に呼吸機能障害、運動機能障害等の症状がある方の現況（眼科医の視点から）

平成 年 月 日

病院又は診療所の名称

診療担当科名
医師氏名

印

所在地 〒

電話番号

－ 2 － 20 －

※記入しないでください。

健康状態報告書

提出方法

この健康状態報告書は10月1日から12月末日までの間に病院又は診療所で証明してください。

なお、保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書と併せて1月1日から1月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2
TEL 03-3506-9460
FAX 03-3506-9439

健康状態報告書

患者氏名		男・女	生年月日	昭和 平成	年 月 日	カルテNo.
------	--	-----	------	----------	-------	--------

① 一般身体所見として特記すべき事項

② 知的障害に関わる所見

③ 神経学的所見

- 起立： 可能 ・ 介助があれば可能 ・ 不可能
- 歩行： 可能 ・ 介助があれば可能 ・ 不可能
- 四肢の運動機能： 自発運動可能 ・ 自発運動不可能
- 深部腱反射： 正常 ・ 亢進 ・ 低下
- 筋トーン： 正常 ・ 亢進 ・ 低下
- その他の神経学的所見

④ 日常生活状況（現在入院中・入所中・その他）

ア 全般的状況について（家庭及び家庭以外の者と対人関係についても具体的に記載してください。）

イ 知的障害に関連した日常生活能力について（該当するものを選んで、いずれか1つを○で囲んでください。）ここで言う知的障害とは、病的体験・欠陥・痴呆・知能遅滞・性格変化等をいいます。

- (ア) 社会生活は普通にできる。
- (イ) 家庭内での日常生活は普通にできるが、社会生活はできない。
- (ウ) 家庭内での単純な日常生活はできるが、時に応じて介護が必要である。
- (エ) 身のまわりのことはかろうじてできるが、適当な介護が必要である。
- (オ) 身のまわりのことは全くできない。

ウ 運動機能障害に関連した日常生活能力について（該当するものを選んで、いずれか一つを○で囲んでください。）

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| ●食事 | ひとりでできる・介助があればできる・経管栄養等 |
| ●用便（月経）の始末 | ひとりでできる・介助があればできる・オムツ |
| ●入浴・洗面・衣服の着脱 | ひとりでできる・介助があればできる |
| ●簡単な買物 | ひとりでできる・介助があればできる・できない |
| ●家族との話 | 通じる　　・少しは通じる　　・通じない |
| ●家族以外の者との話 | 通じる　　・少しは通じる　　・通じない |
| ●刃物・火等の危険 | わかる　　・少しはわかる　　・わからない |
| ●戸外での危険（交通事故等）から身を守る | 守れる　　・不十分ながら守れる・守れない |
| ●その他（ | ） |

⑤ QOL（生活の質）の改善のために医学的に行えることについてご意見がありましたら具体的にお書きください。

平成 年 月 日

病院又は診療所の名称

診療担当科名
医師氏名

印

所在地 〒

電話番号